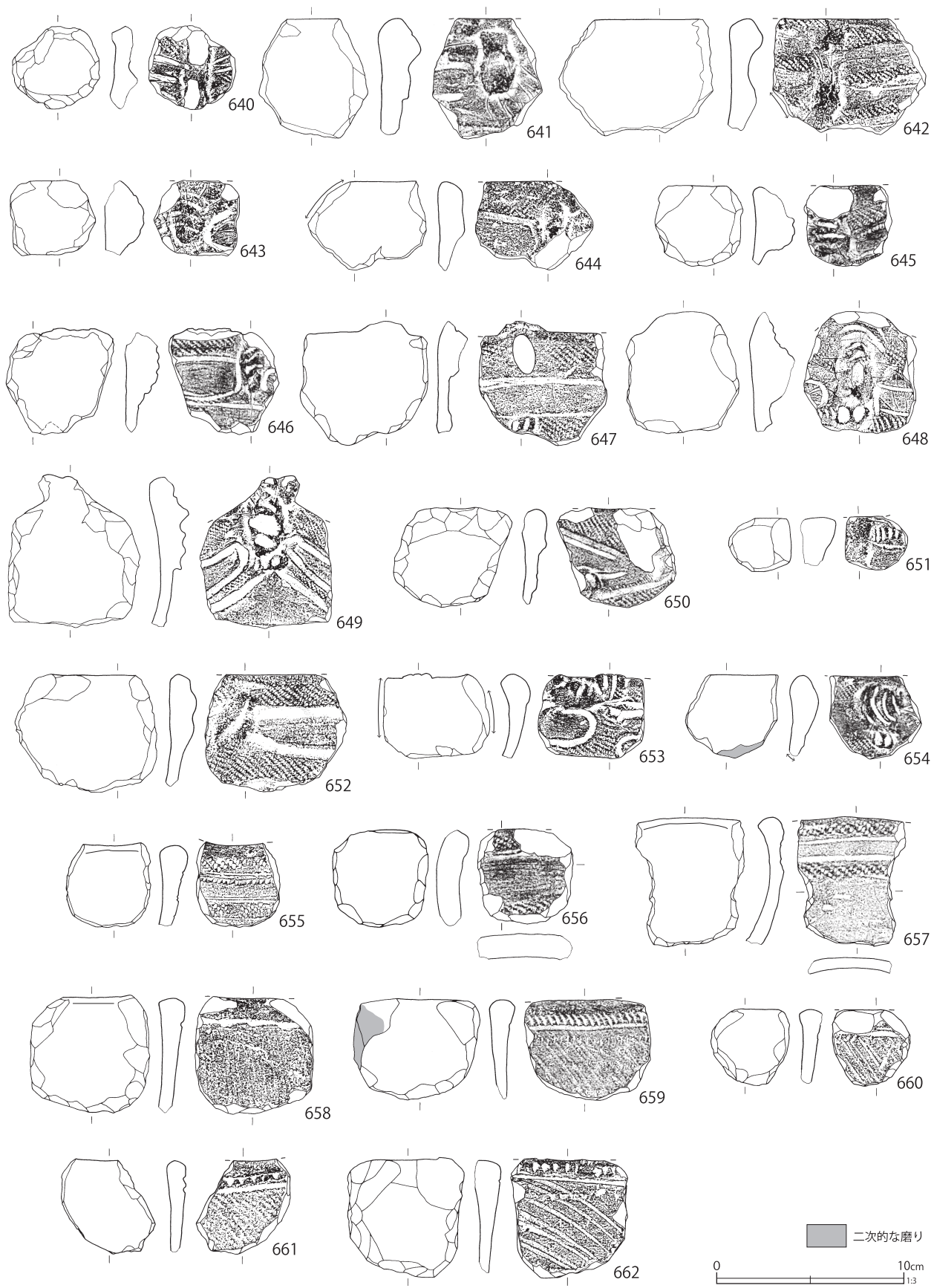


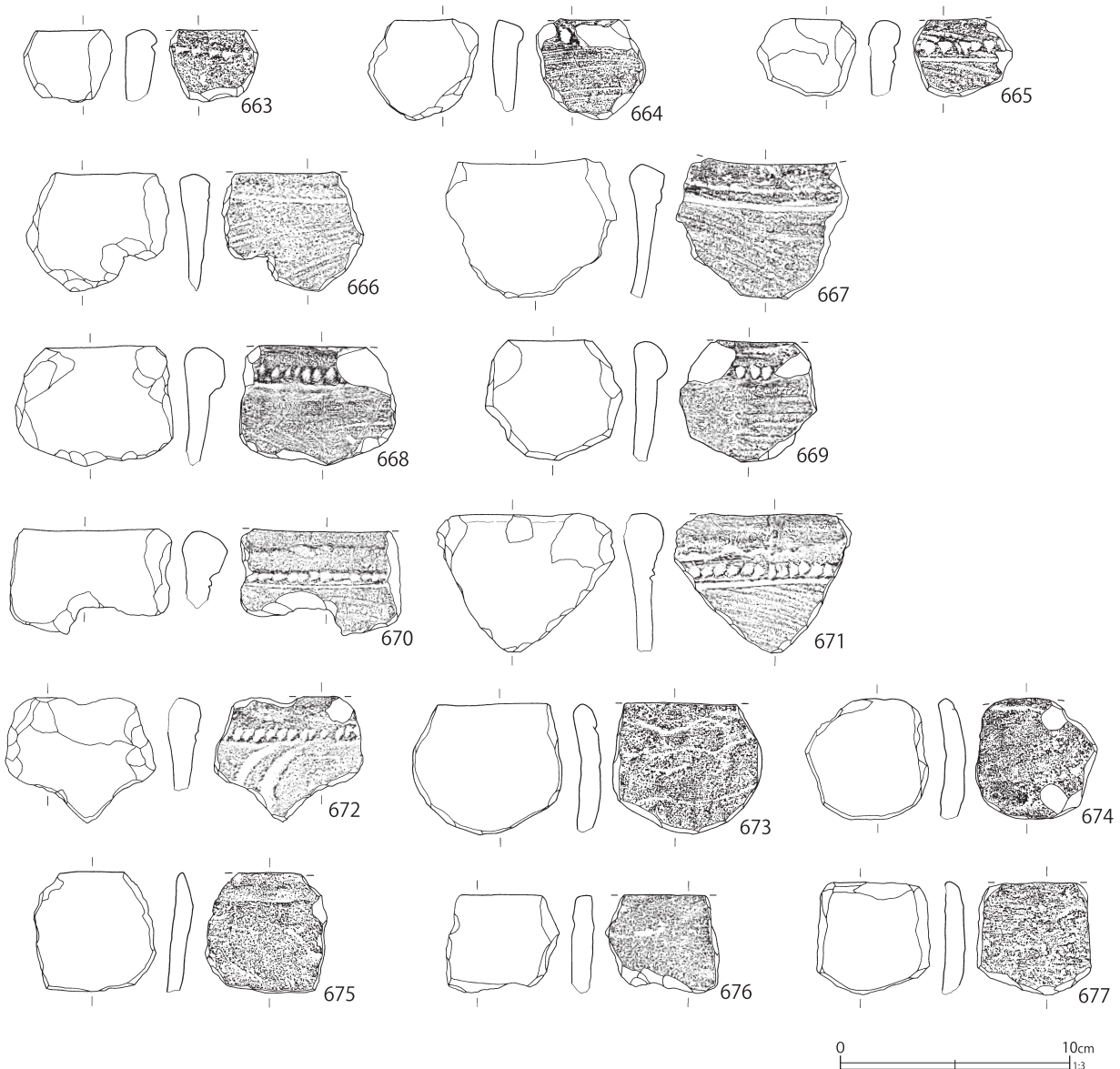
第188図 西斜面出土遺物 (33)



第189図 西斜面出土遺物 (34)



第190図 西斜面出土遺物 (35)



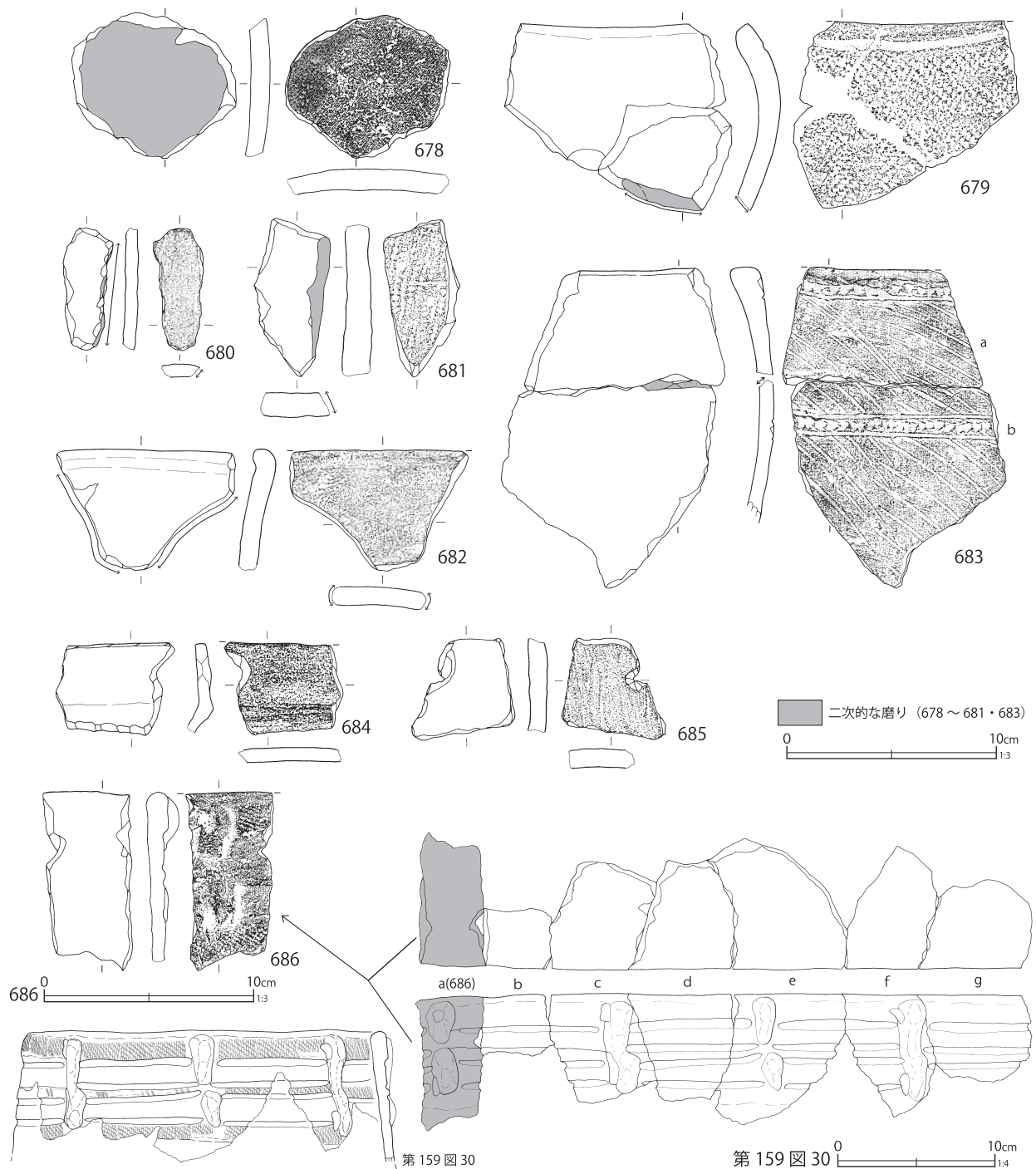
第191図 西斜面出土遺物 (36)

678は表裏面に、また679~683は破断面に形成されている。682は隣り合う二側縁の破断面が、丸みを帯びるように摩耗し、直線的な破断面となるその他の資料とは異質である。679は後項の遺構外出土資料(第208図16)と同一個体の破片である。683はa、bの2片からなる土器で、b側の破断面に、器面と直交方向の擦痕が伴う磨痕が形成される。aとbの接合面には全体的に隙間があり、ぴたりと接合しない。両破片は同一グリッドで出土している。684・685は両面からの加工により小さな抉入部を持つ。

686は安行1式の平口縁深鉢の口縁部破片で、

第159図30の一部である。a~gの7片が横方向に接合し、686(破片a)には側縁の対向する位置に抉入がある。このほか、破片b-c、同c-d、同d-eの接合部には欠落や剥落があり、ぴたりと接合しない。c-d内面側はこれが特に顕著である。出土状況の記録を逸したが、前述の683同様、それぞれが近距離で出土していることから、素材の獲得(土器片の選択)は、西斜面(捨て場)で行われた(廃棄された土器から目的に適う素材を選択する)と見るのが自然である。

土製品 第193図687~694はミニチュア土器とした。687は完形で、その他は欠損しており全体形



第192図 西斜面出土遺物 (37)

は不明である。688・693は文様をもつが、その他は無文である。

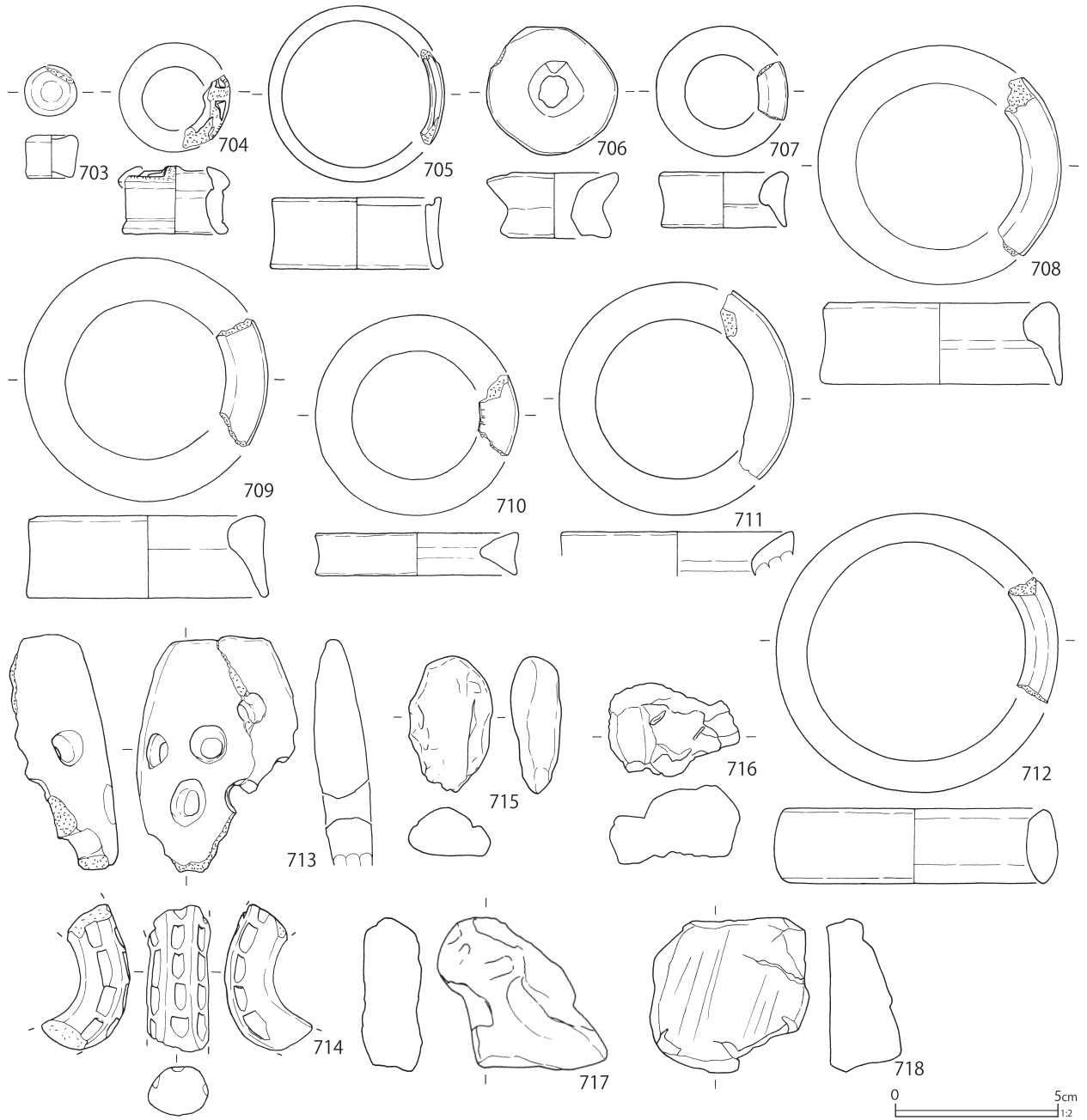
687は丸底で口縁部に向かって内湾する器形である。外面は底部から口縁部方向に、また内面は横方向のケズリである。688の底面付近は断面三角形の深い沈線が巡る。689は口縁部に指頭押圧が明瞭に残る。690は外面をほとんど調整せず、

素地土のひび割れが残っている。691は台付土器の脚部と思われ、外面を丁寧に磨いている。692は丸底状の器形で上部は失われている。外面は部分的に指頭押圧が残りやや歪んでいる。693は横位の隆帯と沈線による文様を描出する。694は底部破片で、底面を平坦にケズリ出す。

残存範囲では地文を持たないが、水場遺構最下



第193図 西斜面出土遺物 (38)



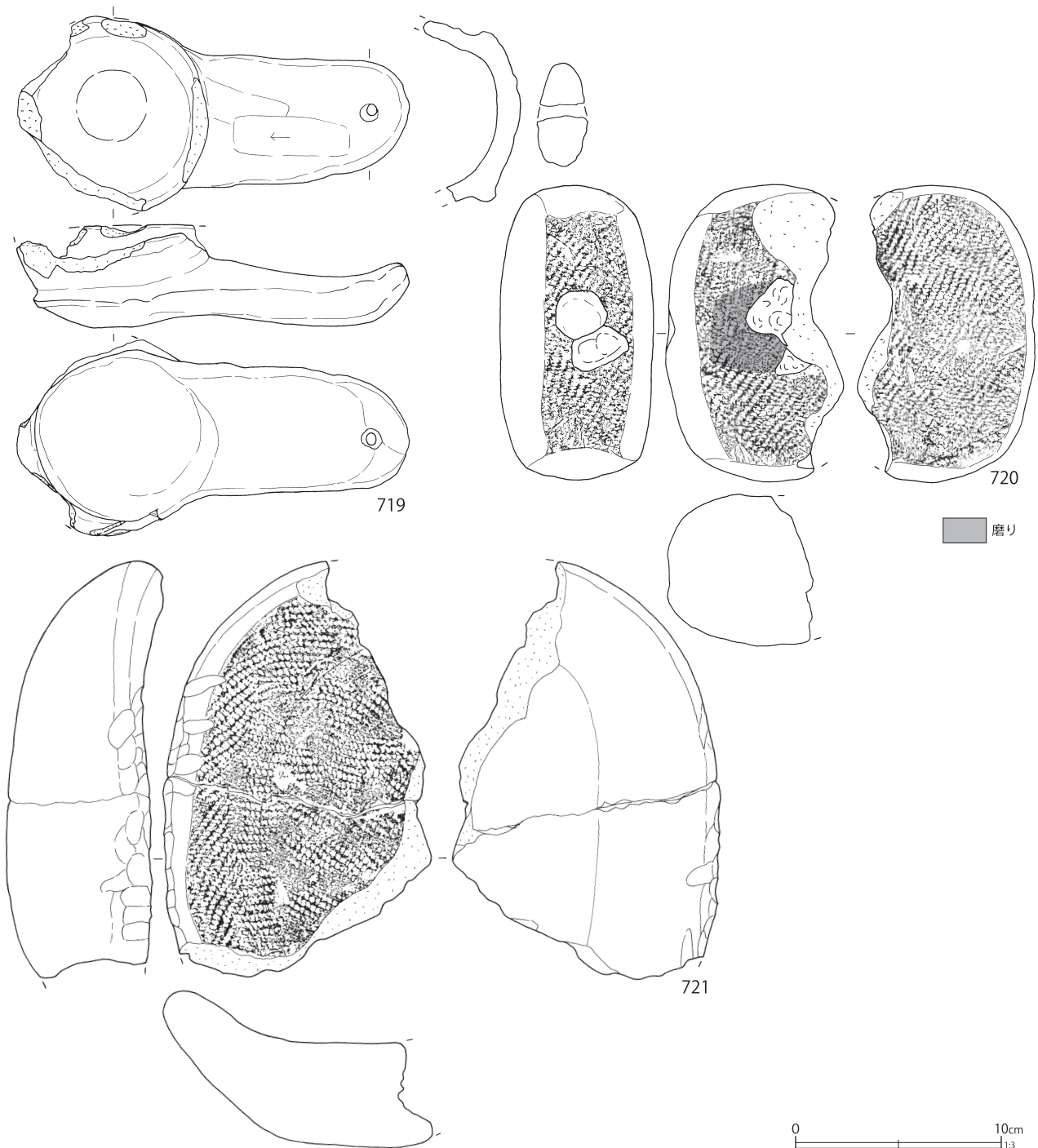
第194図 西斜面出土遺物 (39)

層出土の第106図52と似た作りである。

695～702は土偶である。695は後期中実土偶、698～700はみみずく形土偶の一部で、698は胴部から腕部、699は胴部、700は脚部である。

695の脚部は接地部が幅広、平坦に作られ自立が意識されている。外面は光沢を帯びるほど丁寧に磨かれ、足裏には編組痕が残る。698は強く張り出した肩に短い腕部が付く。肩の上面には渦巻文、外縁部には刻みが入り、背面にRL縄文が施

文される。696・697は脚部破片で、ともに足裏接地部は曲線的で自立を前提としていない。696は腰が張り出しO脚気味である後期中葉頃の土偶であろう。699は四肢の無い胴部破片で、胴部のX字状の隆起部を起点に、沈線や刻み、RL縄文の充填により施文する。背面を平坦に作り、沈線で二重円が描かれる。縄文原体は表裏で二種を使用し、裏面は異なる太さの縄を撚り合わせている。700はみみずく形土偶の脚部破片で内股側には、



第195図 西斜面出土遺物 (40)

699等で見られる、胴部のX字状隆起部から連続する、刻みをもつ隆起部があり、膝と踝付近に三本一對の太い沈線が横走する。内股を除く三面は曲線基調に作られ、光沢を帯びるほど丁寧に磨かれている。一方で内側は、たった2回の上下方向のケズリで直線的に作られている。701は大股で接地部は幅広、平坦に作られ、破片の状態でも自立する。702は脚部全体が沈線で覆われ、膝部に

のみ沈線描出後にRL縄文が施文される。足裏は曲線的に作られ、自立を前提としていない。

第194図703~712は耳飾りで、703・706はほぼ完形、その他は破片である。703は無孔で、その他は有孔である。

703は臼形、無孔の耳飾りで側面一部が欠損する。704は内側にテラス状の張り出しがあり、隆起部には極めて微細な列点を充填する。705は環

状（薄型）で、正面端部に沈線を施し、段状に作り出される。706は側面観が白状で、中央に大きな孔をもつ。文様も無く、指頭による調整が残り、全体的に簡素な印象を受ける。707～711は断面が三角形となる環状の耳飾りで、710は内面側の頂点が中央付近にある二等辺三角形状、前三者は頂点が上方にあり、重心がより上位にある。いずれも明瞭な文様は無く、710の内側の擦痕も、装飾とは思われない。712は断面形が楕円形で、正面上端のみ面取りをしている。

713は筒状の土製品で、直径5～6mm程度の孔が無数に開く。外面はケズリ後部分的なミガキである。

714は正面と両側面に竹管状工具による刺突列を配す弓状の土製品で、把手であろうか。時期は不明だが、施文具は堀之内式期のものに似る。

715～718は焼成粘土塊で、717の胎土は砂粒が多く、715は緻密である。718は可塑段階で平坦面に置かれていた痕跡が見られる。

第195図719は手燭形土製品で、器部の上方に欠損はあるが全形の知れる資料である。把手部を水平に見たとき、台部の底面はかなり下がり、やや器部は前方へ傾いている。台部の稜線は把手部から連続し、器部と台部の境界は強めにナデつけ、稜線を強調させている。把手部は成形段階で上方へ反らせ、中央には小孔を開けている。文様は無く、把手部上面にケズリが見えるほかは、全体的にナデられ、器面はややぼこぼこしている。

720は磨石を、また721は石皿を模倣した土製品で、隣接グリッドで出土した。胎土や焼成、原体に共通性がありセットとして機能した可能性が高い。720は残存率60%程度と見られ、両端部を除く三面に節の細かいRL縄文が施文される。正面中央に摩耗があるほか、正面と側面の中央付近に、あたかも凹石を模したかのような凹穴が形成される。721は有縁石皿の模倣品で、残存率は25%程度と推測される。底部は安定するように平

坦に作られ、外縁は上面と側面に、乾燥が進んだ段階での、棒状工具による押圧が連続する。石皿で言うところの機能面の全体には、節の細かいRL縄文が、立ち上がり部分では縁に沿ってやや密に、平坦部ではやや疎らに施文される。なお、720のような摩耗痕は観察できない。

石器・石製品 第196図722はチャート製の尖頭器と見られる。作りは丁寧で先端側は欠損する。723は頁岩製の石槍で、草創期の可能性がある。

724～727は無茎の石鏃で、724は凹基、その他は平基である。725は加工や厚みの点から未製品の可能性が高い。

728・729は石錐で、728は鋭く尖った剥片末端に微細な剥離を連続的に施す。729は矩形剥片の末端に二次加工を施す。

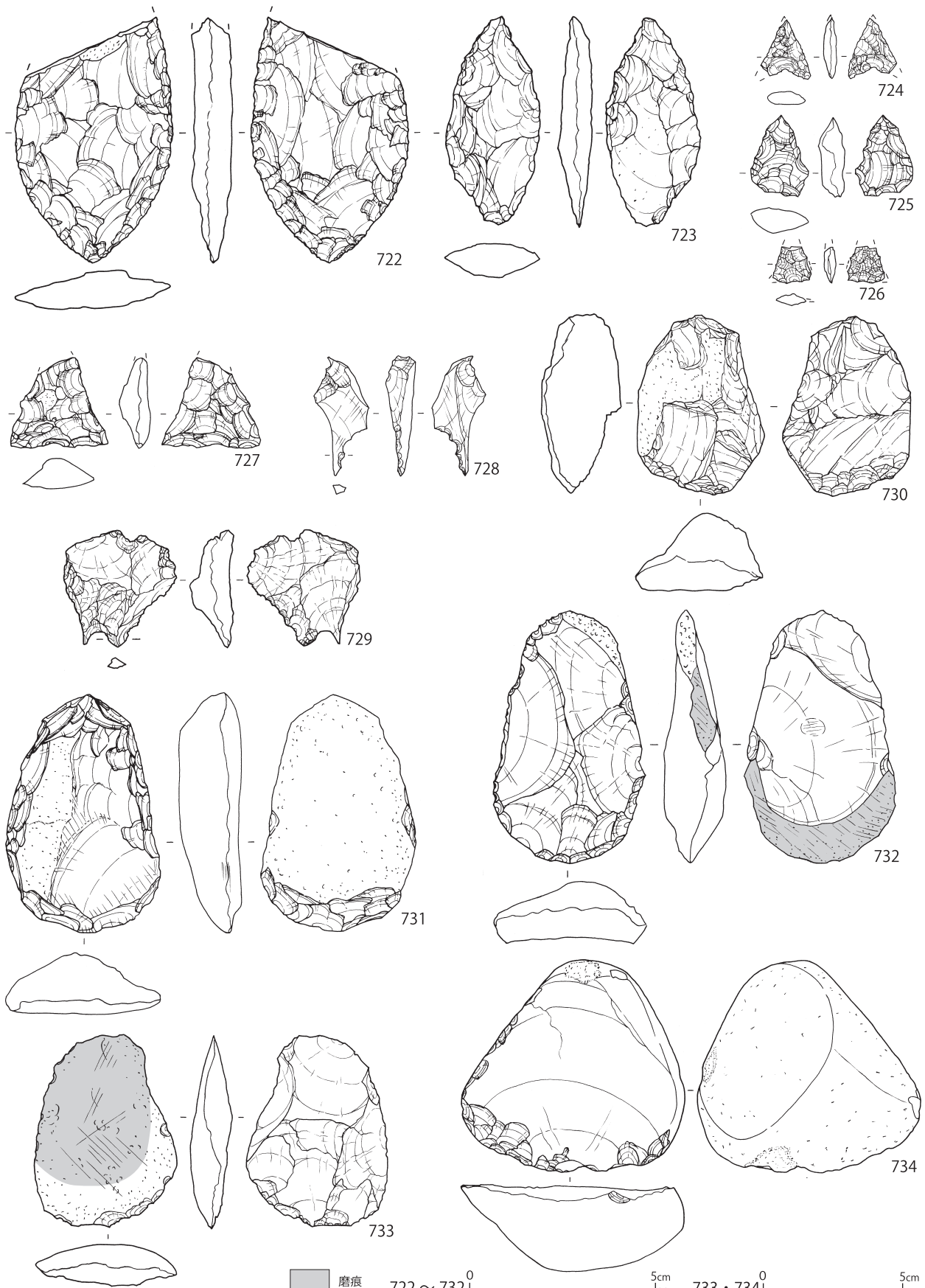
730～733は片側に原礫面を残すスクレイパー（搔器）で、732・733は磨痕他の使用痕が観察される、敲磨器類を素材剥片とする。刃部は732が片面、その他は両面加工で、前三者は急角度の刃部を持つ。731・732は草創期の可能性がある。

734も原礫面を残すスクレイパーだが、形状や重量がその他とは異なる。刃部角度は浅く、削器的な使用が想定される。

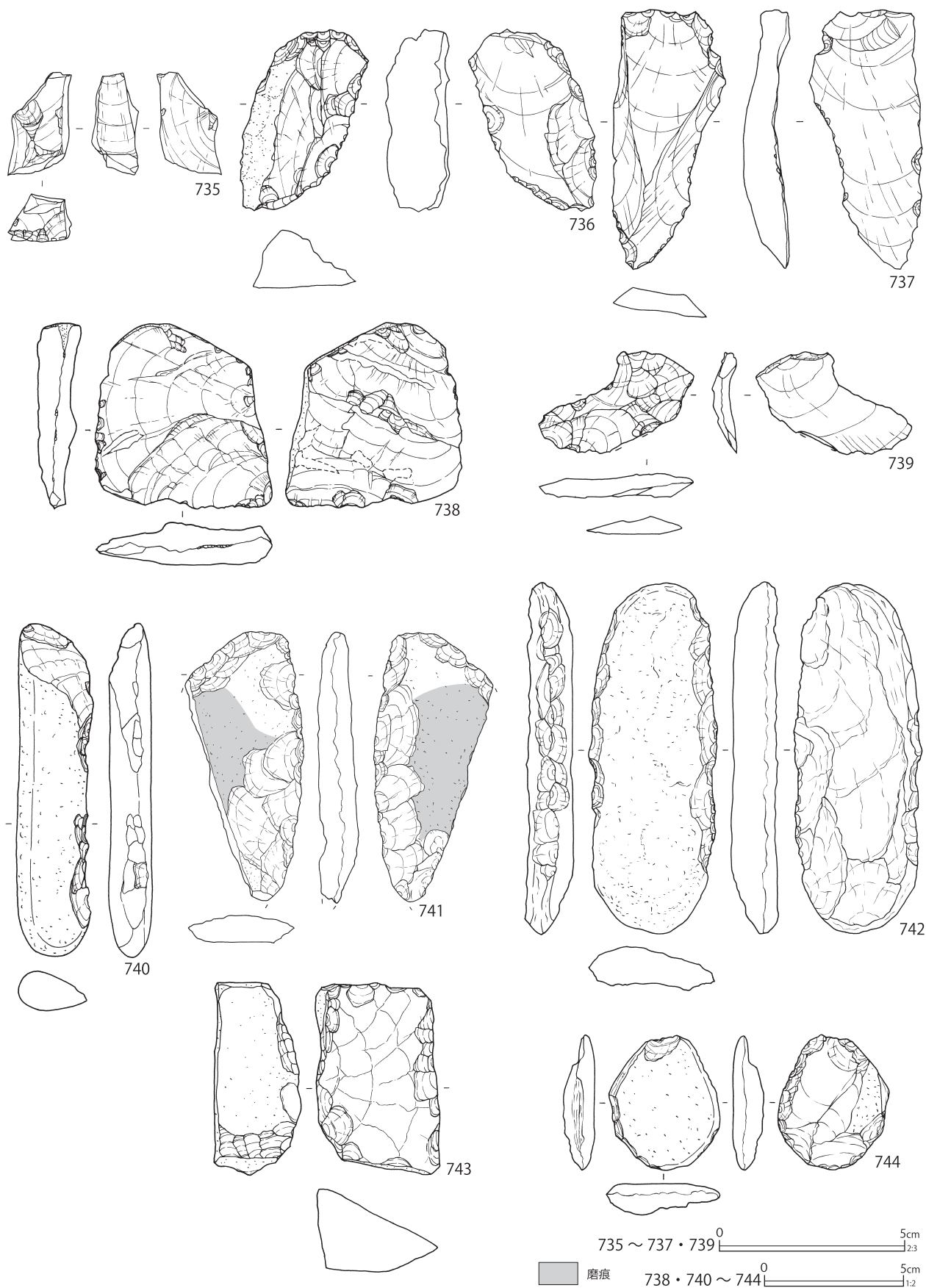
第197図735は小型の黒曜石製のスクレイパーで、直角に近い一辺に細かい剥離を連続させ刃部とする。736～739は剥離性に富む石材のスクレイパーで、素材は738が矩形、その他は縦長剥片である。刃部と見られる側縁の加工は不連続である。

740は礫器で、断面が涙滴形となる扁平棒状礫の一辺に連続的な加工を施し刃部とする。

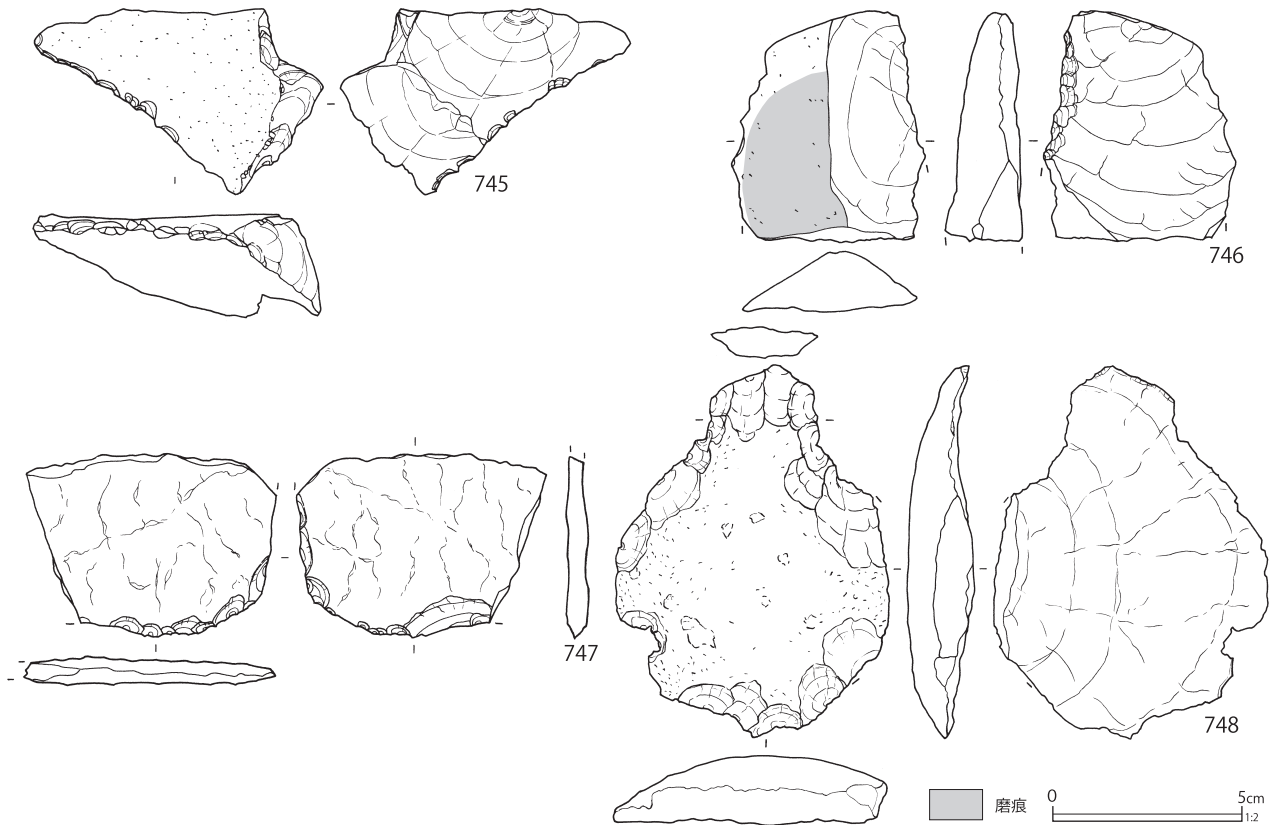
741～748は剥離性に乏しい石材のスクレイパーを一括した。741は剥離性に乏しいながらも二側縁に丁寧な両面調整を施す。表裏の無加工部に弱い磨りがある。742は片面全体に原礫面を残す絹雲母片岩製の剥片の二側縁に連続的な加工を施す。743は断面三角形となる剥片の縁辺に連続的な剥離を施す。744は片面全面と裏面の一部に原



第196図 西斜面出土遺物 (41)



第197图 西斜面出土遺物 (42)



第198図 西斜面出土遺物 (43)

礫面を残す小型の扁平円礫を素材とする。側縁を中心に連続的に剥離し、一方の側縁は剥離が潰れている。

第198図745は横長の剥片の一側縁に不連続な剥離を施す。746は磨石を素材剥片として再利用したもので、矩形剥片の一辺に連続的な加工を施す。747は絹雲母片岩製で、隣り合う二側縁に剥離を施す。748は片面に原礫面を残す横長剥片の片面に粗い剥離を施し、一端の対向する位置にノッチ状の剥離を施す。

第199図749～760は打製石斧で、750～753は分銅形、754～757は撥形である。749は側縁が並行する打製石斧で、石材や剥離後の研磨を伴う点でかなり異質である。研磨は剥離と剥離の頂部や剥離の高所部分を中心に、部分的ながらかなり丁寧になされている。750は、東斜面出土の第152図604と並び、出土資料中の最も小型のひとつである。片面に原礫面を大きく残す。751～753・756は観察に極めて難渋する石材で、剥離の単位はか

なり不明瞭である。753は全体が磨滅している。754・755は欠損品で、側縁に着柄時の潰し加工が観察される。後者は原礫面に擦痕を伴う顕著な磨面が残されている。磨石等の転用品であろうか。側面には剥離後の敲打が顕著である。757は基部側が直線的な杓文字形に近い。刃部側は細かい剥離はなく、形状の調整は綿密ではないが、使用痕も着柄痕も顕著である。第200図758はかなり大型の資料で、本書対象資料中では最大、最重量である。759は対向する位置に抉入のある打製石斧で、後晩期に特有のものである。760も剥離の観察に難渋する石材だが、対向する位置に浅い抉りを入れるタイプであろう。

761・762は礫器とした。前者は片側に原礫面を残す。大型の礫素材を横向きに剥いだ後、さらに長軸方向に剥離を入れている。二側縁と端部に片側からの剥離を入れ、一方の側縁は剥離後の潰し顕著に観察される。762は扁平礫を素材とし、その一部に粗い剥離のある石器で、側縁全体に敲

打痕とまでは言えない程度のざらつきがある。

第201図763～813は素材礫に磨痕、敲打痕、凹痕のいずれかが観察される、敲磨器類とした石器である。このうち763～770は一種の使用痕のみが観察される単独機能の石器で、771～813は二種以上の使用痕が観察され、かつ明瞭な新旧関係（すなわち転用）の無い、複合機能の石器である。

763～766は磨石で、763・764はともに多面体状だが、前者は使用による磨り減りで、後者は素材礫が多面体気味の塊状礫である。ともに使用痕は顕著である。765・766は棒状礫を素材とし、後者は主に長軸方向の、前者は長軸と短軸両方向の擦痕が形成されている。

767～770は敲石で、前三者は小型棒状礫の両端部使用、後者は扁平円礫の破断面縁辺利用の敲石である。768の上端の敲打痕はやや粗いが、下端は平坦面を形成し、乳棒状の敲打痕が残される。また表裏面にはざらついた敲打痕が長軸方向の帯状に形成されている。769の下端にも平坦面を形成する敲打痕が見られ、いずれも小型の資料であることから、素材礫の重量や形状を利用して「打ちつける」、「叩きつける」といった使用方法ではなく、「細かく砕く」、「すり潰す」といった対象物との衝撃が小さい使用方法を想定できる。

771～第202図785は磨痕と敲打痕のみが観察される石器で磨敲石とした。このうち、776は敲打痕と磨痕の新旧関係があるため、磨石転用の敲石とした方が適切かもしれない。また778の磨痕は極めて微弱であることから、敲石としての機能に比重が置かれた石器と言える。

素材礫は771～777が棒状礫、779～782は円ないし楕円礫である。なお784は片手で保持するにはやや重量がある。

771・772・774は両端部に敲打痕、礫表面に磨面をもつ石器である。773の敲打痕は端部と縁辺の一部、778は側縁部、775～777は縁辺を中心に器表面全体に敲打痕が形成される。779は磨痕と

敲打痕が同一面に共存し、新旧関係は不明瞭である。一方、780は磨りと敲打が部位で使い分けられているものの、磨痕が新しく見える箇所もその逆もある。一方から他方へという単純な転用とは思われず、複合機能と見ておきたい。

781は円礫素材の磨敲石で、磨痕は全面に及び、表裏面は平坦、側面は曲面状に磨られ、円柱状となる。敲打痕は微弱だが、側縁は磨痕よりも新しく、表面中央には磨痕よりも古い。782も主たる機能部位の使い分けのある磨敲石で、表裏面には顕著な磨痕が、また側面には敲打痕ともざらざらの磨痕とも言い得るような痕跡が形成されている。

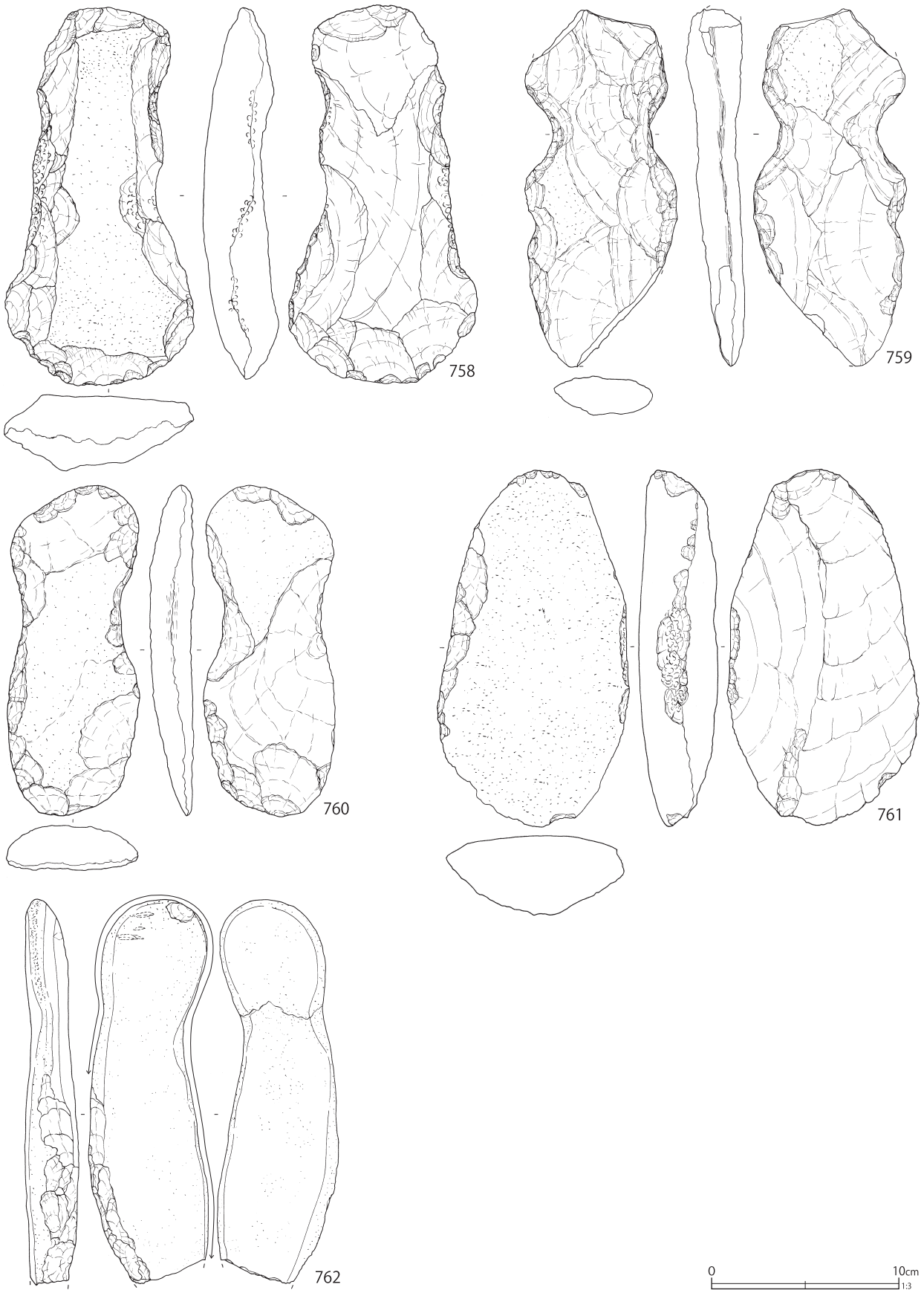
783は閃緑岩製で被熱による黒色化がある。裏面は大きく欠損するものの、磨痕は破断面にも及ぶことから、破損後も使用していることが明瞭である。784は両端部を中心に側縁部には敲打痕、四面体の各面に磨痕（うち表面の二面は顕著、残り二面は微弱）が形成される。785は閃緑岩製で被熱による黒色化がある。表裏面と側面に光沢を帯びる、平坦な磨面が形成され、隣接面との境界は稜線状となる。側面部には磨痕よりも新しい敲打痕が形成され、敲石への転用が考えられる。このほか、破断面を巻き込むような磨痕も観察されることから、783同様、破損後も継続使用したことがわかる。

786～800は磨痕、敲打痕、凹痕の三者が共存する磨凹敲石とした石器である。凹痕には、凹穴とも呼べるものがある一方で、ごく浅い、器表面のざらつきや荒れ程度の、凹みとも表現できないものも含むが、端部や側縁、縁辺に発達する敲打痕との区別を図る観点から凹痕に含める。

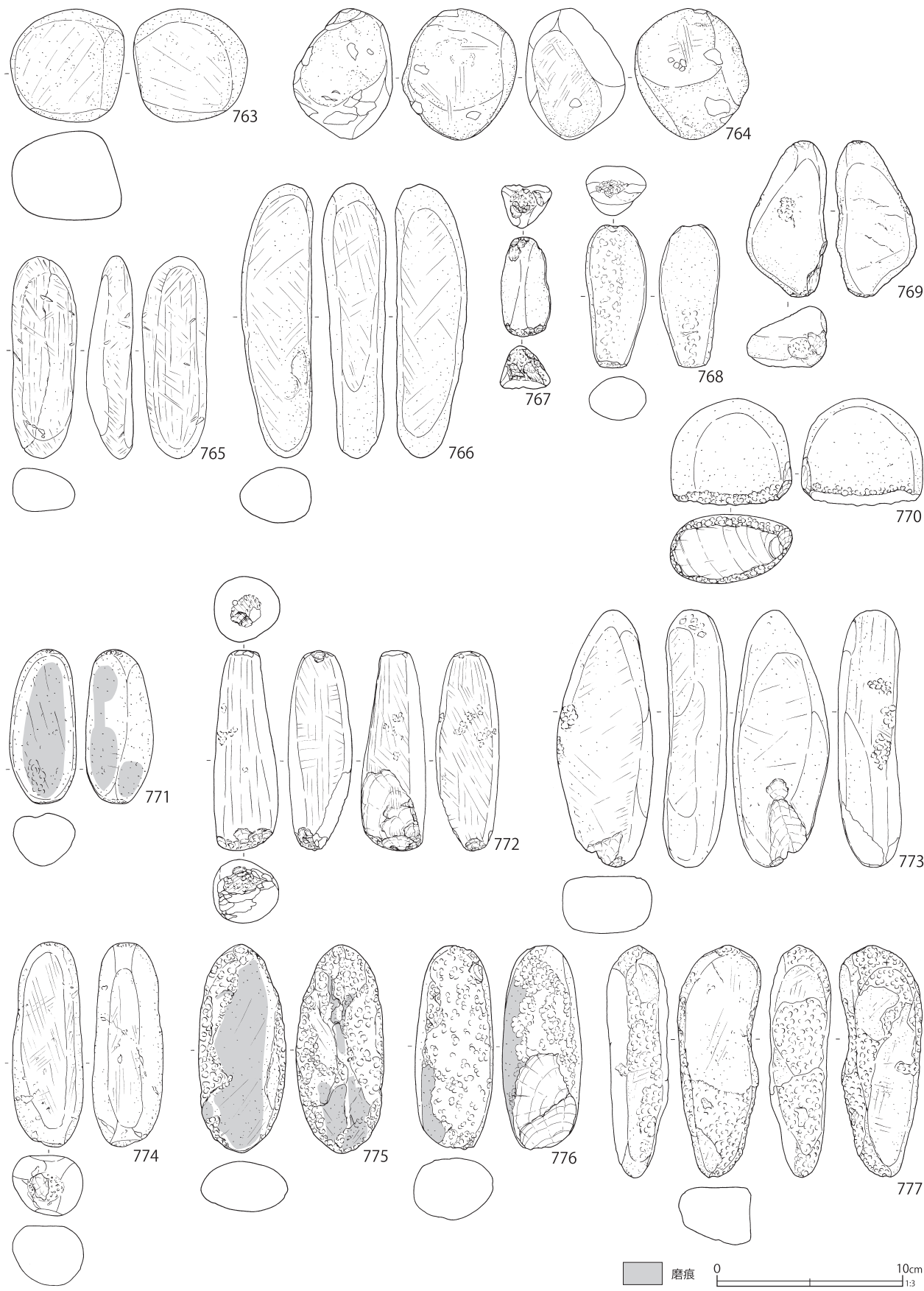
786～791は円礫を素材とする石器で、786～790は表裏面に平坦となる磨面が形成され、側面との間には稜線が生じた、表裏面と側面を明瞭に使い分けた石器である。一方、791は表裏の磨痕が側縁方向まで延び、広く表裏二面として利用している。786や787には特定方向への運動を示す磨痕の



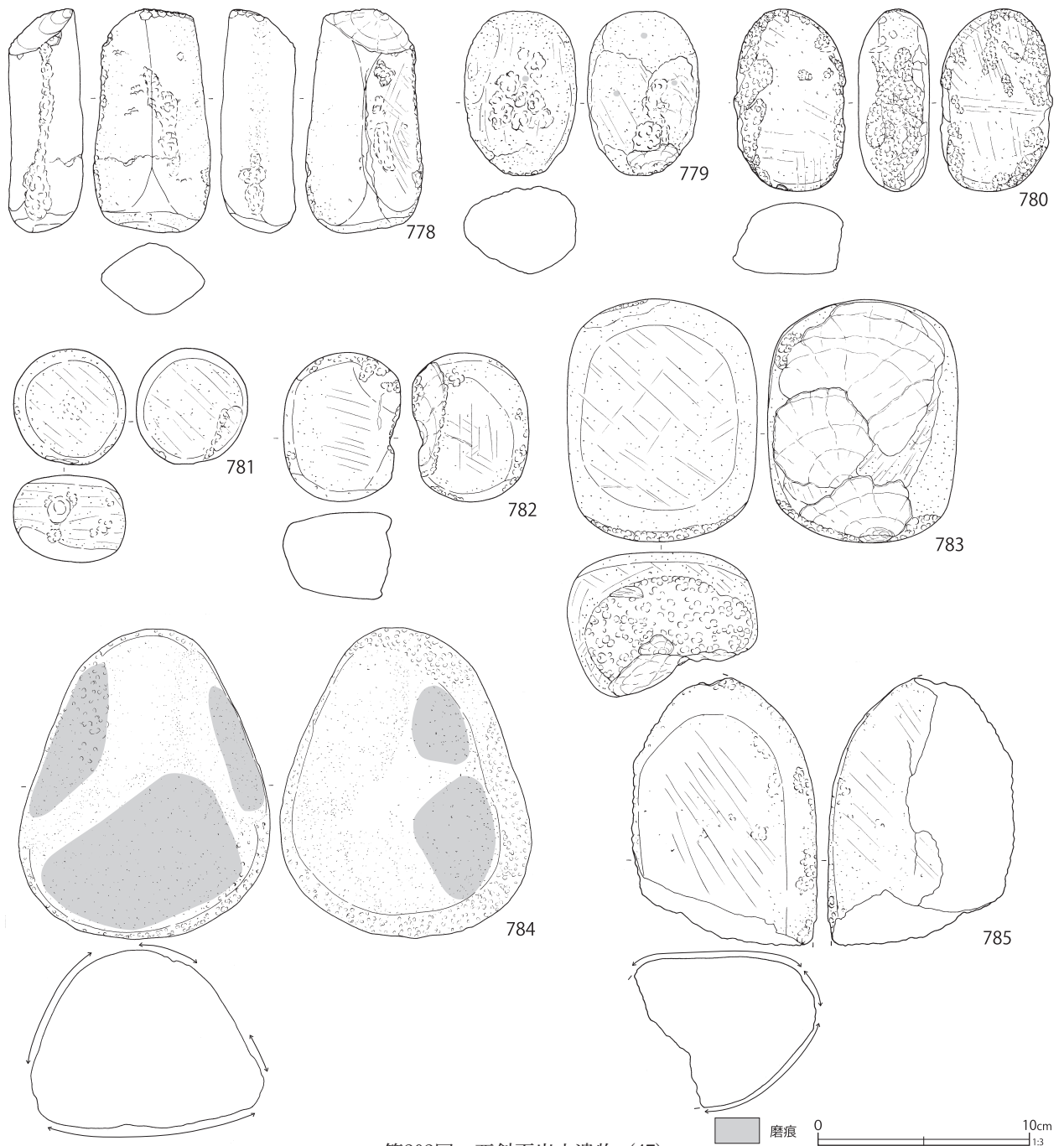
第199図 西斜面出土遺物 (44)



第200図 西斜面出土遺物 (45)



第201図 西斜面出土遺物 (46)



第202図 西斜面出土遺物 (47)

クセ（偏り）がついている。786～788の側縁には凹凸のないざらついた敲打面が形成されている。789にも同様の敲打面が認められるが、同時に比較的大きな衝撃を示すあばた状敲打痕も観察される。790は表裏二面に凹穴が観察される。791の凹痕は一方は深く、他方は浅い。

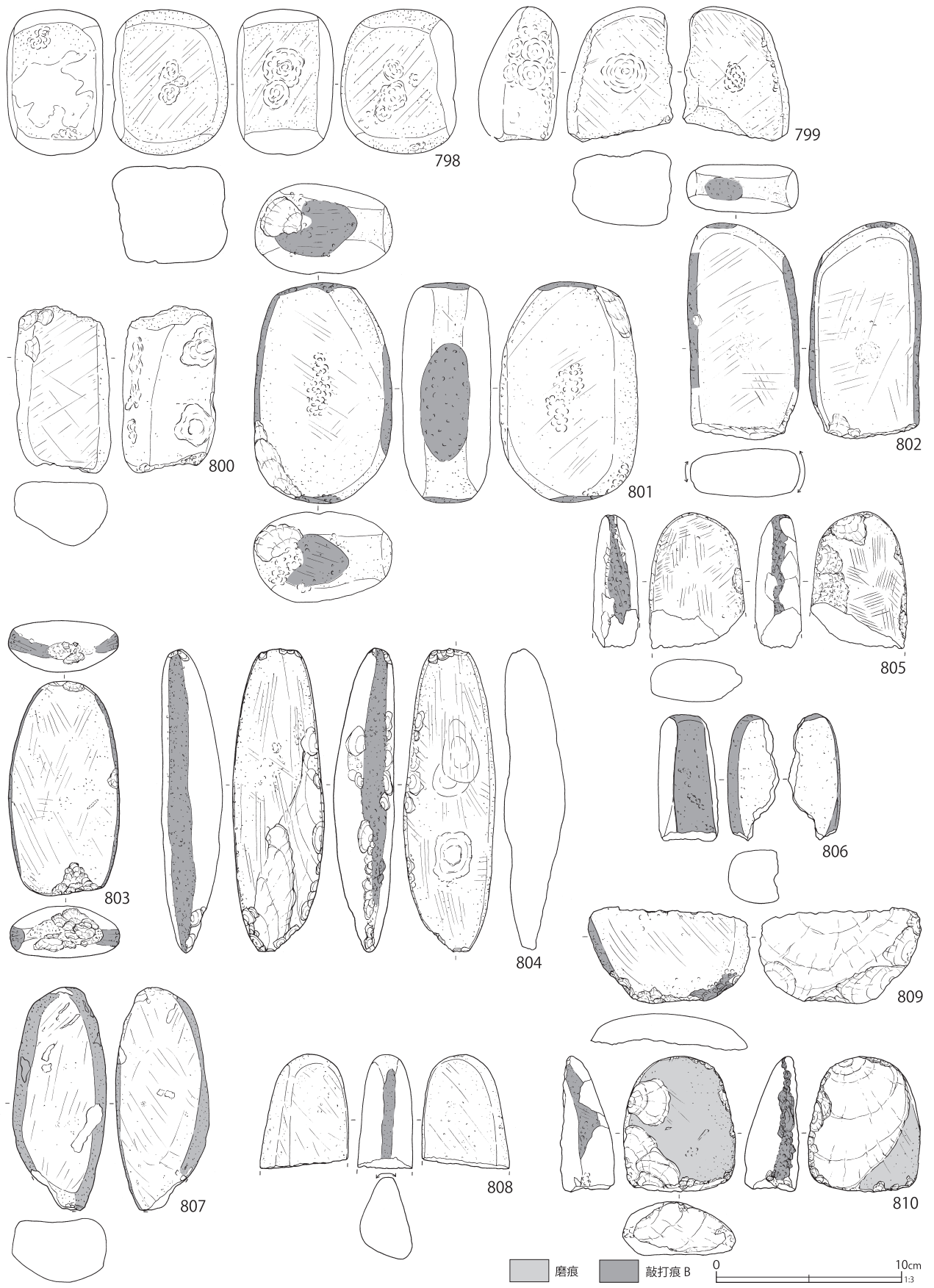
792～794は長円礫素材の磨凹敲石で、顕著な使用の結果、俵形となっている。793は片側、794は

両端に磨られた平坦面を持ち、整形と表現した方が適切かもしれない。792の磨面には特定方向への運動のクセがついている。

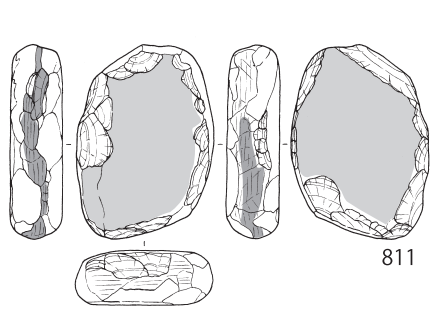
795は小型の扁平礫を素材とする。磨痕は微弱、凹穴は片面、敲打痕は片側端部に顕著である。796・797は棒状礫を素材とし、後者は両側縁、前者は片側縁に整形を思わせる敲打面が形成される。ともに表裏面は磨痕が顕著である。



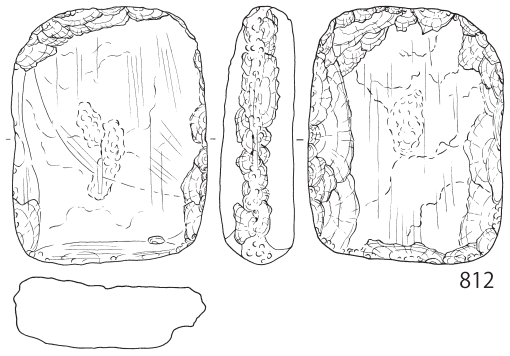
第203図 西斜面出土遺物 (48)



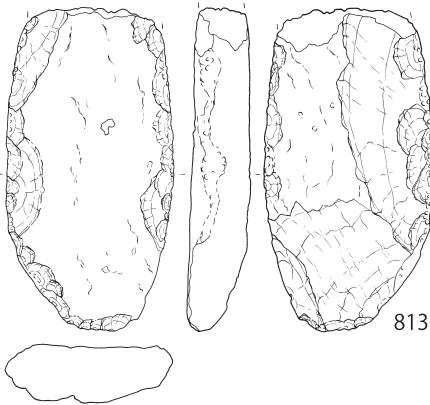
第204图 西斜面出土遗物 (49)



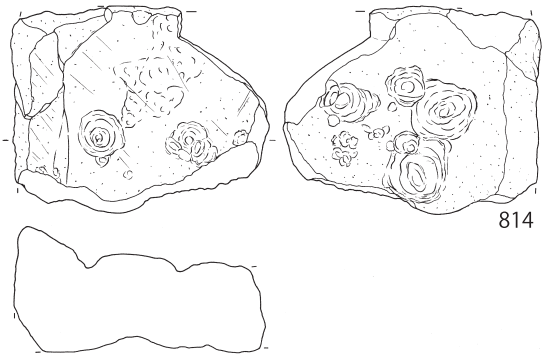
811



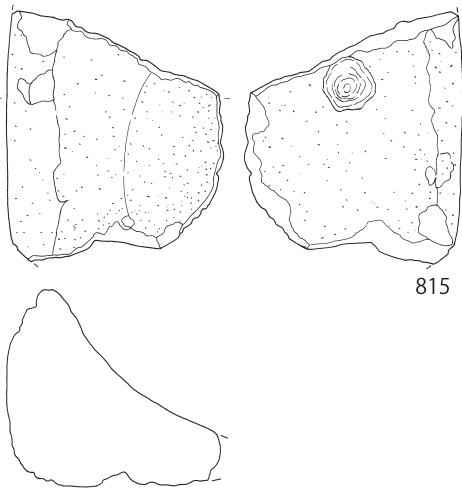
812



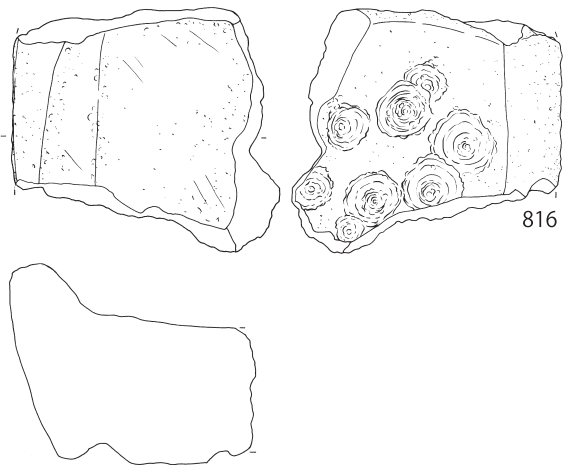
813



814



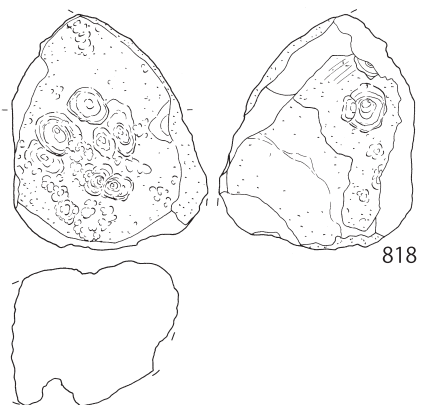
815



816



817

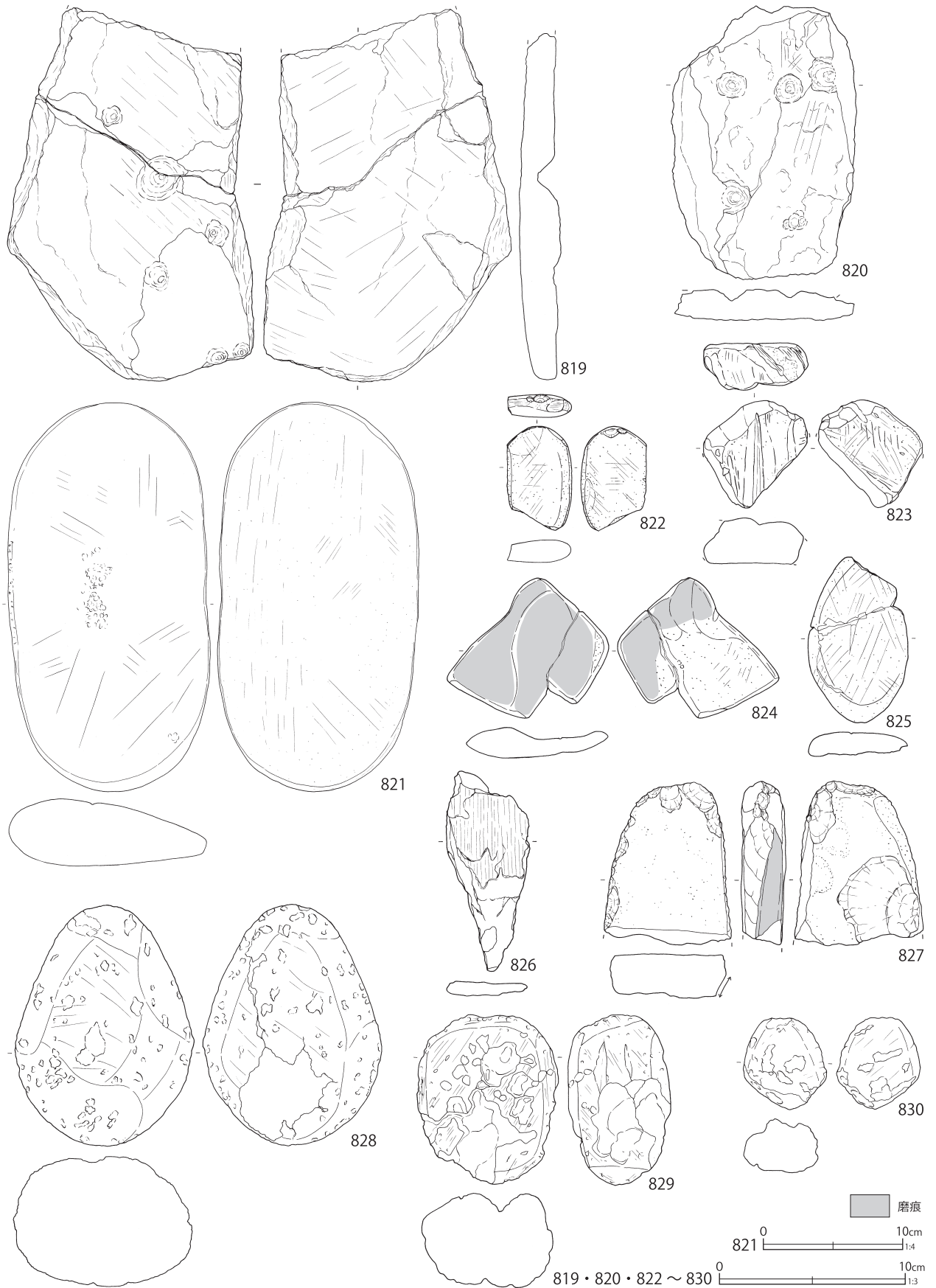


818

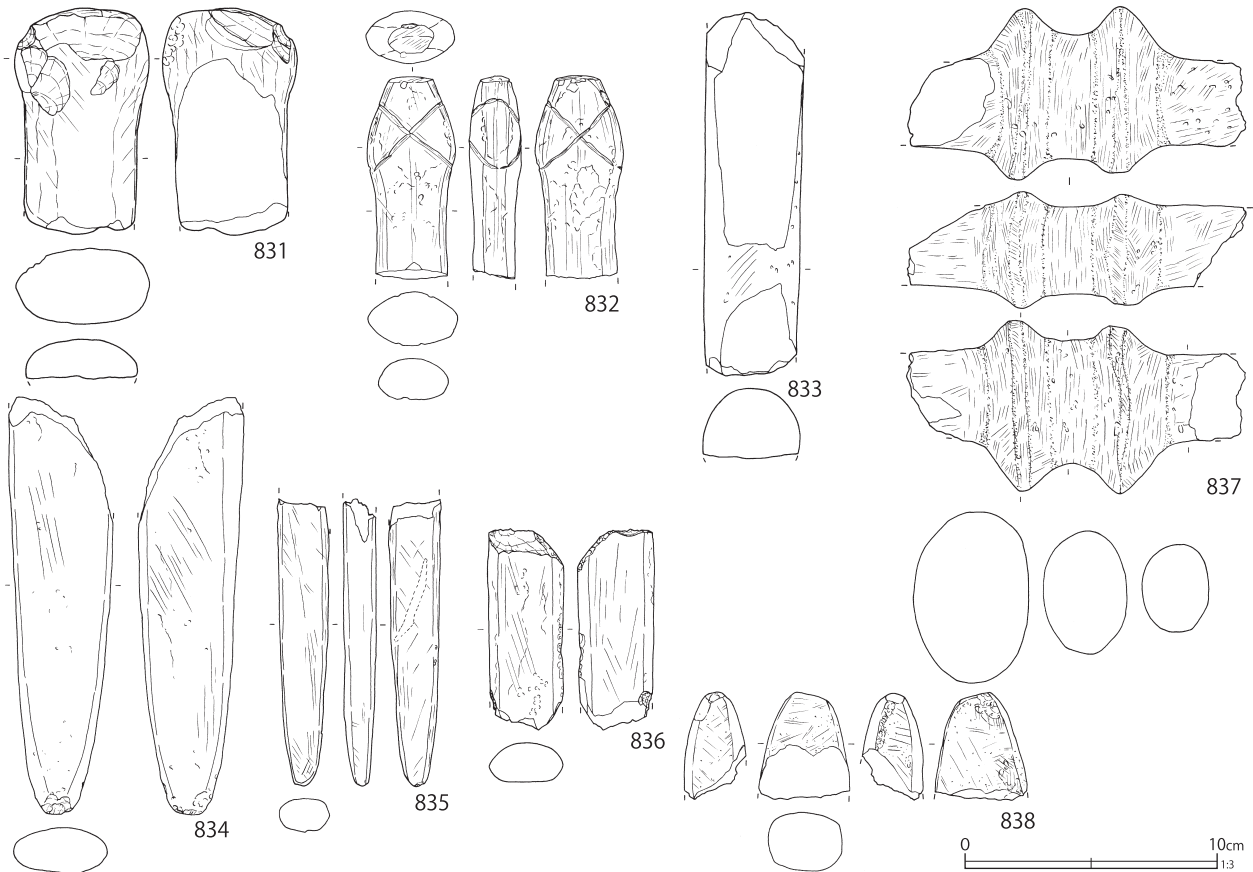
磨痕 敲打痕 B

0 10cm 1:3

第205図 西斜面出土遺物 (50)



第206図 西斜面出土遺物 (51)



第207図 西斜面出土遺物 (52)

第204図798の形状は六面体で、顕著な磨面が三面、凹穴が四面、両端部に敲打痕が形成される。799は表裏に顕著な磨面、側縁には幅広の敲打面が形成され、表裏と側面の間には稜が形成されている。表面と側面には深い凹穴、また裏面には浅い凹痕が形成されている。800は片面に磨面（整形面）をもつ。凹穴は裏面の2箇所形成される。

801～第205図813は礫の側縁や端部にあばた状までは発達しない敲打痕をもつ石器群を一括した。器表面に凹凸は無く手触りはざらざらで、「特殊磨石」（上條2015）との関連が強く示唆される。仮にここでは側面敲打系の敲石としておく。801～806は側面や端部、807・810は両側縁、808は片側縁に敲打面を形成する。なお804・805・810の幅狭で剥離を伴う敲打面は、「半円状扁平打製石器」の機能面と酷似する。

801は両端部および両側縁の四面に幅広の敲打面をもち、表裏に極めて顕著な磨面と長軸方向に

延びた凹痕を形成する。802の敲打面は端部と一方の側縁は顕著で、他方の側縁は微弱で原礫面を残す。804は二か所に凹穴をもつが、一方は凹穴上に擦痕が形成され、磨痕との新旧が明瞭である。

第205図811～813は緑泥片岩製で、後二者は磨り減った凹面を持つことから石皿の転用品と考えられる。811は表裏に平滑な磨面をもつ。811・812は側面と端部の全面、813は二側縁の一部に敲打面をもつ。なお、812は下端部に、通常の磨面とざらざらの敲打面の両方が共存し、特殊である。

814～第206図820は石皿の破片である。本遺跡では完形品の石皿は皆無である。818は有脚石皿、814～817は有縁石皿、819・820は結晶片岩製の石皿である。818や820は凹痕の位置から、破損後も凹石として利用された可能性が高い。

第206図821は台石で磨痕は二面、凹痕は表面一面に観察される。

822～827は砥石で822～824は砂岩製である。

823は表面や端部に砥溝、裏面に凹面となる砥面を持つ。826は粘板岩製で長軸方向の線状痕が発達する。827は側面に凹面となる砥面を持つ。

828～830は軽石製品で、829は表裏面と側面、828・830は表裏面に整形を思わせる平滑な磨面が形成されている。

第207図831～836は石棒・石刀・石剣類である。831・832は有頭石棒の頭部で、832には表裏の中央で交差する刻線が全周する。833は断面円形となる石棒の基部である。被熱し部分的な黒色化がある。834・835は石剣の基部末端であろう。837は独鈷石で両端は欠損する。本遺跡で2例目である。838は磨製石斧の基部側の破片である。

遺構外出土遺物（第208～216図）

第208～210図は土器、第211図は土器片加工品及び土製品、第212～216図は石器・石製品である。他地点で出土していない遺物を中心に掲載した。

土器 第208図1～5は早期条痕文系土器で、1・2・4の口端部には刻みがあり、4の口縁部下には列点が巡る。茅山上層式である。5は器面の荒れが著しいが、口縁部にLR縄文を施文し、裏面に条痕整形を施している。茅山上層式もしくは花積下層式であろう。3は刻みのある横位隆帯と縦位隆帯の接点に刺突を施す。茅山下層式である。

6～9は黒浜式～諸磯a式と見られ、7～9には羽状縄文を施文し、6～8には繊維を含む。9は前期末葉の可能性がある。10・11は撚糸文Lを施文する前期後葉の土器である。片岩を多く含む同一個体である。12は前期末葉と見られ、口端部は面取りし、口縁部を折り返した末端を波状にしている。興津式であろう。

13・14は中期初頭の五領ヶ台式で、13は口縁部、14は三角印刻文を多段に配す胴部である。

15・16は加曽利E式で、15は楕円区画文から隆帯区画による幅広の磨消懸垂文を持つ加曽利EⅢ式である。16は口縁部に沈線を持ち、RL縄文を横位施文し、下端は縦回転である。同一個体が土

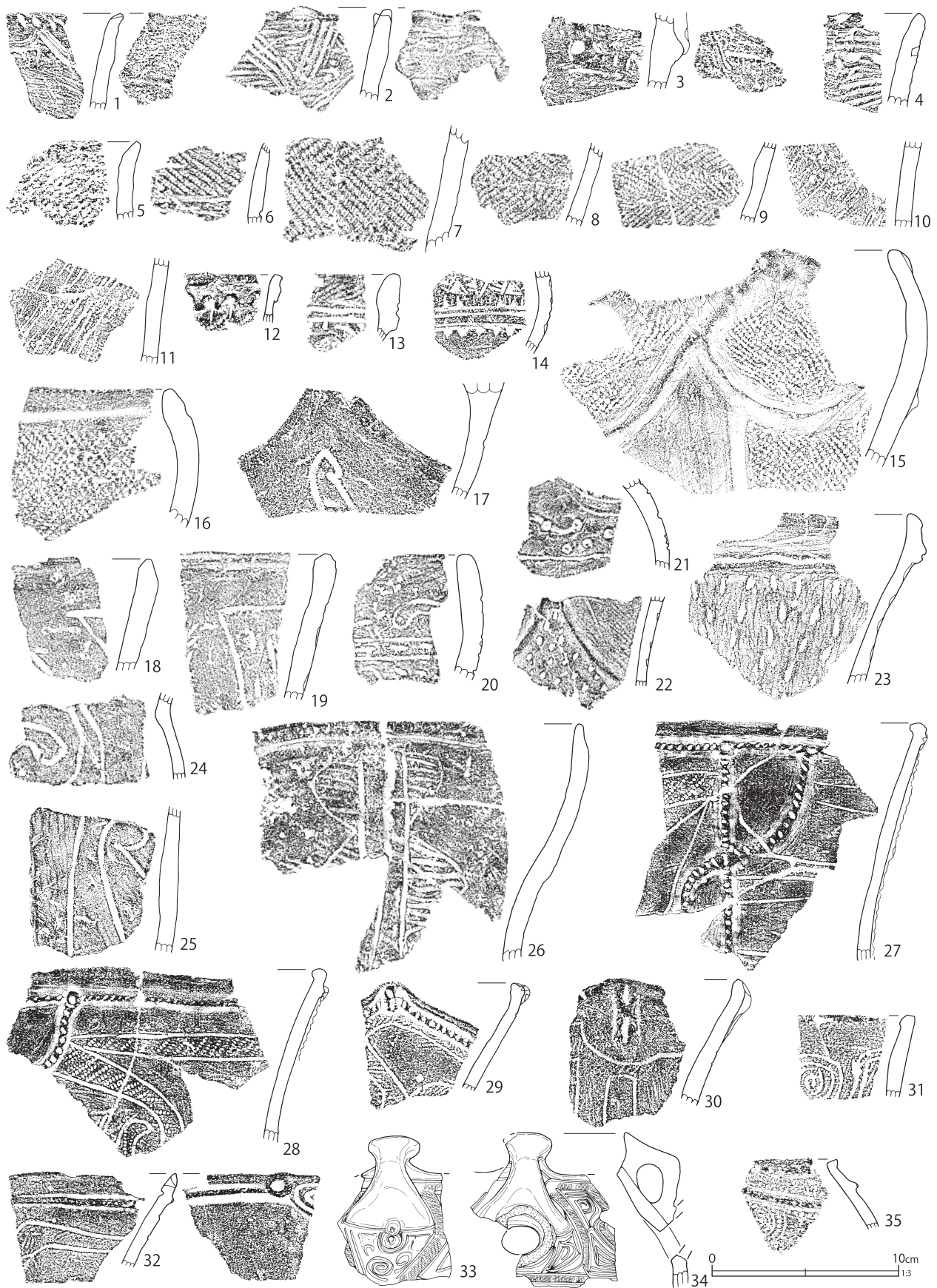
器片加工品（第192図679）として出土している。

17～25は後期初頭の土器で、17～21・24・25は称名寺2式、22・23も同一時期のものと判断される。17は突起が付くタイプの波状口縁である。19～21は沈線区画内に列点を持つ。21では竹管状工具を器面に垂直に当てる円形刺突である。17・18・24・25は刺突を持たない。22は微隆起線による区画内に、竹管状工具を斜位に押し当てている。充填部も含め、器面は丁寧な磨いている。23は口縁部が外反し、端部が直立気味立ち上がる器形で、口縁部には、上部に沈線を施す隆帯が巡る。胴部は全面に縦長の列点を充填する。

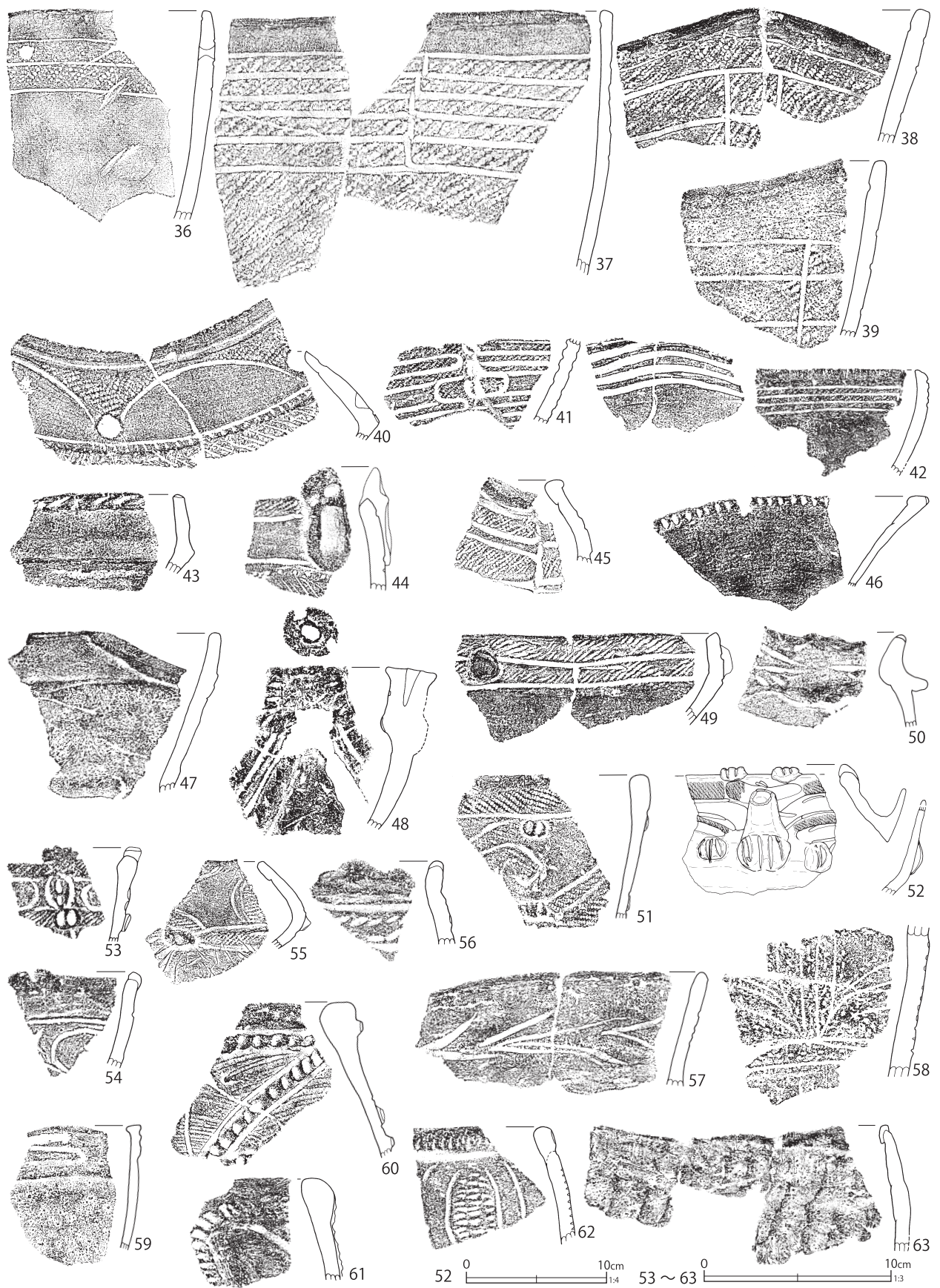
26は後期前葉堀之内1式である。口縁部の横位沈線から二本沈線を垂下し、これと接する弧線を縦位に配す。区画内は横位の沈線を充填する。

27～32は堀之内2式の深鉢口縁部で、27・28は水場遺構出土資料（第109図3）と同一個体である。口縁部と胴部に横位の刻み隆帯を持ち、直交する刻み隆帯で縦位の区画とする。また横位の区画をS字の刻み隆帯で連結し、結節点には円形刺突を施す。水場遺構出土資料でも同様に、幾何学文は、縄文充填のある場所と無い場所がある。29は波状口縁で、30も小波状となる。波頂部に8字状貼付文を付す。30の沈線は8字状貼付文を避けており、西斜面出土の深鉢（第158図16）との類似性を見ることができる。なお後述の32にも同様の表現がある。31は小型の深鉢で渦巻モチーフがある。32は内文を持つ。8字状貼付文は無いが裏面内文の位置より、前述のように8字状貼付文を避ける文様を持つのであろう。

33～35は堀之内2式の注口土器である。33・34は同一個体の注口部とその対極の背面側の把手で、胴部最大径の文様帯区画まで残存している。口縁部は外側に肥厚し、背面側の把手下端に8字状貼付文が付く以外は細沈線と節の細かい縄文で文様を描出する。文様は胴部最大径と口縁部、並びに注口部や把手を縁取るように縄文帯で区画



第208図 遺構外出土遺物 (1)



第209図 遺構外出土遺物 (2)

し、内部を渦巻文や多重沈線による三角形文等で埋めていく。35は注口土器の口縁部で、刻みの無い隆帯や渦巻文、円形刺突列等で文様を描出する。

第209図36～45は加曽利B式で、36～40は深鉢、41～44は鉢ないしは浅鉢、45は注口土器である。36～39は加曽利B 1式で、36は横帯文系の土器で口端部内面に沈線を持つ。内外面ともに平滑に磨かれた中に補修孔が残る。37は口縁部を除き、全面に縄文を施文する。横帯文内には区切文を持ち、口縁部内面に沈線が巡る。38・39は波状口縁で口縁部内面に沈線が巡る。区切文の変形か、横帯文を貫く縦沈線を加えている。39には口縁部直下に、押圧隆帯の剥落したような痕跡が残る。

40は算盤玉状に屈曲する、いわゆる大森タイプの加曽利B 2式の深鉢である。口縁部と屈曲部を沈線で区画し、後者には刻列を伴う。口縁部は、磨消弧線文を横位展開し、接点を円文で繋ぐ。屈曲部以下は斜線文を描出する。

41・42は横帯文構成を取る加曽利B 1式の鉢で、41は内文を持つ。外面の横帯文は区切文を持たず、括弧文と「の」字文で上下を接続する。括弧文の端部には円文を意識した、深めの刺突を入れる。磨消縄文の磨消範囲がやや曖昧な部分がある。42も口縁部が短く内屈し、横帯文幅は狭い。43は口唇部に刻みを入れている。加曽利B 2式であろう。44は突起を持つ鉢類で、口端部と突起下を横位の沈線で区画し、無文帯とする。口端部にはLR縄文を施文し、突起下には点列と条線をもつ。突起は、円と長円を縦位に組み合わせている。加曽利B 2式であろう。

45は注口土器で口縁部は短く外屈する。横位と縦位の沈線で楕円形区画状とし、内部をLR縄文で充填する。区切文から加曽利B 1式と思われる。

46～49は後期中葉の土器である。47・49は曾谷式の深鉢で、46は浅鉢の可能性もある。また48は高井東式の深鉢である。46は内面が肥厚する平口縁深鉢で、胴部で大きく抉れ、口端部外面に刻列

を入れる。内外面は丁寧に磨いている。47は波頂部が平坦の台形状となる無文の深鉢で、口端部は内外面ともに肥厚する。内面は丁寧に磨くが、外面は輪積痕が明瞭である。48は波頂部が筒状になる高井東式の波状口縁である。把手は上面が平坦な円筒状で、正面は剥落するが、全面に横位の単沈線が巡る。口縁部は内外面ともに肥厚し、二本沈線を施す。49は曾谷式の深鉢で、口縁部は内傾気味に直立し、端部は内削ぎ状である。文様は、口縁部から屈曲部に、二本の横位沈線と無節Lを施して文様帯とし、円形貼付文を付す。

50は内湾して口縁部が短く外反する器形で、口端部に低い二山の突起を付す。突起直下には前方へせり出す横長の突起を配し、この間に沈線と列点を施す。

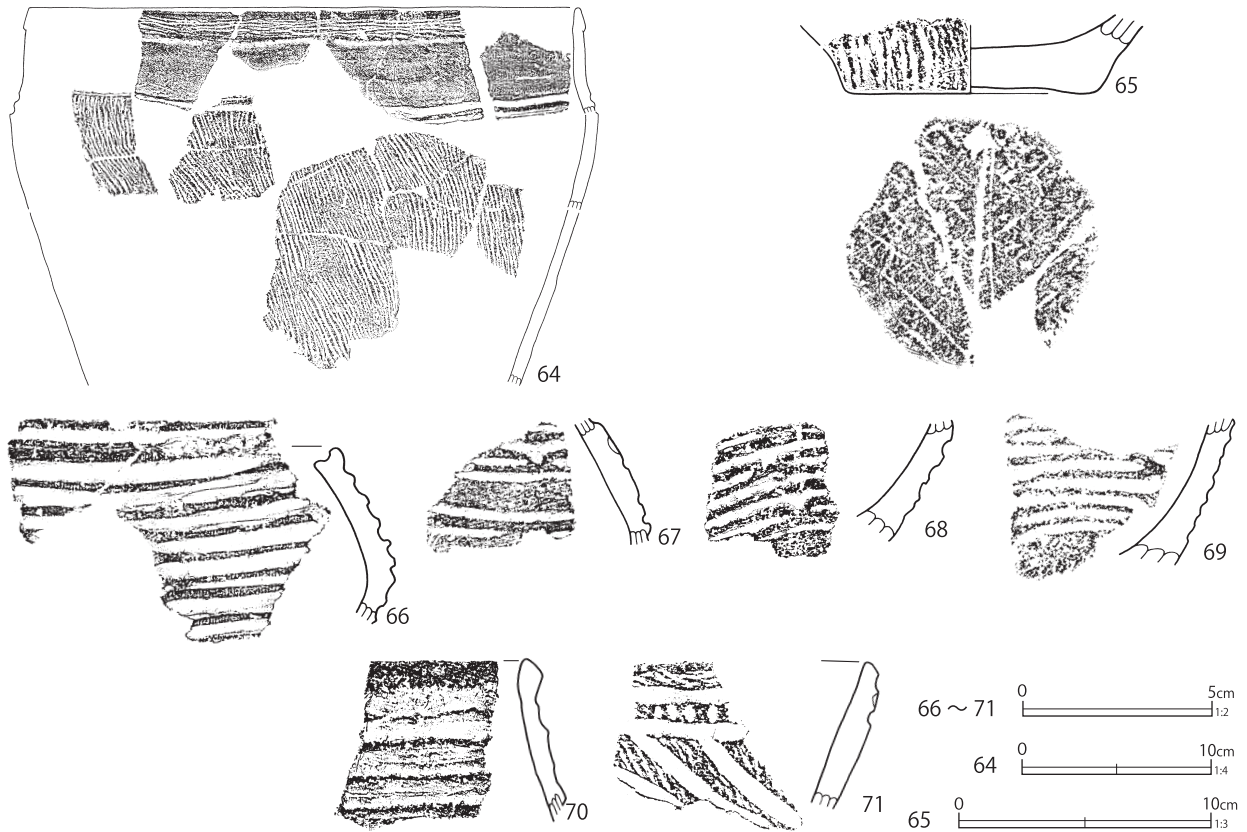
51は口端部が肥厚する平口縁深鉢で、入組文風のモチーフと豚鼻状貼付文を持つ。安行2式であろう。

53・54は突起を付した平口縁の鉢ないしは台付鉢である。53は肥厚した口縁部に縦刻横瘤を付し、直下に、括弧内に縦位の単沈線を持つ文様と豚鼻状貼付文を縦列に配す。また、帯縄文間に杵状文を描出する。54はB突起を付し、口縁部は緩やかに外反する。縄文を充填する楕円形文を持つ。55は胴部が強く屈曲する浅鉢で、口端部が内側に肥厚する。屈曲部に横位の縄文帯とB突起を持ち、上部は弧状ないしは楕円形のモチーフを描出する。

52は安行3 a式の注口土器で、主軸上の対の位置に縦刻横瘤を持つ。注口部は急角度で上を向き、下端に縦刻を持ったホーデン状の瘤を両端に付す。

56～59は晩期中葉の土器群で、56は口縁部が短く外反する土器で、B突起状の二山の突起を持つ。屈曲部直下に二本の横位沈線間を複列の列点で充填する安行3 c式であろう。57は括れた頸部から口縁部が外傾して立ち上がる平口縁深鉢である。口縁部は「く」を横位に連ねた文様を持つ。

58は、刺突を充填する二本の横位沈線で胴部を区画し、同様の刺突を充填する縦位区画文や弧線



第210図 遺構外出土遺物 (3)

文を配す土器で、西斜面出土資料 (第179図407～409) と同一個体である。安行3c式であろう。

59は口縁部を外側へ折り返して厚くし、端部を平坦に作出する。口縁部には楕円形文を持ち、口端部に何らかの突起を付した形跡がある。器壁は薄く、灰白色で異質な印象がある。

60・61は口端部の肥厚する晩期安行式に伴う紐線文土器で、60は口縁部と胴部の紐線を斜めに繋げるような紐線を持つ。弧線も見え、斜位の紐線には沈線区画を伴うことから、弧線と斜線を交互に展開するような文様であろうか。61は口縁部から派生するように紐線が下方へ伸びる。器面に条線は無く、沈線による弧線を描出する。62は二本沈線の対弧文内に、3列の刺突文を充填する。63は指頭状整形痕の残る無文土器である。

64は晩期終末の浮線文系の深鉢で、I-25グリッド付近の第5号方形周溝墓の方台部を中心に、同一個体の破片が約30片出土した。このうち器形と文様構成の理解を助けるものを、図上で器

形復元して掲載した。

器形は胴部最上段に最大径を持ち、頸部がやや括れ、口縁部は直立する。また、胴部からは比較的ストレートに底部へ向かう。胴部と頸部は二本の沈線で区画し、頸部は無文となる。口縁部は外側へ折り返し、撚糸文を横位に施文する。胴部以下は撚糸文を縦位に施文する。

65は64と同時期の底部である。底部はわずかに上げ底状となり、下端まで撚糸文を施文する。底面には木葉痕が向きを変え、2回転写されている。66～69はは同時期の鉢であろう。66は器面全体が光沢を放ち、67～69は砂粒を多く含む。66はくの字状に屈曲し、口唇部に沈線を施す。幅広でやや角状の横位沈線を多重に施す。67は胴部上半、68・69は底部に近い下半である。いずれも四字文風に沈線の途切れがある。

70は内傾する口縁部で、器壁は薄い。口縁部は外側に肥厚し、何段もの微隆起線状になる。71はやや内湾する器形で、口端部には横位に、体部に

は縦～斜位に撚糸文を施文する。口縁部は二本沈線間に縦長の列点を刺突し、下位は斜線である。沈線は太めである。

土器片加工品 第211図72～81は土器片加工品である。72は繊維を含む条痕文期の土器片で当遺跡では数少ない。73～77は後期の有文土器、78～80は時期不明の無文部を素材とする。78は外周をきれいな円形に整えている。81は後期前葉の地文のみの口縁部破片を素材とする。長辺と短辺に抉入のある土器片錘であろう。

土製品 第211図82～84は土製品である。82は環状(厚手)の耳飾りで正面側の内面は面取りしている。83は後期の筒形土偶であろうか。上部へ向かって窄まる円筒状で、小孔はランダムではなく縦列が意識されている。84は焼成粘土塊である。

石器・石製品 第212図85～94は石鏃で、85・86は無茎平基、87～89は無茎凹基、90～94は有茎鏃である。91・92は鏃身が抉れる曲線を、90・93・94は膨らむ曲線を持つ。95の側縁は両面加工が顕著だが、他方は未発達である。

96～98は石錐である。いずれも矩形剥片を素材とし、96・98は両面、97は片面加工である。

99～102はスクレイパーで、101は片面加工でその他は両面加工である。100の石材は打製石斧に多用されるもので、転用の可能性もある。原礫面に光沢のある磨面を持つ。

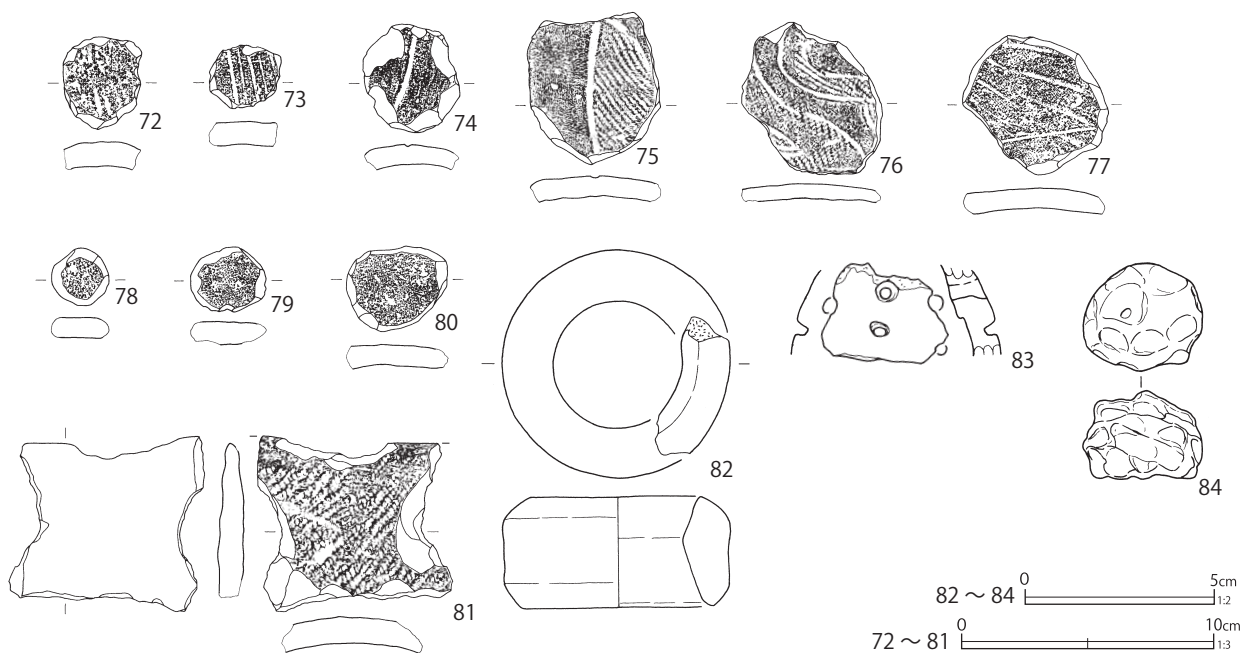
103は剥離性に乏しい石材の剥片で、二側縁に微細な剥離を伴う微細剥離剥片とした。

第213図104～107は打製石斧である。106の表面にはツルツルの磨面が形成され、側縁には剥離を伴う敲打面が形成される。

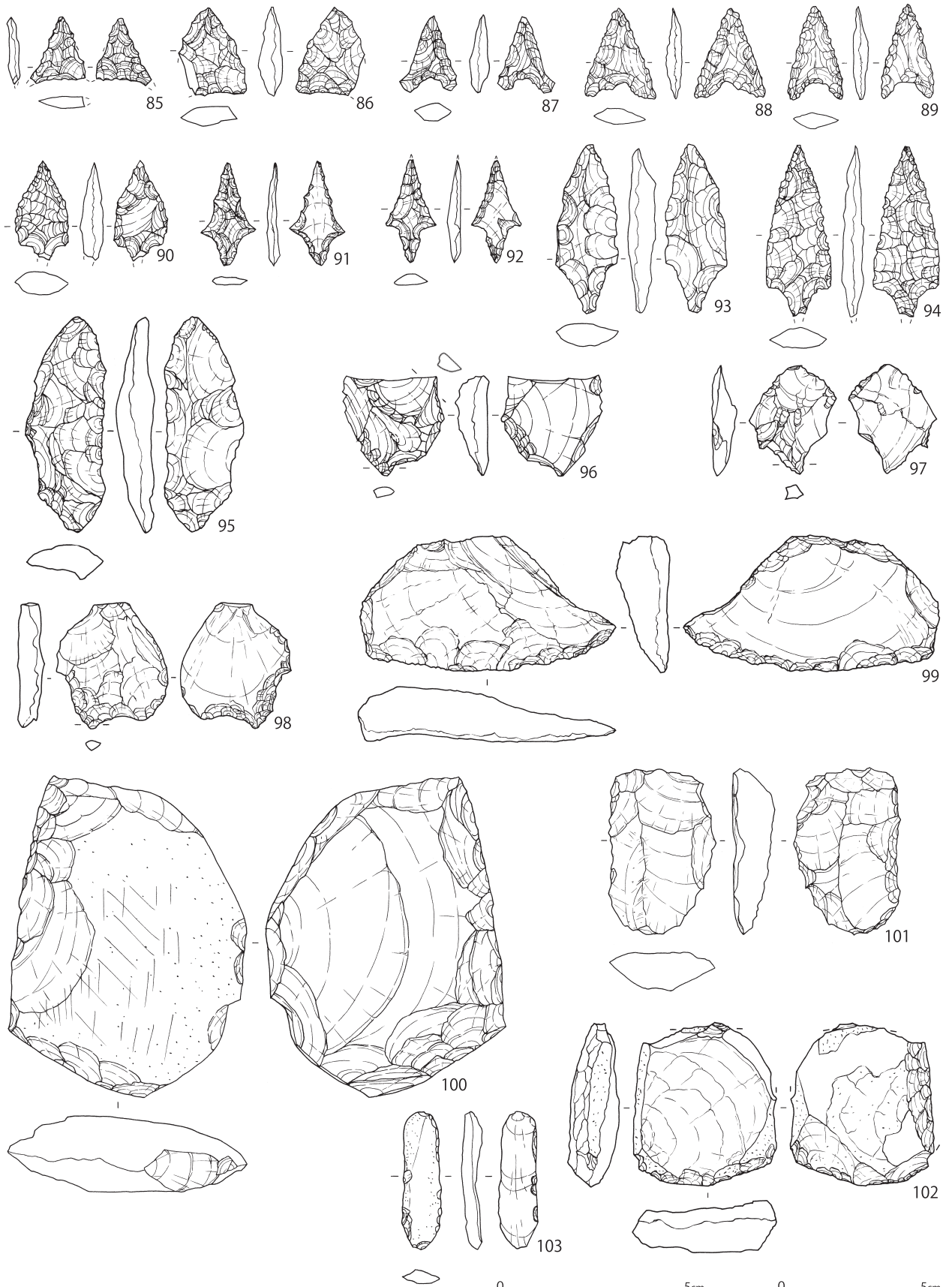
107は周囲を剥離した片岩製の礫器とした。

108～第214図126は礫を素材とし、磨痕、敲打痕、凹痕のいずれかの使用痕を持つ石器群である。このうち108～111は使用痕が一種の単独機能、それ以外は複数の使用痕を持つ複合機能の石器である。108は円礫素材の磨石、109～111は敲石である。109は小型棒状礫の両端部に敲打痕を残す。110は破断面縁辺を利用した敲石である。111は素材礫の重心側に敲打痕が残され、後述の116同様、遠心力利用の敲石(ハンマー)である。

112～116は磨痕と敲打痕の観察される、磨敲石とした石器である。112はほぼ全面に顕著な磨面をもち、両端部に敲打痕が形成され、一方は敲打



第211図 遺構外出土遺物(4)



85 ~ 98 · 100 · 101 · 103 0 5cm _{2/3} 0 5cm _{1/2}

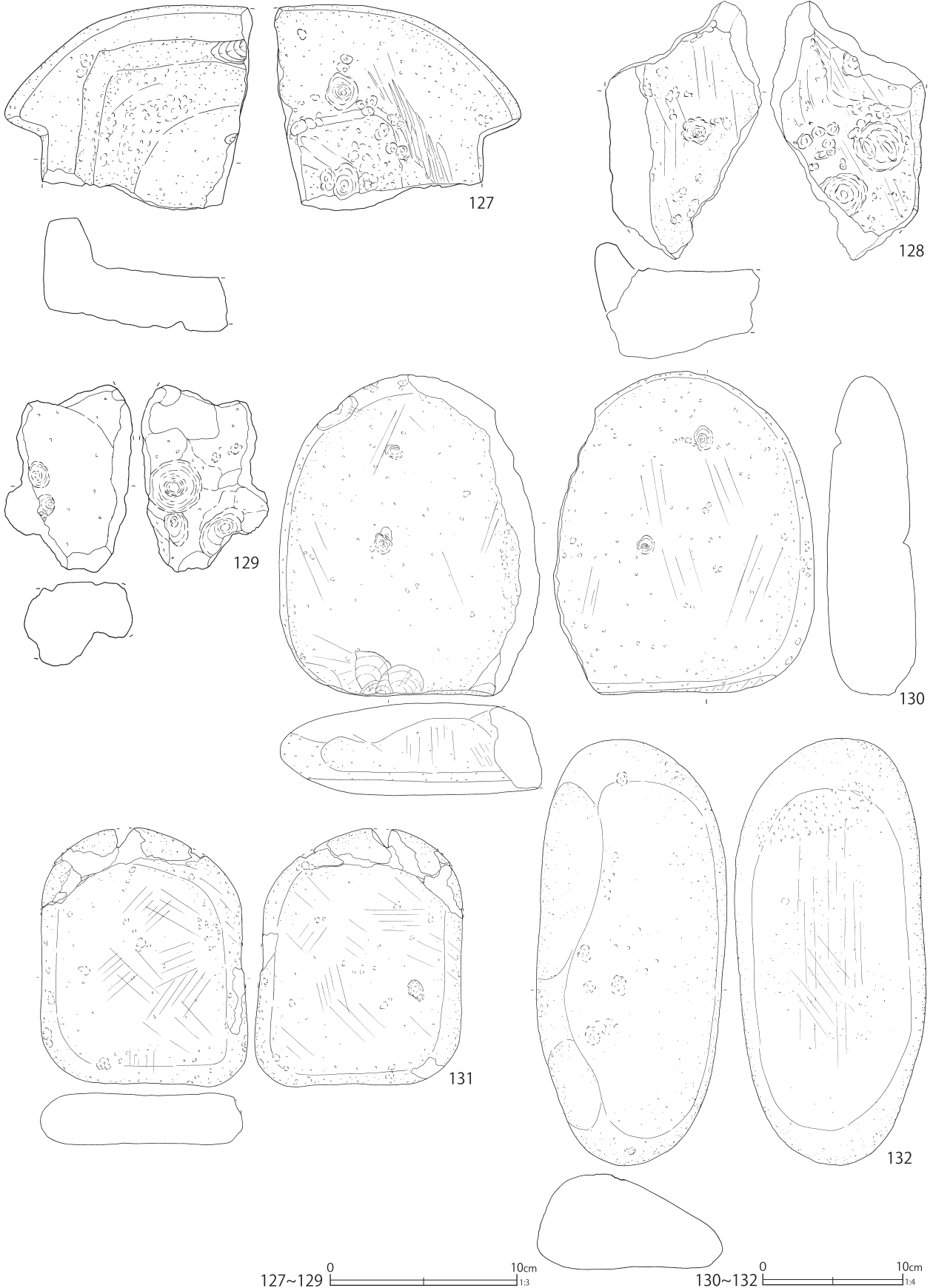
第212図 遺構外出土遺物 (5)



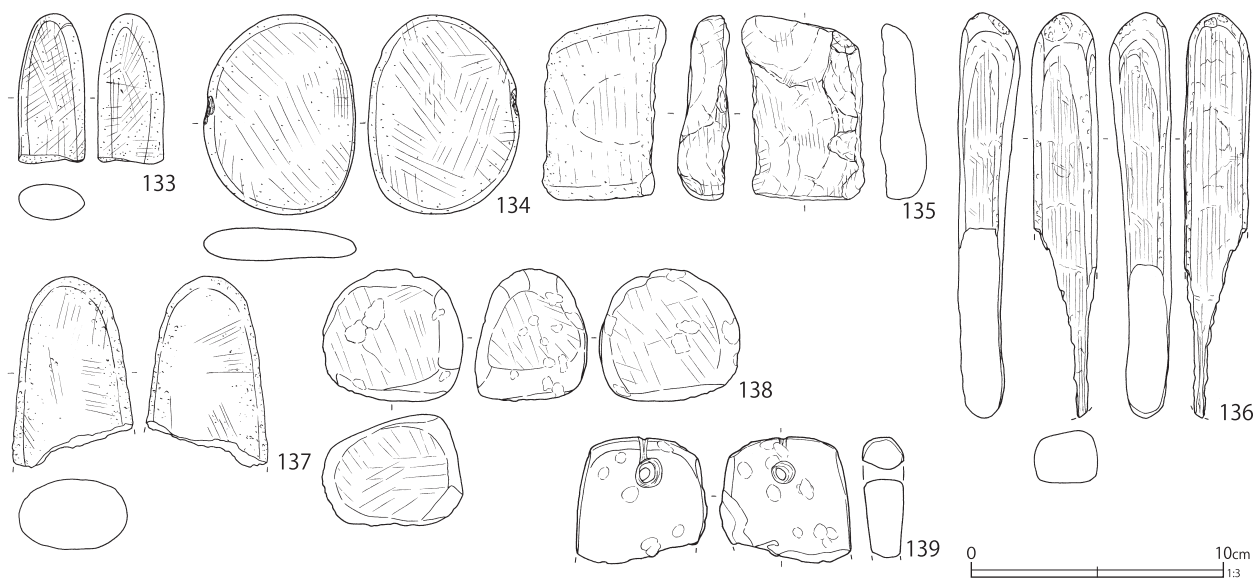
第213図 遺構外出土遺物 (6)



第214図 遺構外出土遺物 (7)



第215図 遺構外出土遺物 (8)



第216図 遺構外出土遺物（9）

面を形成する。114は側縁部に顕著な敲打痕が形成され、一部は破断面にも及ぶ。一方、115は破断面縁辺を積極的に利用し、敲打痕は縁辺全体に及ぶ。116は前述の111同様、素材礫の重心側のみに敲打痕が残された、遠心力利用の敲石である。

第214図117～120は側面にざらざらの磨面（敲打痕）をもつ石器群を一括した。117・118は表裏面に磨痕も形成される。一方で120は側面の敲打痕のみ残された単独機能の石器である。117の側面と端部は原礫面を残さぬほどの「敲打面」を形成し、表裏面との境界は稜線状をなす。一方、119の側面敲打痕は微弱で、118はその中間程度ある。120は断面三角形の扁平礫の縁辺を利用する石器で、敲打面には微細な剥離を伴う。「特殊磨石」との関係が示唆される資料である。

121～126は凹痕を伴う石器である。121や125など「凹穴」まで発達しない程度の、浅い敲打の集中も含む。121は棒状礫の端部に敲打痕が見られる凹敲石、122は表裏に磨面、両端部に敲打痕をもつ磨凹敲石である。123は重量のある長円礫の中央1点に凹穴を持ち、表裏面に磨面をもつ磨凹石である。124・126は直方体状の石器であるが、円礫を素材とする整形を伴う石器である。前者の凹痕は浅く、後者は凹穴と呼べるほどに深い。

125は表裏二面に顕著な磨痕を、また側縁から端部にかけて明瞭な敲打痕を残す。凹痕は視認が困難なほど軽微だが、裏面の中央に長軸方向に延びるざらつきが形成される。

第215図127～129は石皿の破片で、後者は有脚石皿、前二者は有縁石皿である。127は中期末葉～後期前葉に特有の整形石皿である。

130～132は扁平礫ないしは大型礫を素材とし、置いた状態で使用された台石である。130は表裏二面に磨痕と凹穴が観察され、磨痕は手前の端部側にまで及ぶ。131も磨面として二面利用で、表裏ともに磨り減りがある。132は断面が三角形の大型扁平礫で表裏面に顕著な磨痕と、表面の頂部を中心に敲打痕が観察される。

第216図133～136は砥石とした。133は小型扁平礫の二面利用、134は扁平礫に顕著な磨痕が残される。135は破損礫の破断面や側縁にも擦痕が観察される。136は古墳時代前期の第114号住居跡で出土した資料で、本節で取り扱う時代の混入とみなしたが、判断は難しい。凹レンズ状の顕著な砥面が形成されている。

137は磨製石斧、138・139は軽石製品で、138は多面体状に、整形と見られる磨面が形成される。139は浮子で、両面穿孔の紐掛けがある。

第9表 縄文土器（復元実測）観察表

No.	出土位置	グリッド	層位	器種	時期・型式	法量				備考	図版
						器高	口径	底径	重量		
【第121号住居跡】(第20図)											
1	SJ121SK1	—	—	深鉢	堀之内2	(16.7)	(30.0)	—	299	SK1内出土	100
2	SJ121SK1	—	—	深鉢	後期前葉か	11.5	(24.0)	—	230	SK1内出土、器面調整のみ	100
3	SJ121a	—	—	注口土器	堀之内か	(7.3)	—	—	139		100
【土壇(1)】(第32・33図)											
20	SK703	—	—	深鉢	加曽利B2	(17.6)	(25.6)	—	651	胴上部の一部に黒色炭化物付着	100
24	SK706	—	—	深鉢	加曽利EⅢ	(23.6)	(25.8)	—	1670	一部は二次被熱により文様脱落	100
25	SK706	—	—	深鉢	加曽利EⅢ	(6.8)	—	8.2	381	底部	—
26	SK722	—	—	深鉢	堀之内2	14.8	27.0	—	231		100
28	SK729	—	—	深鉢	堀之内1	(32.3)	(25.6)	—	1407		100
39	SK751	—	—	深鉢	堀之内2	[24.6]	—	9.4	558	接点の無い同一個体を図上復元	100
49	SK761	—	—	深鉢	堀之内1	15.6	(29.0)	—	453		101
【土壇(2)】(第38・39図)											
80	SK732	—	—	鉢	後期後葉	(12.5)	—	5.6	811		101
95	SK734	—	—	鉢	晩期	8.9	14.1	5.1	426	内面下半部剥落、底部粘土の単位	101
【第3号木組遺構】(第62図)											
1	3号木組	—	—	深鉢	安行1か	(18.1)	(19.6)	—	637	外面上部・内面の一部(上部)に炭化物付着	101
2	開削部	—	土器集積層	注口土器	安行3a	(13.8)	(13.2)	—	502		101
3	3号木組	—	—	鉢	晩期か	(12.6)	(29.0)	—	277	輪積痕	101
【第5号木組遺構】(第82図)											
1	木組内	—	—	浅鉢	後期中葉か	7.0	(15.0)	(7.4)	134	口縁部摩耗	101
18	木組部	—	壁際流入土	深鉢	堀之内2	(26.3)	(30.0)	—	540	器表口唇部に黒色炭化物付着	102
19	木組部	—	—	深鉢	後期前葉か	(19.2)	(20.4)	—	598		102
【開削部土器集積層】(第98図)											
1	開削部	—	土器集積層	深鉢	安行3aか	(9.7)	(22.2)	—	168		102
2	開削部	—	土器集積層	深鉢	安行3a～b	(11.5)	(20.0)	—	266		102
3	開削部	—	土器集積層	粗製深鉢	後期後～晩期前葉	(7.1)	(25.4)	—	413		102
4	開削部	—	土器集積層	深鉢	後期後～晩期前葉	(7.3)	(29.0)	—	304		102
5	開削部	—	土器集積層	深鉢	安行3a	(5.1)	—	5.0	106		102
6	開削部	—	土器集積層	異形台付土器か		(6.2)	8.8	—	147	内面整形不十分、輪積痕明瞭	102
7	開削部	—	土器集積層	台付鉢	晩期か	(3.6)	—	7.4	119		102
8	開削部	—	最終層	深鉢	晩期前葉	(8.9)	(16.8)	—	265	外面下半に炭化物微量付着	103
9	開削部	—	土器集積層	深鉢	晩期前葉	(13.1)	(18.6)	—	230	外面に炭化物多量付着	103
10	開削部	—	土器集積層	浅鉢	晩期前葉	9.0	(18.4)	—	195	内外面黒色塗膜一部残存	103
11	開削部	—	土器集積層	角底土器	安行3a～b	9.3	(12.4)	8.8	139		103
12	開削部	—	土器集積層	角底土器	安行3a～b	(5.5)	—	9.4	776		103
【水場遺構最下層】(第104図)											
1	水場遺構	—	最下層	深鉢	加曽利B1	(11.4)	(24.6)	—	534		103
2	水場遺構	D-20	最下層	深鉢	安行3c	(26.9)	(33.0)	—	963	外面胴中部・内面胴下部に炭化物付着	103
【水場遺構一括】(第109・110図)											
1	水場遺構	—	I断面16層	深鉢	堀之内1	(12.5)	(30.4)	—	758		104
2	水場遺構	F-20	縄文層	深鉢	堀之内1	(10.6)	(35.2)	—	631		104
3	水場遺構	D-19	C層	深鉢	堀之内2	(17.0)	—	—	244		104
4	水場遺構	E-19	E断面6・7層	深鉢	晩期中葉	(13.2)	(20.4)	—	282	外面口縁部・内面胴中部に炭化物付着	104
5	水場遺構	E-19	D断面6～11層	台付鉢	安行1	(6.2)	—	—	197		104
6	水場遺構	—	D断面6～12層	深鉢	安行3c	(14.8)	(34.0)	—	303	内面の一部に炭化物残存	104
7	水場遺構	—	D層	深鉢	安行3c～d	(27.9)	(36.0)	—	1220		104
8	開削部	—	土器集積層	粗製深鉢	後期後～晩期前葉	(7.0)	(18.0)	—	242	外面に炭化物多量付着	104
9	水場遺構	E-20	D断面4層	深鉢	晩期前葉	(21.8)	(20.8)	—	288	外面口縁部に炭化物残存	104
10	水場遺構	D-20	縄文層	深鉢	晩期前葉	(9.9)	(21.0)	—	197	輪積痕	104
【東斜面】(第131・132図)											
1	東斜面	I-26	—	深鉢	称名寺2	(43.4)	(33.8)	—	1669		105
2	東斜面	I-26	—	深鉢	称名寺2	(10.6)	—	—	226		105
3	東斜面	F-23a	D層	深鉢	堀之内1	(9.8)	(32.0)	—	403		105
4	東斜面	F-22	D層	深鉢	堀之内	(19.3)	(49.6)	—	1980		105
5	東斜面	H-26	—	深鉢	堀之内1か	(35.6)	(33.0)	(11.0)	934		105
6	東斜面	F-25d	D層	深鉢	堀之内	(14.7)	(33.0)	—	1230	口唇部内面沈線	105
7	東斜面	G-25	—	深鉢	堀之内	(15.5)	—	—	649	風倒木	105
8	東斜面	E-21	A～E層	浅鉢	堀之内1	(11.7)	—	—	453		106
9	東斜面	G-22d	—	深鉢	堀之内2	(19.8)	(24.0)	—	614		105
10	東斜面	G-22	C層	深鉢	堀之内2	(14.1)	(21.0)	—	295		106
11	東斜面	G-23	C層	深鉢	堀之内2	(8.9)	—	—	138		106
12	東斜面	G-23a	D層	小型壺	後期初頭～前葉	(7.4)	(2.9)	(7.0)	43	竹管状工具刺突	106
13	東斜面	G-22	—	深鉢	堀之内1	(14.0)	(20.6)	—	642	捻りある突起、線刻	106
14	東斜面	E-21	CD層	深鉢	後期か	(19.8)	(17.1)	—	1580		106
15	東斜面	E-21	C層	深鉢	晩期前葉	(11.2)	(22.4)	—	288	有段、列点、口縁下部に工具痕	106
【西斜面】(第156～163図)											
1	西斜面	D-18	—	深鉢	堀之内1	(34.7)	(31.0)	—	1304		107
2	西斜面	C-14	—	深鉢	堀之内2	(9.3)	(37.0)	—	176		107

※水場遺構関連の層位の断面は第48～53図に対応

No.	出土位置	グリッド	層位	器種	時期・型式	法量				備考	図版
						器高	口径	底径	重量		
3	西斜面	C-15	—	深鉢	堀之内	(18.0)	—	—	726		107
4	西斜面	D-16	—	深鉢	堀之内	(32.5)	(37.6)	—	1286		107
5	西斜面	D-16	—	深鉢	堀之内 1	(9.9)	(17.4)	—	116		107
6	西斜面	B-13	—	注口土器	後期前葉	(8.4)	—	—	111		107
7	西斜面	—	—	深鉢	堀之内 2	(16.3)	(36.0)	—	581		107
8	西斜面	D-17	—	深鉢	堀之内 2	(6.2)	(17.8)	—	120		107
9	西斜面	—	—	深鉢	堀之内 2	(76.0)	(34.9)	—	193	重量は石膏含む	107
10	西斜面	D-19a	D層	深鉢	堀之内 2	(15.8)	—	—	309		108
11	西斜面	D-19a	D層	深鉢	堀之内 2	(18.8)	—	(10.6)	714		—
12	西斜面	D-18	—	深鉢	堀之内 2	(47.7)	(36.0)	—	2245		108
13	西斜面	E-17b	D層	深鉢	堀之内 2	(12.6)	(39.2)	—	284		—
14	西斜面	D-15	—	注口土器	堀之内 2	18.0	—	(7.9)	274	底部編組痕 (外周摩耗)	108
15	西斜面	—	—	注口土器	堀之内 2	(15.2)	6.3	—	574		108
16	西斜面	D-18a	CD層	深鉢	堀之内 2	(11.3)	(10.4)	—	13		108
17	西斜面	D-18	D層	深鉢	加曾利 B 2	(25.5)	(21.8)	—	705		108
18	西斜面	E-18⑭	D層	深鉢	加曾利 B 2	(8.0)	—	—	118		109
19	西斜面	D-18	—	深鉢	加曾利 B 2	(17.2)	(28.6)	—	393		109
20	西斜面	E-18	CD層	深鉢	加曾利 B 2 か	(12.0)	(30.6)	—	566		109
21	西斜面	E-18⑮	D層	深鉢	加曾利 B 1	(14.1)	(32.0)	—	290		109
22	西斜面	E-18⑯	D層	深鉢	加曾利 B 1	(19.4)	(21.4)	—	1452		109
23	西斜面	E-17	—	深鉢	加曾利 B	(25.1)	(28.4)	—	496		109
24	西斜面	D-19a	D層	深鉢	加曾利 B か	(24.5)	(24.6)	—	354	補修孔あり	109
25	西斜面	D-18	CD層	深鉢	加曾利 B 3	(16.7)	(25.4)	—	743		—
26	西斜面	C-18	—	深鉢	後期後葉か	(31.5)	(22.5)	—	384	波頂部スリット、横槽円貼付文	109
27	西斜面	B-13	—	深鉢	安行 1	(10.4)	(15.2)	—	316	頸部付近ごく一部で炭化物残存	109
28	西斜面	C-13	—	深鉢	安行 2	(21.7)	(23.2)	—	1767		110
29	西斜面	E-17c	D層	深鉢	後期後～晚期前葉	(7.2)	(20.0)	—	34		110
30	西斜面	D-18⑳	C層	深鉢	後期後～晚期前葉	(13.3)	(22.0)	—	333	破片 a は土器片加工品、破片 b～d 接点部摩滅	110
31	西斜面	D-18㉑	C層	深鉢	安行 3 a	(13.6)	(24.0)	—	271		110
32	西斜面	D-18a	CD層	深鉢	安行 3 b か	(13.8)	(12.6)	—	229		110
33	西斜面	D-17㉒	C層	深鉢	安行 2～3 a	(15.9)	(20.4)	—	197		110
34	西斜面	D-18	縄文層	深鉢	安行 3 b	(15.2)	(26.0)	—	477	頸部一部に輪積痕残存	110
35	西斜面	D-17	—	深鉢	安行 3 b	(8.2)	(26.2)	—	477		110
36	西斜面	D-18	縄文層	深鉢	安行 3 b	(8.2)	(21.0)	—	123		110
37	西斜面	C-18d	D層	深鉢	安行 3 b	7.6	(22.4)	—	259		110
38	西斜面	D-18	縄文層	台付鉢	安行 3 b	(40.6)	(20.1)	—	1024	脚台部欠失	111
39	西斜面	D-18	縄文層	台付鉢	安行 3 b	(9.2)	—	—	155		111
40	西斜面	D-18	C層	台付鉢	安行 3 b	(4.8)	(25.0)	—	265		111
41	西斜面	D-17	—	壺形土器	安行 3 b	(6.4)	(13.0)	—	128		111
42	西斜面	D-17	C層	壺形土器	安行 3 b	(10.3)	9.4	—	375		111
43	西斜面	B-13	—	注口土器	晚期前葉	(13.3)	(11.6)	—	164	側面穿孔あり	111
44	西斜面	B-13	—	浅鉢	晚期前葉	(8.2)	(22.4)	—	173	動物意匠か	111
45	西斜面	D-18	縄文層	深鉢	安行 3 a	(9.8)	(13.1)	—	114		112
46	西斜面	E-17b	C層	深鉢	晚期前～中葉	(13.8)	(30.0)	—	289	口辺内外指頭押圧、輪積痕残存	112
47	西斜面	D-18	縄文層	深鉢	安行期か	(6.5)	(24.0)	—	140	口縁部輪積痕残存	112
48	西斜面	D-18	縄文層	深鉢	安行 3 c か	(12.8)	(30.0)	—	832		112
49	西斜面	C・D-17	—	深鉢	安行 3 c	(12.5)	(29.6)	—	209		112
50	西斜面	D-17・18	D層・縄文層	深鉢	安行 3 c	(6.0)	(20.8)	—	160		112
51	西斜面	D-17㉓	C層	深鉢	安行 3 a	(6.2)	(15.4)	—	165	歪みあり、灰白色	112
52	西斜面	—	—	台付鉢	安行 3 b	(7.0)	—	(13.2)	139	方形透孔、重量は石膏含む	112
53	西斜面	C-18c	D層	角底土器	晚期前葉	—	—	(12.9)	190		112
54	西斜面	D-17	—	皿形土器	晚期安行期か	4.5	(23.0)	(18.8)	188		112
55	西斜面	D-16	—	浅鉢か	晚期前葉か	(3.4)	—	4.3	381		113
56	西斜面	C-17	—	深鉢	安行 1	(17.2)	(27.4)	—	319	口縁下部に工具痕	113
57	西斜面	—	—	深鉢	安行 1	(12.0)	(18.0)	—	157	内外面一部に輪積痕残存	113
58	西斜面	D-17	C層	深鉢	安行 2～3 a	(9.6)	(31.5)	—	222		113
59	西斜面	C-18c	D層	深鉢	安行 2～3 a	(9.6)	(28.0)	—	186		113
60	西斜面	D-17	縄文層	深鉢	晚期前～中葉	(22.5)	(22.0)	—	362	複合口縁、指頭押圧	113
61	西斜面	D-17	—	深鉢	晚期前～中葉	(12.1)	(21.4)	—	426	複合口縁、指頭押圧	113
62	西斜面	D-17	—	深鉢	晚期前～中葉	(9.4)	(26.6)	—	213	複合口縁、一部に刺突	113
63	西斜面	D-18㉔	C層	深鉢	晚期前～中葉	(15.7)	(29.0)	—	368	上半ナデ、下半輪積痕	114
64	西斜面	D-18	縄文層	深鉢	晚期前～中葉	(14.1)	(23.6)	—	304	複合口縁、指頭押圧	114
65	西斜面	D-17	—	深鉢	晚期前～中葉	(6.2)	(21.6)	—	181	複合口縁、胴最上部指頭押圧	114
66	西斜面	D-18㉕	C層	深鉢	晚期前葉	(24.1)	(25.4)	—	902	輪積痕顕著	114
67	西斜面	D-18㉖	D層	深鉢	晚期か	(8.2)	(34.0)	—	411		114
68	西斜面	D-17	縄文層	深鉢	晚期前葉か	(7.8)	(25.4)	—	190	輪積痕	114
69	西斜面	D-18	縄文層	深鉢	晚期	(10.7)	(25.0)	—	417		114
70	西斜面	D-18c	C層	壺型か	後晚期	(7.0)	(14.6)	—	342		114
71	西斜面	E-17	—	壺型土器	晚期	(11.2)	(11.0)	—	277	輪積痕	114
72	西斜面	D-18b	C層	小型壺	後期か	(7.7)	(6.2)	—	69	口縁部小孔、輪積痕	114

第10表 縄文土器一覽表

番号	位置	層位	時期	写真図版	番号	位置	層位	時期	写真図版	番号	位置	層位	時期	写真図版
【第121号住居跡】(第20・21図)					16	SK698	—	堀之内1	116-2	93	SK732~734	—	加曾利EIV	117-3
4	SJ121d	—	堀之内1	115-1	17	SK698	—	後期安行	116-2	94	SK732~734	—	晩期	117-3
5	SJ121a	—	堀之内1	115-1	18	SK702	—	堀之内1	116-2	96	SK734	—	勝坂	117-3
6	SJ121d	—	堀之内1	115-1	19	SK702	—	堀之内2	116-2	97	SK734	—	称名寺2	117-3
7	SJ121	—	堀之内1		21	SK703	—	加曾利B3	116-2	98	SK734	—	堀之内2	117-3
8	SJ121 P12	—	堀之内1	115-1	22	SK703	—	後期中~後葉	116-2	99	SK734	—	堀之内2	
9	SJ121a	—	堀之内1	115-1	23	SK703	—	加曾利B2	116-2	100	SK734	—	曾谷	117-3
10	SJ121	—	堀之内1	115-1	27	SK722	—	堀之内2	116-2	101	SK734	—	安行1	117-3
11	SJ121 P18	—	堀之内1		29	SK729	—	堀之内1	116-2	102	SK734	—	後期後~晩期前葉	117-3
12	SJ121d	—	堀之内1	115-1	30	SK729	—	堀之内2	116-2	103	SK734	—	後期後~晩期前葉	
13	SJ121 P18	—	堀之内1		31	SK729	下層	堀之内1	116-2	105	SK775	—	阿玉台	117-3
14	SJ121b	—	堀之内1		32	SK743	—	早期後葉	116-3	106	SK775	—	後期中~後葉	117-3
15	SJ121d	—	堀之内1		33	SK743	—	早期後葉	116-3	108	SK795	—	堀之内1	117-3
16	SJ121a	—	堀之内1		34	SK743	—	中期初頭	116-3	109	SK795	—	晩期前葉	117-3
17	SJ121d	—	堀之内1	115-1	35	SK743	—	中期初頭	116-3	110	SK795	—	堀之内1	150-1
18	SJ121 P11	—	堀之内1	115-1	36	SK744	—	早期後葉	116-3	111	SK796	—	堀之内1	117-3
19	SJ121d	—	堀之内1		37	SK744	—	中期初頭	116-3	【溝状遺構】(第40図)				
20	SJ121a	—	堀之内1		38	SK744	—	後期前葉	116-3	1	SD52	—	後期安行	115-2
21	SJ121d	—	堀之内1	115-1	40	SK751	—	堀之内1	116-3	【第3号木組遺構】(第62図)				
22	SJ121	—	堀之内1	115-1	41	SK751	—	堀之内2	116-3	4a	3号木組	内部堆積土	堀之内1	118-1
23	SJ121b	—	堀之内1	115-1	42	SK751	—	堀之内2	116-3	4b	西斜面D-17	D層	堀之内1	118-1
24	SJ121a	—	堀之内1		43	SK751	—	堀之内2	116-3	5	3号木組	内部堆積土	安行2	118-1
25	SJ121a	—	堀之内1	115-1	44	SK752	—	堀之内2	116-3	6	3号木組	内部堆積土	晩期安行	118-1
26	SJ121c	—	堀之内1	115-1	45	SK752	—	堀之内2	116-3	7	3号木組	内部堆積土	晩期安行	118-1
27	SJ121a	—	堀之内1	115-1	47	SK753	—	堀之内1	116-3	8	3号木組	内部堆積土	晩期安行	118-1
28	SJ121b	—	堀之内2	115-2	50	SK763	—	堀之内1	117-1	9	3号木組	内部堆積土	晩期安行	118-1
29	SJ121b	—	堀之内2	115-2	51	SK763	3層	堀之内1		10	3号木組	内部堆積土	晩期前葉	118-1
30	SJ121	—	堀之内2	115-2	52	SK763	3層	堀之内1	117-1	11	3号木組	内部堆積土	晩期前葉	
31	SJ121a	—	堀之内2	115-2	53	SK763	3層	堀之内2	117-1	12	3号木組	堆積土	安行3c	118-1
32	SJ121b	—	堀之内2	115-2	54	SK763	3層	堀之内2	117-1	13	3号木組	—	加曾利B3	
33	SJ121b	—	堀之内2	115-2	55	SK763	—	堀之内2		14	3号木組	検出面	曾谷	
34	SJ121a	—	堀之内2		60	SK768	—	堀之内1	117-1	15	3号木組	検出面	曾谷	
35	SJ121a	—	堀之内2	115-2	61	SK768	—	堀之内2	117-1	16	3号木組	—	曾谷	
36	SJ121a	—	堀之内2	115-2	62	SK776	—	曾谷・高井東	117-1	17	3号木組	—	安行1	118-1
37	SJ121b	—	堀之内2	115-2	63	SK785	—	加曾利B	117-1	18	3号木組	—	安行2~3a	118-1
38	SJ121a	—	堀之内2		64	SK790	—	堀之内1	117-1	19	3号木組	検出面	安行2~3a	
39	SJ121d	—	堀之内2	115-2	65	SK727	—	堀之内1	117-1	20	3号木組	木材周辺	晩期前葉	
40	SJ121b	—	堀之内2		66	SK727	—	晩期前~中葉	117-1	21	3号木組	検出面	晩期中葉	118-1
41	SJ121b	—	堀之内2		67	SK726	—	晩期前~中葉	117-1	22	3号木組	検出面	晩期前~中葉	118-1
【第122号住居跡】(第23図)					69	SK730	—	堀之内2	117-2	23	3号木組	—	加曾利Bか	151-2
1	SJ122	—	堀之内1	115-2	70	SK730	—	堀之内2		24	3号木組	—	堀之内1	150-1
【土壇】(第31~34・38・39図)					71	SK730	—	加曾利B2	117-2	【第4号木組遺構】(第73図)				
1	SK688	—	堀之内1	115-3	72	SK730	—	曾谷	117-2	1	4号木組	下面	加曾利B3	118-2
2	SK689	—	早期後葉	115-3	73	SK730	—	晩期安行	117-2	2	4号木組	下面	後期後葉	118-2
3	SK689	—	早期後葉	115-3	74	SK730	—	安行3b	117-2	3	4号木組	下面	安行2~3a	118-2
4	SK689	—	早期後葉	115-3	75	SK730	—	後期後~末葉	117-2	4	4号木組	下部	安行3b	118-2
5	SK689	—	早期後葉	115-3	76	SK730	—	晩期		5	4号木組	下面	安行3c	118-2
6	SK689	—	早期後葉	115-3	77	SK730	—	晩期	117-2	6	4号木組	下面	安行2	118-2
7	SK691	—	堀之内2	116-1	81	SK732	—	後期前葉	117-2	7	4号木組	下面	安行2	118-2
8	SK692	—	加曾利B3~曾谷	116-1	82	SK732	—	堀之内1	117-2	8	4号木組	—	晩期前葉	
9	SK692	—	後期中葉	116-1	83	SK732	—	堀之内1	117-2	9	4号木組	下面	晩期前葉	
10	SK692	—	加曾利B3~曾谷	116-1	84	SK732	—	堀之内2	117-2	10	4号木組	下面	後期後~晩期前葉	
11	SK694	—	堀之内2	116-1	85	SK732	—	後期後葉	117-2	11	4号木組	下面	堀之内	150-1
12	SK694	—	堀之内2	116-1	86	SK732	—	後期後~晩期前葉	117-2	12	4号木組	下面	堀之内	150-1
13	SK694	—	後期前葉	116-1	87	SK733	—	堀之内1	117-3	14	4号木組	最下層	加曾利B1	118-2
14	SK695	—	堀之内2	116-1	88	SK733	—	晩期中葉	117-3	15	4号木組	最下層	加曾利B	118-2
15	SK695	—	堀之内2	116-1	89	SK733	—	晩期前~中葉	117-3					
					90	SK733	—	晩期前~中葉	117-3					

番号	位置	層位	時期	写真図版	番号	位置	層位	時期	写真図版	番号	位置	層位	時期	写真図版					
16	4号木組	最下層	晩期安行	118-2	44	5号木組	A断面1~m層	加曾利B3 ~曾谷	119-1	26	SK774	—	安行3b	120-1					
17	4号木組	最下層	晩期安行	118-2	45	5号木組	B断面17層	加曾利B1		27	SK774	—	晩期安行	120-1					
18	4号木組	最下層 (充填粘土下)	安行3a~b	118-2	46	5号木組	A断面1~m層	加曾利B3 ~曾谷	119-1	28	SD56	最下層	安行3c						
19	4号木組	最下層	安行3a~b	118-2	47	5号木組	B断面9・10層	晩期前中葉	119-1	29	SD56	最下層	安行3c	120-1					
20	4号木組	最下層 (充填粘土下)	晩期安行	118-2	48	5号木組	A断面1~m層	後期後~ 晩期前葉		30	SK774	—	—	120-1					
21	4号木組	最下層	後期後葉		49	5号木組	堆積土	堀之内1	150-1	31	SK774	—	晩期	120-1					
22	4号木組	木材面下層	後期後~ 晩期前葉		50	5号木組	堆積土	堀之内1	150-1	32	SK774	—	曾谷・高井東	120-1					
23	4号木組	最下層	後期後~ 晩期前葉		51	5号木組	堆積土	堀之内	150-1	33	SK774	—	—	120-1					
24	4号木組	木材面下層	晩期前葉	118-2	【木道状遺構】(第91図)					34	SK774	—	晩期前葉	120-1					
25	4号木組	最下層	晩期前葉		1	1号木道	—	堀之内2	119-2	35	SK774	—	安行3a	120-1					
26	4号木組	最下層	晩期前葉		2	1号木道	—	晩期安行	119-2	36	SK774	—	安行3a	120-1					
27	4号木組	木材面下層	晩期前葉		3	1号木道	最下層	安行3b~c	119-2	37	SD56	最下層	後期後葉						
28	4号木組	最下層砂層	晩期前葉	118-2	4	2号木道	最下層	安行1	119-2	38	SD56	A断面17層	加曾利B						
29	4号木組	最下層	晩期前葉		5	2号木道	—	安行3a	119-2	39	SK774	—	晩期前葉						
30	4号木組	木材面下層	晩期中葉	118-2	6	2号木道	下層	安行3a	119-2	40	SK774	—	晩期前葉						
31	4号木組	木材面下層	晩期中葉		7	2号木道	下層	安行3a	119-2	41	SK774	—	晩期前~中葉	120-1					
【第5号木組遺構】(第82~84図)					【第1・2号導水溝状遺構】(第94図)					42	SK774	—	晩期前~中葉	120-1					
2	5号木組	最下層	安行2	118-3	1	エリアC	最下層	加曾利B1	119-2	43	SK774	—	晩期前~中葉	120-1					
3	5号木組	最下層	晩期安行	118-3	2	エリアC	最下層	加曾利B1	119-2	44	SD56	A断面17層	晩期前~中葉	120-1					
4	5号木組	SK728下層	阿玉台	118-3	3	エリアC	最下層	晩期安行	119-2	45	SK774	—	安行3c						
5	5号木組	SK728下層	堀之内1	118-3	4	エリアC	木材下面最下層	晩期安行	119-2	46	SK774	—	安行3c						
6	5号木組	SK728下層	堀之内		5	2号導水溝	最下層	安行3c	119-2	47	SD56	最下層	晩期前~中葉						
7	5号木組	SK728下層	堀之内2		6	エリアC	最下層	後期安行	119-2	48	SD56	最下層	晩期前~中葉						
8	5号木組	SK728下層	堀之内2		7	エリアC	最下層	安行2~3a	119-2	49	SK774	—	晩期中葉						
9	5号木組	SK728下層	堀之内2	118-3	8	エリアC	最下層	安行2~3a	119-2	50	SK774	—	晩期前~中葉	120-1					
10	5号木組	B断面15~17層	堀之内2	118-3	9	エリアC	最下層	安行3b~c	119-2	51	SK774	—	晩期前~中葉						
11	5号木組	SK728下層	加曾利B	118-3	10	エリアC	最下層	安行3c	119-2	52	SD56	最下層	晩期前~中葉						
12	5号木組	SK728下層	加曾利B1	118-3	11	エリアC	最下層	後期末葉		【開削部土器集積層】(第98~101図)									
13	5号木組	SK728下層	加曾利B1	118-3	12	エリアC/ 4号木組	最下層	晩期		13	エリアB	土器集積層	加曾利EⅢ	120-2					
14	5号木組	SK728下層	加曾利B2	118-3	【第3号導水溝状遺構】(第95・96図)					14	エリアB	土器集積層	堀之内	120-2					
15	5号木組	SK728下層	後期中葉	118-3	1	SK774	—	堀之内1	119-3	15	エリアB	土器集積層	堀之内2	120-2					
16	5号木組	B断面5~8層	晩期安行	118-3	2	SK774	—	堀之内2	119-3	16	エリアB	土器集積層	堀之内2	120-2					
17	5号木組	SK728下層	晩期安行	118-3	3	SK774	—	堀之内2		17	エリアB	土器集積層	堀之内1	120-2					
20	5号木組	壁際流入土	加曾利EⅢ		4	SK774	—	堀之内		18	エリアB	土器集積層	加曾利B2	120-2					
21	5号木組	A断面1~o層	堀之内1	119-1	5	SK774	—	加曾利B1	119-3	19	エリアB	土器集積層	曾谷						
22	5号木組	壁際流入土	堀之内1	119-1	6	SK774	—	加曾利B	119-3	20	エリアB	土器集積層	曾谷						
23	5号木組	A断面1~o層	堀之内1		7	SK774	—	加曾利B	119-3	21	エリアB	土器集積層	曾谷	120-2					
24	5号木組	壁際流入土	堀之内1		8	SK774	—	加曾利B	119-3	22	エリアB	土器集積層	後期安行						
25	5号木組	壁際流入土	堀之内1	119-1	9	SK774	—	加曾利B2~3	119-3	23	エリアB	土器集積層	曾谷	120-2					
26	5号木組	A断面1~o層	堀之内1		10	SD56	A断面17層	曾谷~安行1		24	エリアB	土器集積層	安行1	120-3					
27	5号木組	B断面17層	堀之内2	119-1	11	SD56	最下層	曾谷~安行1	119-3	25	エリアB	土器集積層	安行2~3a	120-3					
28	5号木組	壁際流入土	堀之内2	119-1	12	SK774	—	曾谷~安行1		26	エリアB	土器集積層	安行2~3a	120-3					
29	5号木組	壁際流入土	堀之内2	119-1	13	SK774	—	曾谷~安行1	119-3	27	エリアB	土器集積層	安行2~3a	120-3					
30	5号木組	壁際流入土	堀之内1		14	SK763	—	安行1		28	エリアB	土器集積層	安行3a~b	120-3					
31	5号木組	壁際流入土	堀之内1		15	SK774	—	安行1	119-3	29	エリアB	土器集積層	安行3a~b	120-3					
32	5号木組	壁際流入土	堀之内2	119-1	16	SD56	A断面17層	安行1	119-3	30	エリアB	土器集積層	晩期前葉	120-3					
33	5号木組	壁際流入土	堀之内2	119-1	17	SK774	—	安行2	119-3	31	エリアB	土器集積層	晩期前葉						
34	5号木組	壁際流入土	堀之内2	119-1	18	SK774	—	安行2~3a	119-3	32	エリアB	土器集積層	晩期前葉	120-3					
35	5号木組	壁際流入土	堀之内2		19	SD56	A断面17層	安行2~3a		33	エリアB	土器集積層	安行3a~b	120-3					
36	5号木組	壁際流入土	堀之内2	119-1	20	SD56E ペルト	A断面17層	安行2~3a	119-3	34	エリアB	土器集積層	安行1	121-1					
37	5号木組	B断面17層	堀之内2		21	SK774	—	晩期安行	119-3	35	エリアB	土器集積層	安行3a	121-1					
38	5号木組	A断面1~m層	加曾利B1		22	SK774	—	安行2~3a		36	エリアB	土器集積層	安行2~3a	121-1					
39	5号木組	B断面17層	加曾利B1		23	SK774	—	安行2~3a	120-1	37	エリアB	土器集積層	晩期前葉	121-1					
40	5号木組	A断面1~m層	加曾利B1	119-1	24	SK774	—	晩期前葉	120-1	38	エリアB	土器集積層	後期後~ 晩期前葉						
41	5号木組	A断面1~m層	加曾利B1		25	SK774	—	晩期前葉		39	エリアB	土器集積層	晩期前葉						
42	5号木組	A断面1~m層	加曾利B1	119-1											40	エリアB	土器集積層	晩期前葉	
43	5号木組	B断面17層	加曾利B2	119-1											41	エリアB	土器集積層	晩期前葉	
										42	エリアB	土器集積層	晩期前葉	121-1	42	エリアB	土器集積層	晩期前葉	121-1
										43	エリアB	土器集積層	晩期前葉	121-1	43	エリアB	土器集積層	晩期前葉	121-1

※水場遺構関連の層位の断面は第48~53図に対応

番号	位置	層位	時期	写真図版	番号	位置	層位	時期	写真図版	番号	位置	層位	時期	写真図版
44	エリアB	土器集積層	晩期前葉	121-1	45	エリアC	—	安行3b~c	122-2	57	E-20	縄文層	堀之内1	
45	エリアB	土器集積層	晩期前葉	121-1	46	E-19・20	木組層・縄文層	安行3b~c	122-2	58	E-20	D断面4層	堀之内1	123-3
46	エリアB	土器集積層	晩期前葉		47	4号木組	最下層	晩期前葉		59	F-20	—	堀之内1	123-3
47	エリアB	土器集積層	晩期前葉	121-1	48	水場遺構	—	晩期前葉	122-2	60	F-20	—	堀之内1	123-3
48	エリアB	土器集積層	晩期前葉	121-1	49	エリアC	—	晩期前葉	122-2	61	E-19	縄文層	堀之内1	123-3
49	エリアB	土器集積層	後期後～晩期前葉		50	D-19	最下層	晩期前葉		62	E-19	—	堀之内1	
50	エリアB	土器集積層	後期後～晩期前葉		51	D-20	最下層	晩期前葉	122-2	63	F-19	—	堀之内1	123-3
51	エリアB	土器集積層	晩期か		【水場遺構一括】(第109～120図)					64	D-19	縄文層	堀之内1	123-3
【開削部最下層】(第102図)					11	F-19	C層	鶺鴒ヶ島台	122-3	65	E-19	木材面下層	堀之内1	
69	エリアB	最下層	加曾利B2		12	F-20	縄文層	茅山上層	122-3	66	F-20	縄文層	堀之内1	123-3
70	エリアC	最下層	晩期前葉		13	E-19	縄文層	茅山上層	122-3	67	F-20	—	堀之内1	123-3
71	エリアB	最下層	晩期前葉		14	E-19	C層	茅山上層	122-3	68	E-19	木組層	堀之内1	123-3
72	エリアB	最下層	晩期前葉		15	E-19	最下層	阿玉台I b	122-3	69	F-19	縄文層	堀之内1	
73	エリアB	最下層	後期中～後葉	151-1	16	F-20	C層	阿玉台I b	122-3	70	E-19	木組層	堀之内1	123-3
74	エリアB	最下層	不明	151-1	17	F-19	—	阿玉台I b	122-3	71	水場遺構	C断面6～11層	堀之内1	
【水場遺構最下層】(第104～106図)					18	E-19	—	阿玉台I b		72	E-18	E断面1層	堀之内1	123-3
3	水場遺構	—	後期初頭か	121-2	19	E-19	—	阿玉台I b	122-3	73	E-20	D断面4・5層	堀之内1	123-3
4	水場遺構	砂層	称名寺2	121-2	20	E-20b	縄文層	阿玉台I b		74	D-19	縄文層	堀之内1	124-1
5	E-19	最下層	堀之内1	121-2	21	エリアD 19ライン 24～27	最下層	阿玉台I b		75	E-19	E断面8・9層	堀之内1	124-1
6	水場遺構	最下層	堀之内1		22	E-20	C層	阿玉台II	122-3	76	E-19	縄文層	堀之内2	
7	E-19	最下層	堀之内1		23	D-19	F層	阿玉台II	122-3	77	E-19	—	堀之内2	
8	水場遺構	I断面16層	堀之内2	121-2	24	F-19c	縄文層	狹沢	122-3	78	E-19	—	堀之内2	
9	E-19	北壁縄文8層	堀之内2	121-2	25	F-20	縄文層	狹沢	122-3	79	F-19	—	堀之内2	124-1
10	E-20b	最下層	加曾利B1	121-2	26	E-19c	堅果類集積層	狹沢		80	E-19	縄文層	堀之内2	124-1
11	水場遺構	流心部下層	加曾利B3 ～曾谷	121-2	27	D-19	縄文層	新道	122-3	81	E-19	—	堀之内2	124-1
12	水場遺構	流心部下層	加曾利B2	121-2	28	E-19	C層	新道	122-3	82	F-18・19	—	堀之内1	124-1
13	水場遺構	最下層	加曾利B2	121-2	29	F-19	最下層	藤内	123-1	83	E-20	—	堀之内1	124-1
14	E-20	最下層	加曾利B1	121-2	30	E-19	C3層	藤内	123-1	84	E-20	E断面3層	堀之内1	124-1
15	E-19	—	曾谷	121-2	31	E-20	E断面3層	藤内	123-1	85	E-18	D層	堀之内1	124-1
16	水場遺構	最下層	曾谷	121-2	32	水場遺構	C断面6～11層	井戸尻	123-1	86	F-19	縄文層	堀之内2	124-1
17	E-19	最下層	安行3a	121-3	33	水場遺構	F断面23層	加曾利EIII～IV	123-1	87	F-20	縄文層	堀之内2	124-1
18	E-19	—	安行3a	121-3	34	E-19	縄文層	加曾利EIII～IV	123-1	88	E-19	縄文層	加曾利B1	124-2
19	エリアC	最下層	安行3a	121-3	35	E-20	—	加曾利EIII～IV	123-1	89	E-19	—	加曾利B1	124-2
20	水場遺構	最下層	後期末葉	121-3	36	F-19	縄文層	加曾利EIII～IV	123-1	90	水場遺構	F断面25層	加曾利B1	124-2
21	水場遺構	最下層	安行3b	121-3	37	E-19	縄文層	加曾利EIII～IV	123-1	91	E-19	縄文層	加曾利B1	124-2
22	水場遺構	最下層	晩期前葉	121-3	38	水場遺構	縄文層	加曾利EIII～IV	123-1	92	F-20	E断面9層	加曾利B1	124-2
23	F-19	最下層	晩期前葉	121-3	39	E-18	縄文層	加曾利EIV	123-1	93	E-19	縄文層	加曾利B1	124-2
24	E-19	最下層	安行2～3a	121-3	40	F-19	縄文層	称名寺2	123-1	94	D-20	—	加曾利B	124-2
25	E-19	最下層	安行3a	121-3	41	E-19	—	称名寺2		95	E-20	縄文層	加曾利B	124-2
26	F-19	—	安行3a		42	F-20	縄文C層	後期初頭～前葉	123-1	96	D-19	縄文層	加曾利B	124-2
27	4号木組	最下層	安行3a	121-3	43	水場遺構	縄文層	堀之内1	123-2	97	水場遺構	縄文層	加曾利B2	124-2
28	F-19	最下層	晩期前葉	121-3	44	F-19	縄文層	堀之内1	123-2	98	E-20	縄文層	加曾利B2	124-2
29	D-20	最下層	晩期前葉	121-3	45	E-19	縄文層	堀之内1	123-2	99	D-20	木組層	加曾利B	
30	F-19	最下層	晩期前葉	121-3	46	F-19	縄文層	堀之内1		100	水場遺構	縄文層	加曾利B	124-2
31	水場遺構	最下層	晩期前葉		47	E-19	縄文層	堀之内1	123-2	101	D-19	K断面6層	加曾利B	124-2
32	水場遺構	最下層	晩期前葉	122-1	48	E-19	縄文層	堀之内1	123-2	102	E-20	E断面9層	曾谷・高井東	124-2
33	F-19	最下層	晩期前葉	122-1	49	E-19	木組層	堀之内1		103	E-19	—	曾谷・高井東	124-3
34	水場遺構	最下層	晩期前葉		50	F-20	縄文層	堀之内1	123-2	104	E-19	I断面3・7～11層	曾谷・高井東	124-3
35	E-19	E断面7層	姥山Ⅲ	122-1	51	E-19	木組層	堀之内1		105	水場遺構	F断面24～27層	曾谷・高井東	124-3
36	水場遺構	最下層	晩期前～中葉	122-1	52	D-19	K断面6層	堀之内1	123-2	106	水場遺構	C断面6～11層	曾谷・高井東	124-3
37	水場遺構	下層	晩期前葉	122-1	53	E-19	木組層	堀之内1	123-2	107	E-20	E断面7層	曾谷・高井東	
38	D-20	最下層	安行3c～d	122-1	54	水場遺構	C断面6～11層	堀之内1	123-2	108	E-19	縄文層	高井東	124-3
39	D-20	最下層	安行3c～d	122-1	55	水場遺構	縄文層	堀之内1	123-2	109	E-19	C層	曾谷	
40	水場遺構	I断面16層	安行3c	122-1	56	D-20	自然木出土層	堀之内1	123-2	110	D-19	縄文層	後期中葉	124-3
41	水場遺構	D断面8層	安行3c							111	D-19	縄文層	加曾利B3 ～曾谷	124-3
42	水場遺構	D断面8層	安行3c							112	水場遺構	A断面縄5・6層 以下	曾谷	124-3
43	エリアC	最下層	安行3b～c	122-2						113	水場遺構	縄文層	加曾利B	124-3
44	水場遺構	下層	安行3b～c	122-2										

※水場遺構関連の層位の断面は第48～53図に対応

番号	位置	層位	時期	写真図版	番号	位置	層位	時期	写真図版	番号	位置	層位	時期	写真図版
114	E-19	—	加曾利B	124-3	174	E-19	木組層	安行3c~d	126-1	234	水場遺構	縄文層	後期か	127-1
115	D-19	D層	加曾利B	124-3	175	E-19	縄文層	安行3c~d	126-1	235	E-19	—	後期安行	127-1
116	F-18	—	加曾利B	124-3	176	F-19	1層	安行3c~d		236	E-19	—	安行3a~b	
117	E-19	木組層	加曾利B		177	E-19	木組層	姥山系	126-1	237	D-20	木組層	晩期末葉	127-1
118	E-19	—	加曾利B	124-3	178	E-19	縄文層	姥山系	126-1	【東斜面】(第131~149図)				
119	F-20	縄文層	加曾利B		179	E-19	木組層	安行3c		16	G-24	D層	野島	127-2
120	F-20	縄文層	加曾利B		180	E-19	木組層	安行3c		17	G-24	D層	野島	127-2
121	D-19	D断面4層	加曾利B	125-1	181	E-19	木組層	安行3c		18	H-25	縄文層	茅山下層	127-2
122	E-19	—	加曾利B	125-1	182	E-19	木組層	安行3c		19	I-27	—	茅山下層	127-2
123	F-19	縄文層	後期中葉	124-3	183	E-19	縄文層	安行3c		20	基本層序1	—	茅山下層	127-2
124	E-19	縄文層	晩期前~中葉		184	E-19	D断面9~12層	安行3c		21	I-27	—	茅山下層	127-2
125	E-19	縄文層	晩期前~中葉		185	E-19	木組層	安行3c		22	I-26	—	茅山下層	127-2
126	E-19	縄文層	晩期前~中葉		186	E-19	I断面7~11層	安行3c		23	I-26	—	茅山下層	127-2
127	水場遺構	F断面24~27層	高井東		187	E-19	—	安行3c		24	G-25	—	下沼部	127-2
128	E-19	縄文層	加曾利B	125-1	188	E-19	木組層	安行3c	126-1	25	台地部	—	下沼部	127-2
129	E-19	縄文層	加曾利B	125-1	189	E-19	木組層	安行3c	126-1	26	G-24	CD層	野島	127-2
130	E-20	F断面3層	加曾利B1	125-1	190	E-19	木組層	安行3c		27	H-25	台地縄文層	野島	127-2
131	F-19	—	加曾利B	125-1	191	E-19	木組層	安行3c	126-1	28	G-23	D層上面	野島	127-2
132	E-20	F断面3層	加曾利B1	125-1	192	D-20	木組層	後期安行		29	H-27	—	野島	127-2
133	F-20	—	加曾利Bか		193	E-19	堅果類集積層	後期安行		30	G-25	台地縄文層	野島	127-2
134	水場遺構	縄文層	加曾利B	125-1	194	E-19	縄文層	後期安行	126-2	31	G-25	D層	野島	127-2
135	E-19	A断面10・11層	後期安行	125-2	195	F-19	縄文層	後期安行	126-2	32	G-24	台地縄文層	茅山下層	127-2
136	水場遺構	A断面6~11層	安行1	125-2	196	E-19	—	安行2~3a		33	F-21	D層	茅山下層	127-2
137	D-19	縄文層	安行1	125-2	197	E-19	—	安行2~3a		34	台地部	—	野島	127-2
138	F-19	—	安行2~3a	125-2	198	E-19	—	安行2~3a	126-2	35	G-24	CD層	野島	127-2
139	E-19	—	安行2~3a	125-2	199	F-19	縄文層	安行2~3a	126-2	36	G-25	—	茅山下層	127-3
140	D-19	—	安行2~3a	125-2	200	E-19	木組層	安行2~3a	126-2	37	G-24	台地縄文層	茅山下層	127-3
141	F-20	—	安行2~3a	125-2	201	E-19	—	安行2~3a	126-2	38	G-24	—	茅山下層	127-3
142	E-20	—	安行3b	125-2	202	E-20	D断面6層	安行3b~c		39	G-24	D層	茅山下層	127-3
143	水場遺構	—	安行3b	125-2	203	E-19	—	安行3b~c	126-2	40	I-27	—	茅山下層	127-3
144	D-20	北壁縄5層	安行2~3a		204	E-19	—	安行2	126-2	41	H-24	—	茅山下層	127-3
145	水場遺構	北壁縄5・6層下	安行1	125-2	205	E-19	D断面10・11層	安行2	126-2	42	H-27	—	茅山下層	127-3
146	D-19	縄文層	後期後葉		206	水場遺構	F断面25層	安行2	126-2	43	H-26	D層	茅山下層	127-3
147	E-20	木組縄文層	安行2~3a	125-2	207	E-19	木組層	安行3b	126-2	44	H-25	—	茅山下層	127-3
148	E-20	E断面9層	晩期前葉	125-2	208	F-19	縄文層	晩期前葉	126-2	45	J-28	—	茅山下層	127-3
149	E-20	D層	安行2~3a		209	水場遺構	C断面6~11層	晩期前葉	126-2	46	G-22	DE層	茅山下層	127-3
150	D-19	縄文層	安行2~3a		210	E-20	—	晩期安行		47	H-29	—	茅山下層	127-3
151	F-19	縄文層	安行2~3a	125-2	211	E-19	木組層	晩期安行	126-3	48	G-25	—	茅山下層	127-3
152	E-19	23層	安行2~3a		212	E-20	—	晩期安行	126-3	49	G-25	C層	茅山下層	127-3
153	D-19	—	安行2~3a	125-3	213	E-19	木組層	晩期安行	126-3	50	G-24	D層	茅山下層	127-3
154	E-19	木組層	安行3a	125-3	214	E-19	—	晩期安行		51	I-26	—	黒浜	128-1
155	水場遺構	—	安行3a	125-3	215	E-19	—	晩期安行	126-3	52	台地部	—	黒浜	128-1
156	E-19	堅果類集積層	晩期安行	125-3	216	E-19	縄文層	晩期安行		53	I-27	—	黒浜	128-1
157	E-19	木組層	晩期安行	125-3	217	E-17	木組層	晩期安行		54	G-23	C層	黒浜~諸磯a	128-1
158	水場遺構	—	晩期安行	125-3	218	E-19	下層	晩期安行		55	台地部	—	黒浜~諸磯a	128-1
159	水場遺構	C断面6~11層	晩期安行	125-3	219	E-19	縄文層	後晩期		56	I-27	—	諸磯b3	128-1
160	E-19	木組層	安行3b	125-3	220	E-20	縄文層	晩期安行		57	G-24	D層	諸磯c	128-1
161	E-19	木組層	晩期安行		221	水場遺構	—	晩期安行		58	G-24d	台地縄文層	諸磯c	128-1
162	E-19	縄文層	晩期安行	125-3	222	水場遺構	C断面6~11層	晩期安行	126-3	59	H-24a	台地縄文層	諸磯c	
163	E-19	木組層	晩期安行	125-3	223	E-19	—	晩期安行		60	G-24a	D層	諸磯c	
164	E-19	木組層	大洞C1	125-3	224	E-19	—	晩期安行	126-3	61	G-24	D層	諸磯c	128-1
165	E-19	木組層	安行3c	126-1	225	E-19	木組層	晩期前葉		62	G-23	縄文層	諸磯c	128-1
166	E-19	木組層	安行3c		226	E-19	下層	晩期前葉	126-3	63	G-24	—	諸磯c	128-1
167	E-19	木組層	安行3c		227	E-19	下層	晩期前葉	126-3	64	G-23c	台地縄文層	諸磯c	128-1
168	E-19	木組層	安行3c		228	E-19	—	晩期前葉	126-3	65	G-24b	D層	諸磯c	128-1
169	E-19	木組層	安行3c		229	E-19	木組層	晩期前葉		66	G-24	A層	諸磯c	
170	E-19	木組層	安行3c	126-1	230	D-20	—	晩期前葉		67	G-23	C層	諸磯c	
171	E-19	木組層	安行3c	126-1	231	E-18	1層	後期前~中葉	127-1	68	G-24	C層	諸磯c	
172	水場遺構	F断面25層	安行3c	126-1	232	E-18	—	後期前~中葉	127-1	69	G-24d	台地縄文層	諸磯c	
173	水場遺構	F断面24~27層	安行3c		233	E-19	—	晩期か	127-1	70	G-24a	D層	諸磯c	

※水場遺構関連の層位の断面は第48~53図に対応

番号	位置	層位	時期	写真図版	番号	位置	層位	時期	写真図版	番号	位置	層位	時期	写真図版
71	G-24d	D層	諸磯c	128-1	131	J-28	—	加曾利EⅢ	129-1	191	E-21d	D層	堀之内1	130-1
72	G-23b	D層	諸磯c		132	J-28	—	加曾利EⅢ	129-1	192	F-23d	D層	堀之内1	130-2
73	G-24c	台地縄文層	諸磯c		133	I-28	—	加曾利EⅢ	129-1	193	G-26d	—	堀之内1	
74	G-24d	D層	諸磯c	128-2	134	G-23	D層	加曾利EⅢ	129-1	194	G-23	D層	堀之内1	
75	G-24d	D層	諸磯c	128-2	135	G-23	D層	加曾利EⅢ		195	G-22d	—	堀之内1	130-2
76	G-23	C層	諸磯c	128-2	136	H-25a	—	加曾利EⅢ		196	F-23	D層	堀之内1	
77	G-22b	台地縄文層	諸磯c	128-2	137	G-26	D層	加曾利EⅢ		197	F-23	D層	堀之内1	130-2
78	G-23	D層	諸磯c		138	G-21	DE層	加曾利EⅢ		198	F-21	D層	堀之内1	130-2
79	台地部	—	諸磯c	128-2	139	I-27	—	加曾利EⅢ	129-1	199	G-22b	—	堀之内1	130-2
80	G-26b	—	諸磯c	128-2	140	F-23	—	加曾利EⅢ	129-1	200	G-22d	—	堀之内1	
81	G-22	—	諸磯c	128-2	141	G-24a	D層	称名寺1	129-2	201	E-22	D層	堀之内1	130-2
82	E-22	D層	諸磯c	128-2	142	G-25	D層	称名寺1		202	E-21c	D層	堀之内1	
83	E-22	D層	諸磯c		143	東斜面	—	称名寺1	129-2	203	G-22	縄文層	堀之内1	130-2
84	台地部	—	諸磯c	128-2	144	G-23	D層	称名寺1	129-2	204	G-21a	—	堀之内1	130-2
85	J-28	—	諸磯c	128-2	145	E-22	C層	称名寺1	129-2	205	E-21c	D層	堀之内1	130-2
86	G-24	D層	興津	128-2	146	G-28	—	称名寺	129-2	206	F-23d	D層	堀之内1	130-2
87	G-24	—	興津	128-2	147	台地部	—	称名寺2	129-2	207	F-25d	D層	堀之内1	
88	G-24b	D層	興津	128-2	148	J-28	—	称名寺2	129-2	208	F-22a	D層	堀之内1	130-2
89	G-24c	D層	興津	128-2	149	J-28	—	称名寺2	129-2	209	G-21	C層	堀之内1	
90	G-24c	D層	興津		150	J-28	—	称名寺2		210	G-21b	—	堀之内1	
91	G-24c	台地縄文層	興津	128-2	151	東斜面	—	称名寺2	129-2	211	H-24b	—	堀之内1	
92	G-24c	D層	興津	128-2	152	F-20d	—	称名寺2	129-2	212	I-28	—	堀之内1	
93	G-24c	D層	興津	128-2	153	G-24b	D層	称名寺2	129-2	213	G-23	D層	堀之内1	
94	F-21	—	興津	128-2	154	I-27	—	称名寺2		214	G-26	A～C層	堀之内1	130-3
95	台地部	—	五領ヶ台	128-3	155	I-27	—	称名寺	129-2	215	F-23d	D層	堀之内1	
96	G-24b	台地縄文層	五領ヶ台	128-3	156	I-26	—	称名寺	129-2	216	G-25c	—	堀之内1	130-3
97	G-26	A～C層	五領ヶ台	128-3	157	I-29	—	称名寺	129-2	217	G-23c	—	堀之内1	
98	I-27	—	五領ヶ台	128-3	158	I-27	—	称名寺		218	J-28	—	堀之内1	
99	I-27	—	五領ヶ台		159	F-21c	D層	称名寺		219	G-21b	—	堀之内1	
100	I-27	—	五領ヶ台	128-3	160	G-21	—	称名寺		220	I-27	—	堀之内1	
101	I-27	—	五領ヶ台	128-3	161	東斜面	—	称名寺		221	F-21c	D層	堀之内1	130-3
102	台地部	—	五領ヶ台		162	G-23b	D層	堀之内1	129-3	222	F-23d	D層	堀之内1	
103	I-26	—	五領ヶ台		163	G-22d	—	堀之内1	129-3	223	I-27	—	堀之内1	130-3
104	H-28	—	五領ヶ台		164	G-22d	—	堀之内1	129-3	224	F-23	D層	堀之内1	
105	J-28	—	五領ヶ台		165	F-22c・23	D層	堀之内1	129-3	225	F-23b	D層	堀之内1	
106	G-21	—	阿玉台 I b	128-3	166	G-21a	—	堀之内1	129-3	226	G-21c	—	堀之内1	130-3
107	G-23	D層	阿玉台 I b	128-3	167	F-24	D層	堀之内1		227	G-23	—	堀之内1	
108	F-21b	D層	阿玉台 I b	128-3	168	G-22	DE層	堀之内1	129-3	228	G-22	—	堀之内1	
109	台地部	—	阿玉台 I b	128-3	169	E-21c	D層	堀之内1	129-3	229	G-22d	—	堀之内1	
110	H-27	—	阿玉台 I b	128-3	170	F-23	—	堀之内1		230	F-25	—	堀之内1	
111	F-21d	D層	阿玉台 I b	128-3	171	G-22a	—	堀之内1	129-3	231	G-23b	D層	堀之内1	130-3
112	F-22a	D層	阿玉台 I b	128-3	172	F-23b	D層	堀之内1	129-3	232	G-22	C層	堀之内1	
113	F-22d	D層	阿玉台 I b	128-3	173	E-21	C層	堀之内1	129-3	233	F-22d	D層	堀之内1	130-3
114	F-21d	D層	阿玉台 I b	128-3	174	F-21	D層	堀之内1	129-3	234	E-22	C層	堀之内1	130-3
115	台地部	—	阿玉台 I b		175	E-22	C～D層	堀之内1	129-3	235	21ライン トレンチ	A～E層	堀之内1	130-3
116	G-23b	D層	阿玉台 II	128-3	176	F-22	D層	堀之内1	129-3	236	F-21c	D層	堀之内1	130-3
117	F-21	A～D層	阿玉台 II	128-3	177	H-24	C層	堀之内1		237	G-25	A～C層	堀之内1	
118	G-25	D層	新道	128-3	178	E-21	A～E層	堀之内1	129-3	238	F-22d	D層	堀之内1	130-3
119	F-21	C2～C1層	新道	128-3	179	G-23	C層	堀之内1	130-1	239	G-23a	—	堀之内1	130-3
120	E-22	D層	藤内 I	128-3	180	G-22	C層	堀之内1	130-1	240	F-25	D層	堀之内1	130-3
121	F-19	—	藤内 I	129-1	181	E-22	D層	堀之内1	130-1	241	F-22a	D層	堀之内1	
122	F-21d	D層	阿玉台 IV	129-1	182	E-21	C層	堀之内1	130-1	242	F-22c	D層	堀之内1	
123	F-22b	D層	阿玉台 IV	129-1	183	F-22b	D層	堀之内1	130-1	243	F-23c	D層	堀之内1	
124	F-22c	D層	阿玉台 IV	129-1	184	G-23	D層	堀之内1	130-1	244	E-22	D層	堀之内1	131-1
125	F-22b	D層	阿玉台 IV		185	E-22c	D層	堀之内1	130-1	245	G-24c	—	堀之内1	131-1
126	F-22b	D層	阿玉台 IV		186	G-21	—	堀之内1	130-1	246	F-21c	縄文層	堀之内1	
127	F-22b	D層	阿玉台 IV	129-1	187	F-25	C層	堀之内1	130-1	247	F-24d	D層	堀之内1	131-1
128	F-22a	D層	阿玉台 IV		188	G-23	D層	堀之内1	130-1	248	F-23	C層	堀之内1	
129	21ライン	E層	井戸尻	129-1	189	E-21c	D層	堀之内1	130-1	249	G-24b	D層	堀之内1	
130	F-22a	D層	加曾利EⅢ	129-1	190	E-22a	D層	堀之内1	130-1					

番号	位置	層位	時期	写真図版	番号	位置	層位	時期	写真図版	番号	位置	層位	時期	写真図版
250	F-19	—	堀之内1	131-1	310	台地部	—	堀之内1	132-1	370	G-21b	—	堀之内2	133-3
251	F-23c	D層	堀之内1	131-1	311	G-22	縄文層	堀之内1	132-1	371	F-23	C層	堀之内2	
252	E-21	C層	堀之内1	131-1	312	F-20	DE層	堀之内2	132-1	372	E-22	A～C層	堀之内2	133-3
253	E-22	C層	堀之内1		313	G-24d・G-23	D層上面	堀之内2	132-1	373	F-23	—	堀之内2	133-3
254	G-22	C層	堀之内1	131-1	314	G-24b	D層	堀之内2	132-1	374	F-23	—	堀之内2	133-3
255	台地部	—	堀之内1		315	G-23	D層	堀之内2	132-1	375	F-23	C層	堀之内2	
256	G-22b	—	堀之内1	131-1	316	F-23	D層	堀之内2	132-2	376	G-22a	—	堀之内2	
257	F-21d	D層	堀之内1	131-1	317	F-22	—	堀之内2	132-2	377	E-22	—	堀之内2	133-3
258	G-21a	D層	堀之内1	131-1	318	G-21c	—	堀之内2	132-2	378	F-23a	D層	堀之内2	133-3
259	F-21a	D層	堀之内1	131-1	319	F-22d	D層	堀之内2	132-2	379	G-24	—	堀之内2	133-3
260	G-22	C層	堀之内1	131-1	320	G-22d	—	堀之内2	132-2	380	E-21	C層	堀之内2	133-3
261	F-23c	D層	堀之内1		321	H-25	—	堀之内2	132-2	381	E-22d	D層	堀之内2	133-3
262	F-23	—	堀之内1	131-1	322	G-25	D層	堀之内2	132-2	382	G-24c	—	堀之内2	133-3
263	G-21	—	堀之内1	131-1	323	F-23bc	D層	堀之内2	132-3	383	G-25	D層	堀之内2	133-3
264	E-21b	D層	堀之内1	131-2	324	F-23ac	D層	堀之内2	132-3	384	F-25	D層	堀之内2	
265	F-22	C層	堀之内1	131-2	325	G-21	C層	堀之内2	132-3	385	G-21b	—	堀之内2	
266	F-24d	D層	堀之内1	131-2	326	F-23c	D層	堀之内2		386	G-21b	—	堀之内1	
267	F-24d	—	堀之内1	131-2	327	G-22b	—	堀之内2	132-3	387	G-24d	D層	堀之内1	134-1
268	F-23a	D層	堀之内1	131-2	328	G-22b	—	堀之内2		388	23ライン	縄文層	堀之内1	134-1
269	G-25b	D層	堀之内1	131-2	329	F-23	DE層	堀之内2	132-3	389	F-23	C層	堀之内1	134-1
270	G-23	C層	堀之内1	131-2	330	G-25c	—	堀之内2	132-3	390	G-23c	D層	堀之内1	134-1
271	G-20b	—	堀之内1	131-2	331	23ライン	縄文層	堀之内2	132-3	391	G-25c	—	堀之内1	
272	F-23c	D層	堀之内1	131-2	332	F-23c	D層	堀之内2	132-3	392	F-24	D層	堀之内1	134-1
273	G-21	C層	堀之内1	131-2	333	G-24b	D層	堀之内2	133-1	393	G-21b	—	堀之内1	
274	F-22c	D層	堀之内1	131-3	334	G-26	—	堀之内2	133-1	394	G-25d	D層	堀之内1	
275	H-24a	—	堀之内1		335	F-21d	縄文層	堀之内2	133-1	395	G-22	DE層	堀之内2	134-1
276	G-23	D層	堀之内1		336	G-22c	—	堀之内2	133-1	396	E-22	C層	堀之内1	134-1
277	G-22b	—	堀之内1	131-3	337	G-22b	—	堀之内2	133-1	397	G-23c	—	堀之内1	
278	F-21	D層	堀之内1	131-3	338	G-22a	—	堀之内2	133-1	398	G-25	D層	堀之内1	134-1
279	F-21	D層	堀之内1	131-3	339	23ベルト	—	堀之内2		399	F-21b	D層	堀之内1	
280	G-23a	—	堀之内1		340	G-23	D層	堀之内2	133-1	400	G-24d	D層	堀之内1	
281	F-23a	C層	堀之内1	131-3	341	F-24	D層	堀之内2	133-1	401	F-24	D層	堀之内1	
282	E-22	C層	堀之内1	131-3	342	G-22d	—	堀之内2	133-1	402	F-25c	D層	堀之内1	
283	G-23b	D層	堀之内1		343	H-24b	—	堀之内2		403	H-25b	—	堀之内1	134-1
284	F-21d	D層	堀之内1		344	G-23	D層	堀之内2		404	H-25b	D層	堀之内1	134-1
285	21ライン	—	堀之内1		345	G-21c	—	堀之内2		405	E-22	C層	堀之内1	
286	21ライン	—	堀之内1		346	G-22d	—	堀之内2		406	G-22	—	堀之内2	134-1
287	F-23c	D層	堀之内1		347	G-22	C層	堀之内2	133-1	407	F-25	D層	堀之内1	
288	G-23b	D層	堀之内1		348	G-23c	—	堀之内2	133-2	408	E-21d	D層	堀之内2か	
289	F-24	D層	堀之内1		349	G-24d	D層	堀之内2		409	F-22a	D層	堀之内2か	
290	G-25b	D層	堀之内1		350	F-24	D層	堀之内2	133-2	410	G-25c	—	堀之内2か	
291	G-25d	D層	堀之内1		351	F-22b	D層	堀之内2		411	E-23	C層	堀之内2か	134-2
292	F-25	D層	堀之内1		352	F-25	D層	堀之内2		412	G-21b	—	堀之内2か	134-2
293	G-27	—	堀之内1		353	H-25	C層	堀之内2	133-2	413	E-21b	D層	堀之内2か	134-2
294	F-21b	D層	堀之内1		354	G-22	—	堀之内2	133-2	414	E-21	—	堀之内2か	
295	G-22a	縄文層	堀之内1	131-3	355	J-26	—	堀之内2	133-2	415	E-22	C層	堀之内2か	134-2
296	G-22d	—	堀之内1	131-3	356	G-21b	—	堀之内2	133-2	416	F-24d	D層	堀之内2か	
297	G-22	縄文層	堀之内1		357	G-25	A～C層	堀之内2	133-2	417	G-23	C層	堀之内2か	134-2
298	G-23a	—	堀之内1		358	G-22b	—	堀之内2	133-2	418	F-21a	D層	堀之内2か	
299	F-23	—	堀之内1	131-3	359	G-22d	—	堀之内2		419	G-23	D層	堀之内2か	134-2
300	G-22a	—	堀之内1		360	F-23	DE層	堀之内2	133-2	420	F-20	C層	堀之内2か	134-2
301	F-23c	D層	堀之内1	131-3	361	G-23	D層	堀之内2	133-3	421	F-25	D層	堀之内2か	
302	G-21b	—	堀之内1		362	G-22b	—	堀之内2	133-3	422	G-23a	—	堀之内2か	134-2
303	G-22b	—	堀之内1		363	F-23	D層	堀之内2		423	F-23d	D層	堀之内2か	134-2
304	F-23	D層	堀之内1	132-1	364	F-24c	D層	堀之内2	133-3	424	F-20	—	堀之内2か	134-2
305	F-22a	D層	堀之内1	132-1	365	F-23	—	堀之内2		425	E-22	C層	堀之内2か	
306	F-24d	D層	堀之内1	132-1	366	G-22d	—	堀之内2	133-3	426	G-21a	縄文層	堀之内2か	
307	F-23d	D層	堀之内1		367	H-24	C層	堀之内2		427	23ベルト	—	堀之内2か	
308	F-23	A～E層	堀之内1		368	G-22b	—	堀之内2		428	F-23	—	堀之内2	
309	G-25c・G-25	—	堀之内1		369	F-23	C層	堀之内2	133-3	429	G-23	D層	堀之内2	

番号	位置	層位	時期	写真図版	番号	位置	層位	時期	写真図版	番号	位置	層位	時期	写真図版
430	E-22	D層	堀之内2	134-2	489	D-21d	D層	加曾利B2	135-1	547	F-22	D層	堀之内2	150-1
431	E-21c	D層	堀之内2		490	G-21	—	加曾利B2		548	E-22	CD層	堀之内	150-1
432	G-21b	—	堀之内2	134-2	491	E-21	A~E層	加曾利B2	135-1	549	F-22	D層	堀之内	150-1
433	G-23	—	堀之内2		492	E-21b	D層	加曾利B2		550	F-21	D層	後期か	150-1
434	G-22	DE層	堀之内2	134-2	493	E-21	C層	加曾利B1~2	135-1	【西斜面】(第156~193図)				
435	F-23a	D層	堀之内2		494	E-21	A~E層	加曾利B1~2		73	D-18	C層	夏島	136-1
436	G-25	C層	堀之内2	134-2	495	F-21	D層	加曾利B1~2		74	E-18a	C層	野島	136-1
437	G-25d	—	堀之内2	134-2	496	G-21a	—	加曾利B1		75	B-13	—	早期後葉	136-1
438	F-22a	D層	堀之内2	134-3	497	E-21	C層	加曾利B2	135-1	76	B-13	—	早期後葉	136-1
439	G-21	C層	堀之内2	134-3	498	G-22	DE層	加曾利B2		77	B-13	—	諸磯c	136-1
440	H-25	—	堀之内2	134-3	499	F-21a	D層	加曾利B1	135-1	78	D-16	—	諸磯c	136-1
441	F-23c	D層	堀之内2	134-3	500	F-21	D層	加曾利B1		79	A・B-12・13	—	五領ヶ台	136-1
442	G-22	縄文層	堀之内2		501	F-21c	D層	加曾利B1		80	D-16	—	阿玉台I b	136-1
443	G-23	D層	堀之内2		502	F-21d	D層	加曾利B2	135-1	81	D-17	—	阿玉台I b	136-1
444	F-21d	D層	堀之内2		503	K-27	—	加曾利B2		82	E-17b	D層	阿玉台II	136-1
445	G-23	C層	堀之内2		504	F-21d	D層	加曾利B1		83	D-15	—	阿玉台II	136-1
446	G-21	D層	堀之内2		505	F-22	C層	加曾利B2	135-1	84	D-18a	CD層	新道	136-1
447	G-21b	—	堀之内2		506	F-23	C層	加曾利B2	135-1	85	E-18	D層	阿玉台I b	
448	G-23	D層	堀之内2		507	G-25	C層	加曾利B2		86	E-18㊥	D層	新道	136-1
449	F-21a	D層	堀之内2		508	F-21a	D層	加曾利B		87	C-14	—	新道	136-1
450	G-25	—	堀之内2		509	F-21d	D層	加曾利B1		88	C-14	—	新道	
451	F-21d	D層	堀之内2		510	F-23d	D層	加曾利B1	135-1	89	D-17c	D層	新道	
452	F-21c	D層	堀之内2		511	東斜面	D層	加曾利B2		90	E-18㊦	D層	新道	136-1
453	G-25	D層	堀之内2		512	F-20	—	後期後葉頃	135-2	91	E-18a	C層	藤内	
454	G-25	A~D層	堀之内2		513	G-22	—	安行1		92	E-18	D層	藤内	136-1
455	H-23	C層	堀之内2		514	E-21	D層	安行3a	135-2	93	E-18㊧	D層	藤内	136-1
456	G-23	D層	堀之内2		515	F-23	—	安行3b	135-2	94	B-13	—	加曾利EIII	136-2
457	G-22b	—	堀之内2		516	G-21	縄文層	安行3a	135-2	95	B-13	—	加曾利EIII	136-2
458	F-23d	D層	堀之内2		517	H-23	C層	安行3b		96	D-16	—	加曾利EIII	136-2
459	E-21c	D層	堀之内2		518	G-21	—	安行1		97	D-15	—	加曾利EIII	136-2
460	G-21	C層	堀之内1	134-3	519	I-27	—	安行3a~b		98	D-15	—	加曾利EIII	
461	G-23	C層	堀之内1	134-3	520	H-26	—	安行3b	135-2	99	D-16	—	加曾利EIII	136-2
462	E-22・E-21a	D層	堀之内2	134-3	521	G-22	C層	前浦	135-2	100	D-18	縄文層	加曾利EIII	136-2
463	F-22	—	堀之内2	134-3	522	G-22	DE層	安行3b		101	D-16	—	称名寺2	136-2
464	G-22a	—	堀之内2	134-3	523	F-22	C層	安行3a~b	135-2	102	D-16	—	称名寺2	136-2
465	F-22	C層	堀之内2	134-3	524	I-29	—	晩期中葉	135-2	103	C-18b	D層	称名寺2	136-2
466	F-24	C層	堀之内2	134-3	525	G-28	—	晩期中葉		104	C-15	—	称名寺2	136-2
467	G-22a	—	堀之内2		526	H-27	—	晩期中葉	135-2	105	D-16	—	称名寺2	136-2
468	E-21	C層	堀之内2	134-3	527	G-28	—	晩期中葉	135-2	106	D-17	—	称名寺2	136-2
469	E-21	C層	堀之内2		528	台地部	—	晩期中葉	135-2	107	D-15	—	堀之内1	136-3
470	G-23a	—	堀之内2	134-3	529	H-27	—	晩期中葉		108	D-17	—	堀之内1	136-3
471	G-23	C層	堀之内2	134-3	530	E-21	C1~C2層	安行3d	135-2	109	B-13	—	堀之内1	136-3
472	G-23b	D層	堀之内2	134-3	531	G-28	—	晩期中葉		110	D-17	—	堀之内1	136-3
473	E-22	A~C層	堀之内2	134-3	532	E-21	C層	後期後葉	135-3	111	C-18	C層	堀之内1	136-3
474	F-21	DE層	堀之内	134-3	533	G-22b	—	後期後葉	135-3	112	D-17	—	堀之内1	136-3
475	F-21b	D層	堀之内	134-3	534	E-22	C層	後期後葉	135-3	113	B-13	—	堀之内1	136-3
476	F-22a	D層	堀之内	134-3	535	E-22	D層	安行3a	135-3	114	D-17	—	堀之内1	136-3
477	F-24	D層	加曾利B	134-3	536	E-21	E層	安行3b	135-3	115	D-15	—	堀之内1	136-3
478	G-24	D層	加曾利B1	135-1	537	F-21c	D層	安行3b		116	D-16	—	堀之内1	136-3
479	G-22b	—	加曾利B		538	E-21	DE層	安行3b	135-3	117	D-19d	CD層	堀之内1	136-3
480	F-21d	D層	加曾利B	135-1	539	E-21	C層	安行3b	135-3	118	D-18a	CD層	堀之内1	136-3
481	F-22a	D層	加曾利B	135-1	540	G-21	—	安行3b	135-3	119	D-18㊨	D層	堀之内1	137-1
482	G-21a	D層	加曾利B2	135-1	541	E-21b	D層	大洞A	135-2	120	D-15	—	堀之内1	136-3
483	G-21a	D層	加曾利B2		542	G-22	—	大洞A	135-2	121	D-18b	D層	堀之内1	137-1
484	F-24	D層	加曾利B2	135-1	543	E-22d	D層	晩期か	135-3	122	E-18㊩	D層	堀之内1	
485	E-21	D層	加曾利B1~2		544	G-24	—	後期	135-3	123	B-13	—	堀之内1	136-3
486	F-23	C層	加曾利B2		545	F-23c	D層	後期	135-3	124	D-15	—	堀之内1	137-1
487	G-22	C層	加曾利B2		546	G-22	—	後期	135-3	125	D-17	—	堀之内1	137-1
488	F-23a	D層	加曾利B2	135-1						126	D-16	—	堀之内1	136-3
										127	E-18	DE層	堀之内1	137-1

番号	位置	層位	時期	写真図版	番号	位置	層位	時期	写真図版	番号	位置	層位	時期	写真図版
128	E-19c	D層	堀之内1	137-1	187	D-16	—	堀之内2	138-3	246	B-13	—	加曾利B2	140-1
129	D-15	—	堀之内1	137-1	188	D-18	C層	堀之内2	138-3	247	E-18①	D層	加曾利B2	140-1
130	D-18㉗	D層	堀之内1		189	E-18	C層	堀之内2		248	B-13	—	加曾利B3 ～曾谷	140-1
131	B-13	—	堀之内1		190	D-16	—	堀之内2		249	E-18d	C層	加曾利B1～2	140-2
132	B-13	—	堀之内1	137-1	191	D-15	—	堀之内2		250	E-18	C層	加曾利B1～2	
133	C-15	—	堀之内1	137-1	192	D-15	—	堀之内1	139-1	251	E-17b	D層	加曾利B1～2	140-2
134	D-18⑨	D層	堀之内1	137-1	193	西斜面	—	堀之内1	139-1	252	B-12	—	後期中葉	140-2
135	D-18	—	堀之内1	137-2	194	D-19	C層	堀之内1	139-1	253	C-15	—	加曾利B3	140-2
136	D-16	—	堀之内1	137-2	195	西斜面	—	堀之内1	139-1	254	西斜面	—	加曾利B3	140-2
137	D-16	—	堀之内1		196	D-19㉘	CD層	堀之内1	139-1	255	B-12	—	加曾利B3	140-2
138	D-17	—	堀之内1	137-2	197	C・D-15	—	堀之内1	139-1	256	B-13	—	加曾利B3	140-2
139	C-15	—	堀之内1	137-2	198	E-18d	C層	堀之内1	139-1	257	B-13	—	曾谷	140-2
140	D-16	—	堀之内1	137-2	199	D-18b	D層	堀之内1	139-1	258	C-14	—	曾谷	140-2
141	E-18a	D層	堀之内1	137-2	200	D-17	—	堀之内1	139-1	259	D-18	C層	曾谷	140-2
142	D-15	—	堀之内1	137-2	201	D-18㉙	D層	堀之内1	139-1	260	B-13	—	曾谷	140-3
143	D-17	—	堀之内1	137-3	202	D-16	—	堀之内1	139-1	261	D-15	—	曾谷	140-3
144	B-13	—	堀之内1	137-3	203	C-15	—	堀之内1	139-1	262	B-13	—	曾谷	
145	D-15	—	堀之内1	137-3	204	D-15	—	堀之内1	139-1	263	B-13	—	加曾利B1	140-3
146	B-13	—	堀之内1	137-3	205	E-18d	C層	堀之内1	139-1	264	D-19㉚	CD層	加曾利B1	140-3
147	D-15	—	堀之内1	137-3	206	E-18㉛	D層	堀之内1		265	C-18c	D層	加曾利B2	140-3
148	E-18b	D層	堀之内1	137-3	207	D-19a	D層	堀之内1		266	E-18	D層	加曾利B1	140-3
149	D-19d	D層	堀之内1	137-3	208	B-13	—	堀之内1		267	C-13	—	加曾利B1	140-3
150	D-19d	D層	堀之内1		209	D-15	—	加曾利B1	139-2	268	E-18a	D層	加曾利B2	140-3
151	D-19a	D層	堀之内1	137-3	210	B-12	—	加曾利B1	139-2	269	E-18④	D層	加曾利B2	140-3
152	D-17c	D層	称名寺2～ 堀之内1	137-3	211	C-13	—	加曾利B1	139-2	270	C-14	—	加曾利B2	140-3
153	D-19a	CD層	堀之内1	137-3	212	B-13	—	加曾利B1	139-2	271	B-13	—	加曾利B2	140-3
154	D-16	—	堀之内2	138-1	213	E-18d	C層	加曾利B1	139-2	272	E-17	—	加曾利B	
155	B-13	—	堀之内2	138-1	214	E-18d	C層	加曾利B1	139-2	273	D-16	—	加曾利B	
156	D-19㉜	C層	堀之内2		215	E-18c	C層	加曾利B1	139-2	274	B-13	—	加曾利B1	141-1
157	C-14	—	堀之内2	138-1	216	B-12	—	加曾利B1	139-2	275	D-16	—	加曾利B1	141-1
158	C-15	—	堀之内2	138-1	217	B-13	—	加曾利B1	139-2	276	D-17	—	加曾利B1	141-1
159	E-18d	C層	堀之内2	138-1	218	B-13	—	加曾利B1	139-2	277	B-13	—	加曾利B2	141-1
160	B-13	—	堀之内2	138-1	219	D-16	—	加曾利B1	139-2	278	C-19d	D層	加曾利B2	141-1
161	E-18㉝	D層	堀之内2	138-1	220	B-13	—	加曾利B1	139-3	279	C-14	—	加曾利B3 ～曾谷	141-1
162	D-15	—	堀之内2	138-1	221	D-18	C層	加曾利B1	139-3	280	D-19㉞	C層	加曾利B2	141-1
163	D-15	—	堀之内2	138-1	222	E-19c	D層	加曾利B2	139-3	281	B-12	—	加曾利B3 ～曾谷	141-1
164	D-16	—	堀之内2	138-1	223	C-15	—	加曾利B2	139-3	282	B-13	—	加曾利B2	141-1
165	C-15	—	堀之内2	138-2	224	D-18㉟	C層	加曾利B2	139-3	283	B-13	—	加曾利B2	141-1
166	B-13	—	堀之内2	138-1	225	D-18d	C層	加曾利B2	139-3	284	C-13	—	加曾利B2	
167	C-15	—	堀之内2	138-2	226	D-18㊱	D層	加曾利B2	139-3	285	D-18b	D層	加曾利B2	141-1
168	C-14	—	堀之内2		227	B-13	—	加曾利B1	139-3	286	E-18	—	加曾利B2	141-2
169	D-15	—	堀之内2	138-2	228	B・C-13	—	加曾利B1	139-3	287	C-15	—	加曾利B2	
170	D-16	—	堀之内2	138-2	229	D-15	—	加曾利B2		288	C-15	—	加曾利B2	141-2
171	D-19a	D層	堀之内2		230	E-18c	C層	加曾利B2	139-3	289	D-17	—	加曾利B1	141-2
172	D-15	—	堀之内2	138-2	231	D-18	C層	曾谷	139-3	290	B-13	—	加曾利B1	141-2
173	D-16	—	堀之内2	138-2	232	B-13	—	曾谷	139-3	291	C-15	—	加曾利B3 ～曾谷	141-2
174	D-19a	D層	堀之内2	138-2	233	B-13	—	曾谷	139-3	292	B-13	—	曾谷	141-2
175	D-19a	CD層	堀之内2	138-2	234	C-13	—	曾谷		293	C-14	—	曾谷	141-2
176	C-15	—	堀之内2	138-2	235	C-14	—	曾谷	140-1	294	D-17	—	加曾利B3 ～曾谷	141-2
177	D-19㊲	C層	堀之内2	138-2	236	D-17	—	曾谷	140-1	295	E-17	—	加曾利B3 ～曾谷	141-2
178	D-16	—	堀之内2		237	E-18a	C層	曾谷	140-1	296	C-14	—	加曾利B3 ～曾谷	141-2
179	C-17	—	堀之内2	138-2	238	E-18b	C層	曾谷	140-1	297	C-14	—	曾谷	141-2
180	D-17	—	堀之内2		239	D-15	—	曾谷	140-1	298	D-18b	C層	曾谷	
181	C-14	—	堀之内2	138-3	240	D-18d	C層	加曾利B2		299	E-18b	C層	曾谷	141-3
182	D-16	—	堀之内2	138-3	241	B-13	—	曾谷	140-1	300	B-13	—	加曾利B	141-3
183	B-13	—	堀之内2		242	E-18㊳	D層	曾谷	140-1					
184	B-13	—	堀之内2	138-3	243	D-18d	C層	加曾利B2						
185	D-18	C層	堀之内2		244	E-18a	C層	曾谷						
186	C-15	—	堀之内2	138-3	245	C-13	—	加曾利B3 ～曾谷	140-1					

番号	位置	層位	時期	写真図版	番号	位置	層位	時期	写真図版	番号	位置	層位	時期	写真図版
301	B-13	—	加曾利B	141-3	356	B-13	—	後期後～ 晩期前葉	143-1	415	D-18	縄文層	安行3d	144-3
302	E-17b	D層	加曾利B		357	D-17	—	安行1	143-1	416	D-18	縄文層	安行3d	
303	A-12	—	加曾利B	141-3	358	D-17	C層	安行1	143-1	417	D-18c	C層	安行3d	
304	B-13	—	加曾利B	141-3	359	D-17	—	安行3a～b		418	D-18c	C層	安行3d	
305	B-13	—	加曾利B	141-3	360	D-17	—	安行3a～b	143-1	419	E-18b	C層	安行3d	144-3
306	D-15	—	加曾利B	141-3	361	D-17	C層	晩期安行		420	D-18	縄文層	安行3d	144-3
307	B-13	—	晩期办	141-3	362	D-17	C層	晩期安行	143-1	421	E-17	C層	安行3d	
308	D-19d	CD層	曾谷	141-3	363	D-18d	C層	晩期安行		422	D-18c	C層	晩期	144-3
309	E-18a	—	加曾利B		364	D-18	縄文層	晩期安行		423	D-18b	C層	晩期	144-3
310	B-13	—	後期中葉	141-3	365	C-19	C層	安行3a	143-1	424	B-13	—	晩期	144-3
311	C-18	C層	後期中葉		366	D-16	—	安行3a		425	E-18b	C層	晩期	
312	B-13	—	加曾利B	141-3	366	D-16	—	安行3b	143-2	426	E-18b	C層	晩期	
313	E-17	—	後期中葉	141-3	367	D-17	C層	安行3c	143-2	427	E-17b	C層	大洞BC並行	144-3
314	B-13	—	後期中葉	141-3	368	D-18	縄文層	安行3c	143-2	428	D-18	C層	大洞C並行	
315	E-18	—	後期中葉	141-3	369	D-16・18	縄文層	晩期中葉办	143-2	429	D-18	縄文層	大洞C並行	
316	B-13	—	加曾利B2		370	E-18	C層	晩期中葉办	143-2	430	西斜面	縄文層	大洞BC	144-3
317	B-12	—	安行1	142-1	371	B-13	—	安行1	143-2	431	D-18	縄文層	大洞BC	144-3
318	D-18c	CD層	安行1	142-1	372	C-13	—	安行1	143-2	432	D-18a	CD層	安行2	145-1
319	D-18	縄文層	安行1	142-1	373	C-18d	D層	安行2	143-2	433	D-18b	C層	安行2	
320	B-13	—	安行1		374	D-18a	CD層	晩期安行	143-3	434	D-18a	CD層	安行2	145-1
321	B-13	—	安行1		375	D-18a	CD層	晩期安行	143-3	435	B-12	—	安行2	145-1
322	B-13	—	安行1	142-1	376	D-18a	CD層	後期安行	143-3	436	D-18㉗	C層	後期安行	145-1
323	D-17	—	安行1	142-1	377	E-18	—	安行3a	143-3	437	C-18	C層	安行2	145-1
324	B-13	—	安行1	142-1	378	C-14	—	安行3a	143-3	438	C-18c	D層	安行2	
325	D-18	縄文層	安行2	142-2	379	B-13	—	安行3a	143-3	439	D-18⑩	C層	安行3a办	145-1
326	D-18b	C層	安行2	142-1	380	C-13	—	晩期		440	D-18	C層	安行3a办	
327	D-18	縄文層	安行2	142-1	381	E-18	C層	晩期		441	D-18	縄文層	安行2～3a	
328	D-18	C層	安行2	142-2	382	B-13	—	晩期		442	D-18a	CD層	安行2～3a	
329	C-13	—	安行2		383	D-18	C層	晩期	143-3	443	D-17	—	安行2～3a	
330	D-18	縄文層	安行3a～b	142-2	384	D-17	—	晩期	143-3	444	D-18	縄文層	安行2～3a	145-1
331	D-19	C層	安行3a～b	142-2	385	D-18	縄文層	安行3b	143-3	445	C-19	C層	安行2～3a	145-2
332	D-18	縄文層	安行3a～b	142-2	386	西斜面	—	安行3a	143-3	446	B-13	—	安行2～3a	
333	D-17	—	安行3b	142-2	387	D-17	—	安行3a	143-3	447	D-18	縄文層	安行2～3a	145-2
334	D-17	—	安行3b	142-2	388	D-18d	C層	安行3a	144-1	448	D-18d	C層	安行2～3a	145-2
335	C-18a	D層	安行3b	142-2	389	D-18d	C層	安行3a	143-3	449	D-18	縄文層	安行2～3a	
336	C-18	C層	安行1		390	C-13	—	安行3a～b	144-1	450	D-18	D層	安行2～3a	145-2
337	D-18㉙	C層	安行1		391	C-18d	D層	大洞C1	144-1	451	B-13	—	安行2～3a	
338	C-13	—	後期後～ 晩期前葉		392	B-13	—	安行2	144-1	452	C-18c	CD層	安行2	
339	D-17	—	安行2	142-3	393	B-13	—	安行2	144-1	453	C-18c	C層	安行2～3a	145-2
340	D-18	C層	安行2	142-3	394	D-16	—	後期前葉	144-1	454	B-13	—	安行2～3a	
341	D-18	縄文層	安行2	142-3	395	D-17	—	後期前葉	144-1	455	D-16	—	安行2～3a	145-2
342	C-14	—	安行2	142-3	396	B-13	—	後期前葉	144-1	456	C-18	C層	安行2～3a	145-2
343	D-17	—	後期後～ 晩期前葉	142-3	397	D-17㉚	—	姥山Ⅲ	144-2	457	E-17	—	安行2～3a	145-2
344	D-18㉛	C層	安行3a	142-3	398	D-18	縄文層	姥山Ⅲ		458	D-18	縄文層	安行2～3a	
345	D-17	—	安行3a	142-3	399	D-18	縄文層	姥山Ⅲ	144-2	459	B-13	—	安行2～3a	145-2
346	D-18	縄文層	安行3b	142-3	400	D-18	縄文層	姥山Ⅲ	144-2	460	D-18	C層	安行2～3a	145-2
347	C-18c	D層	安行3a～b	142-3	401	E-17	—	姥山Ⅲ		461	B-13	—	安行2～3a	
348	E-17	—	安行3b	143-1	402	D-18	縄文層	姥山	144-2	462	B-13	—	安行2～3a	145-3
349	D-17	—	安行3a	142-3	403	E-18b	C層	安行3c～d		463	C-18d	D層	安行2～3a	145-3
350	B-13	—	後期後～ 晩期前葉	143-1	404	E-18b	C層	安行3c～d	144-2	464	E-18	縄文層	安行2～3a	145-3
351	D-18a	CD層	後期後～ 晩期前葉	143-1	405	D-18	C層	安行3c	144-2	465	D-18d	C層	安行2～3a	
352	西斜面	—	後期後～ 晩期前葉	143-1	406	D-18a	CD層	安行3c	144-2	466	D-18a	CD層	安行2～3a	145-3
353	B-13	—	後期後～ 晩期前葉	143-1	407	D-19㉜	CD層	安行3c		467	D-17㉝	C層	安行3b～c	
354	D-17	—	後期後～ 晩期前葉	143-1	408	E-18a	CD層	安行3c		468	D-18	縄文層	安行3b～c	145-3
355	西斜面	—	後期後～ 晩期前葉	143-1	409	E-18b	C層	安行3c	144-2	469	D-17	C層	安行3b～c	
					410	C-18・19	C層	安行3c	144-2	470	B-13	—	安行3b～c	
					411	D-19	C層	安行3d		471	D-17㉞	C層	安行3b～c	145-3
					412	D-18	C層	安行3d		472	D-18	縄文層	安行3b～c	145-3
					413	E-18b	C層	安行3d		473	D-18	縄文層	安行3b～c	145-3
					414	D-18	縄文層	安行3d	144-3	474	D-17㉟	C層	晩期前～中葉	

番号	位置	層位	時期	写真図版	番号	位置	層位	時期	写真図版	番号	位置	層位	時期	写真図版
475	D-18	縄文層	晩期前~中葉		530	D-19a	CD層	後期前~中葉	148-1	16	E-18	C層	加曾利E	148-2
476	D-18	縄文層	晩期前~中葉	146-1	531	E-17b	D層	後期前~中葉	148-1	17	SJ104c	—	称名寺2	148-3
477	D-18	D層	晩期前~中葉		532	D-18	C層	後期後葉		18	位置不明	—	称名寺2	
478	D-18㉔	C層	晩期前~中葉	146-1	533	D-18	縄文層	後期後葉		19	5号炭窯	—	称名寺2	148-3
479	D-18d	D層	晩期前~中葉	146-1	534	C-15	—	後期後葉	148-1	20	5号炭窯	—	称名寺2	148-3
480	D-19㉔	CD層	晩期前~中葉		535	C-15	—	後期後葉		21	SJ114b	—	称名寺2	148-3
481	D-18㉕・E-18b	C層	晩期中葉	146-1	536	D-18	CD層	後期後葉	148-1	22	SX3谷	—	称名寺2	148-3
482	D-18㉖	C層	晩期前~中葉		537	D-17・C-18	C層	後期後葉		23	E-19	C3層	称名寺2	148-3
483	D-18	縄文層	晩期前~中葉	146-1	538	D-17	—	後期後葉	147-3	24	I-27 P3	—	称名寺2	148-3
484	D-17	—	晩期前~中葉		539	D-18a	C層	後期後葉		25	SJ105a	—	称名寺2	
485	E-17c	D層	晩期前~中葉	146-2	540	D-16	—	後期後葉	147-3	26	E-18	—	堀之内1	148-3
486	D-18c	C層	晩期前~中葉	146-2	541	B-13	—	後期後葉	147-3	27	D-19	C層	堀之内2	148-3
487	D-18㉗	C層	晩期前~中葉	146-2	542	C-18	C層	後期後葉	147-3	28	D-19	C層	堀之内2	
488	D-17	—	晩期前~中葉	146-2	543	D-16	—	後期後葉か		29	SX3谷	—	堀之内2	
489	D-19	C層	晩期前~中葉	146-2	544	B-13	—	後期後葉以降	147-3	30	F-18・19	—	堀之内2	
490	D-17	—	晩期前~中葉	146-2	545	B-13	—	後~晩期		31	5号炭窯	—	堀之内2	
491	E-18c	—	晩期前~中葉		546	E-18㉘	D層	後期	148-1	32	SX3谷	—	堀之内2	
492	D-17	C層	晩期前~中葉		547	D-19㉘	C層	後期		33	F-23 P3	—	堀之内2	148-3
493	D-17	—	晩期前~中葉		548	E-17	C層	堀之内1	150-1	34	SD18	—	堀之内2	148-3
494	D-18a	CD層	晩期前~中葉	146-3	549	E-17	縄文層	堀之内1	150-1	35	G-24	A層	堀之内2	148-3
495	D-17	C層	晩期前~中葉	146-3	550	D-18	D層	堀之内1	150-1	36	F-19	C層	加曾利B1	149-1
496	D-17	—	晩期前~中葉		551	D-17	—	堀之内1	150-1	37	F-19	—	加曾利B1	149-1
497	C-18	—	晩期前~中葉	146-3	552	D-16	—	堀之内2	150-1	38	E-18	C1・C2層	加曾利B1	149-1
498	D-18㉙	C層	晩期前~中葉		553	D-16	—	後期前葉	150-1	39	E-20	C層	加曾利B1	149-1
499	D-18	縄文層	晩期前~中葉	146-3	554	D-18	縄文層	後期前葉	150-1	40	D-19	C層	加曾利B2	149-1
500	D-17	縄文層	晩期前~中葉	146-3	555	D-18	D層	後期前葉	150-1	41	D-19	C層	加曾利B1	149-1
501	D-16	—	晩期前~中葉		556	D-18	C層	後期前葉	150-1	42	F-19	C3層	加曾利B1	149-1
502	C-18	C層	晩期前~中葉	146-3	557	E-17b	D層	後期前葉	150-1	43	E-19	C3層	加曾利B2	149-1
503	D-17	—	晩期前~中葉		558	A-13	—	加曾利B	151-1	44	C-19	C層	加曾利B2	149-1
504	D-17㉚	C層	晩期前~中葉		559	C-15	—	加曾利B	151-1	45	D-20	C層	加曾利B1	149-1
505	D-18	縄文層	晩期前~中葉	146-3	560	D-12	—	加曾利B	151-1	46	D-19	C層	後期中葉	149-2
506	D-17	縄文層	晩期前~中葉	146-3	561	D-12	—	加曾利B	151-1	47	F-19	C層	曾谷	149-2
507	D-18㉛	C層	晩期前~中葉	147-1	562	I-27	—	堀之内1	151-2	48	F-19	C3層	高井東	149-2
508	D-17	—	晩期前~中葉	147-1	563	B-13	—	不明	151-2	49	E-19	C層	曾谷	149-2
509	D-17	—	晩期前~中葉	147-1	564	C-18	C層	晩期	151-3	50	E-19	C3層	安行2	149-2
510	E-18d	D層	晩期前~中葉	147-1	686	D-18㉜	C層	安行1		51	C-19	C層	安行2	149-2
511	D-18	C層	晩期前~中葉	147-1	694	D-18	C層	晩期中葉		52	D-19	C層	安行3a	149-2
512	D-17㉝	C層	晩期前~中葉	147-1	【遺構外】(第208~210図)									
513	D-18㉞	C層	晩期前~中葉	147-1	1	SJ112	—	茅山下層・上層	148-2	53	E-20	—	安行3a~b	
514	D-17㉟	C層	晩期前~中葉	147-1	2	SJ106c	2層	茅山下層・上層	148-2	54	E-21	C層	晩期安行	149-2
515	D-18	縄文層	晩期前~中葉	147-1	3	SJ106b	2層	茅山下層・上層	148-2	55	E-19	C5層	晩期安行	149-2
516	E-17	—	晩期前~中葉	147-2	4	SK742	—	茅山下層・上層	148-2	56	E-19	C5層	安行3c	
517	D-17	—	晩期前~中葉	147-2	5	SJ118d	—	茅山下層・上層	148-2	57	E-18	C1~C3層	晩期中葉	149-2
518	E-17b	D層	晩期前~中葉	147-2	6	SJ106d	2層	黒浜~諸磯a	148-2	58	D-19	C層	安行3c	149-2
519	E-17b	D層	晩期前~中葉	147-2	7	SJ118d	—	黒浜~諸磯a	148-2	59	E-18	C1・C2層	晩期中葉	149-2
520	D-16	—	晩期前~中葉	147-2	8	5号炭窯	—	黒浜~諸磯a	148-2	60	F-19	C層	晩期安行	149-2
521	D-16	—	晩期前~中葉	147-2	9	5号炭窯	—	黒浜~諸磯a	148-2	61	E-19	C層	晩期安行	
522	E-17b	D層	晩期前~中葉	147-2	10	2号炭窯	—	前期後葉	148-2	62	D-19	A~D/1~3層	安行3c	
523	D-16	—	後期前~中葉	147-3	11	2号炭窯	—	前期後葉	148-2	63	D-19	C層	晩期前~中葉	
524	D-16	—	後期前~中葉	147-3	12	SD61	—	興津	148-2	64	SR5・E-18a	IV層・C層	晩期終末	149-3
525	E-17b	D層	後期前~中葉	147-3	13	SJ117a	—	五領ヶ台	148-2	65	SR5周溝4	—	晩期終末	149-3
526	B-13	—	後期前~中葉	147-3	14	SJ112c	—	五領ヶ台	148-2	66	SJ110d	—	晩期終末	149-3
527	D-18	縄文層	後期前~中葉	147-3	15	E-18	C2~C4層	加曾利EIII	148-2	67	SJ108a	—	晩期終末	149-3
528	B-13	—	後期前~中葉							68	SJ108a	—	晩期終末	149-3
529	B-13	—	後期前~中葉							69	SD53	—	晩期終末	149-3
										70	5号炭窯	—	晩期終末	149-3
										71	SJ105	—	晩期終末	149-3

第11表 土器片加工品観察表

番号	位置	グリッド	層位	分類	素材		型式 時期	二次加工		備考	図版
					重量	部位		剥離 外内	磨り		
【土壙（1）】（第34図）											
56	SK763	G-21	—	IIA	5	胴部	後期前～中葉		0	地文のみ	152
【土壙（2）】（第38・39図）											
78	SK730・731	D-19	—	IV	29	口縁部	堀之内1		1(全体)	鋭角の頂点摩耗	152
79	SK730・731	D-19	—	IV	58	口縁部	後期中葉		0	内面側縁帯状剥落	152
104	SK734	E-19	—	IIIA	39	底部	堀之内		0		152
107	SK775	E-19	—	IIA	29	胴部	堀之内		0	無文（ケズリ）	152
【第5号木組遺構】（第84図）											
52	5号木組	F-19c	最下層	IIA	17	胴部	後期		0	無文（ケズリ）	152
53	5号木組	F-19	最下層	IIA	19	胴部	堀之内	●	0	無文部	152
54	5号木組	E-18・19	下層	IIA	10	胴部	堀之内1		1(全体)		152
55	5号木組	—	壁際崩落土	IIA	21	胴部	堀之内1		1(縁辺)		152
56	5号木組	—	壁際崩落土	IIB	23	胴部	堀之内1		2(部分)		152
57	5号木組	—	壁際崩落土	IIB	9	胴部	堀之内2		1(全体)		152
58	5号木組	—	壁際崩落土	IID	20	胴部	堀之内2		1(全面顕著)	無文部	152
59	5号木組	E-18・19	下層	IIA	16	胴部	晩期		1(部分)	無文部	152
60	5号木組	E-18・19	下層	IIA	22	胴部	堀之内		1(全体)	無文部	152
61	5号木組	E-18・19	下層	IIA	6	胴部	堀之内		1(部分)	無文部	152
62	5号木組	—	堆積土上層	IIA	4	胴部	堀之内		0	無文部	152
63	5号木組	—	—	IIA	6	胴部	後晩期		1(部分)	無文部	152
64	5号木組	—	壁際崩落土	IIA	7	胴部	後期		1(部分)	無文部	152
65	5号木組	—	堆積土上層	IIIA	39	底部	後期		3(部分)		152
66	5号木組	—	堆積土上層	IV	22	口縁部	加曾利B1		0	側面粘土付着	152
【第3号導水溝状遺構】（第96図）											
53	SK774	E-19	—	IIA	10	胴部	後期		0	無文、圧痕あり	152
54	SK774	E-19	—	IIA	16	胴部	加曾利B		0		152
55	SK774	E-19	最下層	ID	36	口縁部	晩期前葉	●●	0	口端打欠	152
【開削部土器集積層】（第101図）											
52	開削部	D-20	土器集積層	IIA	12	胴部	晩期		0	条線	152
53	開削部	D-20	土器集積層	ID	36	口縁部	後期安行		1(縁辺)	条線	152
54	開削部	D-20	土器集積層	ID	32	口縁部	安行2		1(部分)		152
55	開削部	D-20	土器集積層	IA	51	口縁部	晩期前葉	●●	1(縁辺)	口端打欠、紐線文系	152
56	開削部	D-20	土器集積層	ID	78	口縁部	後末～晩前		1(縁辺)	縁辺摩耗(内面顕著)、口端打欠	152
57	開削部	D-20	土器集積層	ID	54	口縁部	安行3b		1(縁辺)		152
【水場遺構最下層】（第107図）											
53	水場遺構	E-20b	地山直上層	IIIA	15	底部	晩期		0	編組痕	152
54	水場遺構	D-20	最下層	IIA	45	胴部	堀之内		0		152
55	水場遺構	—	流心部最下面砂層	IID	68	胴部	堀之内		1(全体)		152
56	水場遺構	D-20	最下層	IB	55	口縁部	安行3a		0		152
57	水場遺構	D-20	最下層	IA	32	口縁部	後期中～後葉		1(縁辺)		152
【水場遺構一括】（第119・120図）											
238	水場遺構	E-19d	縄文層	IID	64	胴部	堀之内1		1(縁辺) 2(部分)		153
239	水場遺構	F-19c	縄文層	IIB	52	胴部	堀之内	●	0		153
240	水場遺構	F-19c	縄文層	IIB	29	胴部	堀之内1		1(全面顕著)		153
241	水場遺構	—	—	IIB	56	胴部	堀之内1		2(部分)		153
242	水場遺構	E-20	—	ID	35	口縁部	堀之内1	●	1(部分)		153
243	水場遺構	E-19d	縄文層	IIA	15	胴部	堀之内2	●	2(部分)		153
244	水場遺構	—	木材下面最下層	IIA	14	胴部	後期		1(部分)		153
245	水場遺構	F-19	2層	IIA	17	胴部	堀之内1		1(全体)		153
246	水場遺構	E-19	縄文層	IID	40	胴部	堀之内		1(全体)		153
247	水場遺構	F-20	—	IID	85	胴部	後期か	●●	0		153
248	水場遺構	E-19c	縄文層	IIA	50	胴部	後期末葉		1(部分)		153
249	水場遺構	—	木材下面最下層	IIA	37	胴部	安行1	●●	0		153
250	水場遺構	F-18	流心部下層	IIB	14	胴部	安行3a～b		0		153
251	水場遺構	D-19	C層	ID	31	口縁部	安行1～2		0		153
252	水場遺構	E-19c	縄文層	IE	32	口縁部	安行2	●●	1(全体)	口端打欠	153
253	水場遺構	—	木材下面最下層	ID	45	口縁部	安行2～3a		1(全体)		153
254	水場遺構	D-19	C層	ID	39	口縁部	晩期前葉	●●	0	口端打欠	153
255	水場遺構	F-18	—	IA	27	口縁部	晩期前葉		1(全体)		153

磨り 0…なし、1…弱い（摩耗）、2…中程度、3…強い（研磨）

番号	位置	グリッド	層位	分類	素材		型式 時期	二次加工		備考	図版
					重量	部位		剥離 外 内	磨り		
256	水場遺構	—	—	I A	17	口縁部	安行1~2	●	1(全体)	口端打欠	153
257	水場遺構	—	—	I A	37	口縁部	晩期前葉	●●	1(全体)	口端打欠	153
258	水場遺構	E-18	C層	I D	51	口縁部	安行1		0		153
259	水場遺構	E-20b	C層	I D	29	口縁部	安行1	●●	1(部分)	口端打欠	153
260	水場遺構	E-20	C層	II B	27	胴部	安行1	●●	0	口端打欠	153
261	水場遺構	E-19	木組層	I D	43	口縁部	安行2	●●	1(全体)	口端打欠	153
262	水場遺構	E-19	木組上面	I D	33	口縁部	安行2~3a	●●	1(部分)	口端打欠	153
263	水場遺構	E-19	—	I D	31	口縁部	晩期前葉		1(部分顕著)		153
264	水場遺構	E-19	木組上面	I A	34	口縁部	安行2	●●	1(部分顕著)	口端打欠	153
265	水場遺構	E-19	木組層	I A	58	口縁部	安行3a~b	●	0	口端打欠	153
266	水場遺構	E-19d	C5層	I C	44	口縁部	安行3c	●	0	口端打欠	153
267	水場遺構	E-19	C層	II A	18	胴部	加曽利Bか	●	0		153
268	水場遺構	—	—	II A	10	胴部	晩期前葉		2(全面顕著)		153
269	水場遺構	E-19c	縄文層	II A	20	胴部	後期か		1(部分)		153
270	水場遺構	F-19	縄文層	II A	11	胴部	晩期		1(全体)		153
271	水場遺構	F-19	G断面1層	II A	19	胴部	後期か		0		153
272	水場遺構	E-20	木組縄文層	III A	38	底部	堀之内か		1(全体)		153
273	水場遺構	D-19a	縄文層	II E	47	口縁部	晩期前葉		1(全体)	意図的整形	153
274	水場遺構	F-20	検出面	IV	46	胴部	加曽利B		2(部分)	内外面に摩耗痕	153
【東斜面】(第149図)											
551	東斜面	E-22	D層	I A	60	口縁部	堀之内1		1(全体)		154
552	東斜面	E-22c	D層	I A	25	口縁部	安行1	●●	0	紐線文	154
553	東斜面	G-22	C層	II A	8	胴部	加曽利B		2(部分)		154
554	東斜面	F-23a	D層	II A	7	胴部	堀之内2		0		154
555	東斜面	F-22a	D層	II A	4	胴部	堀之内2		0		154
556	東斜面	E-21d	D層	II B	7	胴部	堀之内2	●	0		154
557	東斜面	F-20c	—	II D	22	胴部	晩期前葉		2(部分)		154
558	東斜面	G-22	C層	II A	13	胴部	堀之内		0	地文のみ	154
559	東斜面	F-24	D層	II B	10	胴部	堀之内	●	0	地文のみ	154
560	東斜面	F-23a	D層	II A	12	胴部	堀之内		2(部分)	地文のみ	154
561	東斜面	F-24	D層	II A	15	胴部	後期	●	1(部分)	地文のみ	154
562	東斜面	G-24d	D層	II A	21	胴部	早期		0	地文のみ	154
563	東斜面	F-22a	D層	II A	35	胴部	堀之内		1(部分)	地文のみ	154
564	東斜面	F-22d	D層	II A	4	胴部	堀之内		0	無文部(ミガキ)	154
565	東斜面	F-23	D層	II A	6	胴部	堀之内		0	無文部(ミガキ)	154
566	東斜面	F-22b	D層	II A	9	胴部	堀之内		0	無文部(ミガキ)	154
567	東斜面	F-22d	D層	II A	9	胴部	堀之内		0	無文部(ミガキ)	154
568	東斜面	G-22a	—	II B	26	胴部	堀之内		0	無文部(ミガキ)	154
569	東斜面	F-23a	D層	II A	7	胴部	堀之内1		2(部分)	無文部(ケズリ)	154
570	東斜面	G-23b	D層	II A	7	胴部	堀之内		1(部分)	無文部(ケズリ)	154
571	東斜面	F-22b	D層	II A	13	胴部	堀之内		1(全体)	無文部(ケズリ)	154
572	東斜面	F-23d	D層	II A	21	胴部	堀之内	●	1(全体)	無文部(ケズリ)	154
573	東斜面	F-23d	D層	III D	22	底部	晩期	●	0		154
574	東斜面	E-21	D層	III A	33	底部	後期		1(縁辺)		154
575	東斜面	F-21b	D層	III A	36	底部	堀之内		1(縁辺顕著)		154
576	東斜面	G-22	1層	土器片錘	69	胴部	堀之内		1(部分)	土器片錘、無文部(ミガキ)	154
【西斜面】(第188~192図)											
565	西斜面	D-18d	D層	II A	10	胴部	堀之内1		1(部分)		154
566	西斜面	C-18	D層	II A	20	胴部	堀之内1		1(部分)		154
567	西斜面	D-19	D層	II A	88	胴部	堀之内1		1(全体)		154
568	西斜面	—	—	II B	22	胴部	堀之内2	●	1(縁辺)		154
569	西斜面	D-18	C層	II B	28	胴部	加曽利B2		2(全面顕著)		154
570	西斜面	C-13	—	II A	47	胴部	安行3a		1(全面顕著)	注口部	154
571	西斜面	D-18④	C層	II A	12	胴部	安行3a		0	胴部下半	154
572	西斜面	B-13	—	II D	22	胴部	安行3a	●●	1(部分)	胴部下半	154
573	西斜面	B-13	—	II D	27	胴部	安行2~3a	●●	1(部分)	胴部下半	154
574	西斜面	E-17b	D層	II D	46	胴部	安行2~3a	●●	2(部分顕著)	胴部下半	154
575	西斜面	D-18	縄文層	II A	54	胴部	安行2~3a	●	0	胴部下半	154
576	西斜面	D-18	C層	II D	42	胴部	安行2~3a	●	1(部分)	胴部下半	154
577	西斜面	D-15	—	II A	5	胴部	堀之内		0	地文のみ	155
578	西斜面	B-13	—	II A	7	胴部	堀之内1		2(部分)	地文のみ	155

※水場遺構関連の層位の断面は第48~53図に対応 磨り 0…なし、1…弱い(摩耗)、2…中程度、3…強い(研磨)

番号	位置	グリッド	層位	分類	素材		型式 時期	二次加工		備考	図版
					重量	部位		剥離 外	磨り 内		
579	西斜面	D-18b	D層	IIA	20	胴部	不明		0	地文のみ	155
580	西斜面	C-13	—	IIA	16	胴部	後期中葉		1(縁辺)	地文のみ	155
581	西斜面	D-17	—	IIA	21	胴部	堀之内1		1(全体)	地文のみ	155
582	西斜面	D-16	—	IIA	18	胴部	堀之内1		1(全体)	地文のみ	155
583	西斜面	B-12	—	IIB	29	胴部	加曽利B	●	0	地文のみ	155
584	西斜面	E-17	縄文層	IIA	46	胴部	加曽利B		1(部分)	地文のみ	155
585	西斜面	C-14	—	IIA	33	胴部	後期後葉以降	●	1(全体)	地文のみ、胴下～底部	155
586	西斜面	C-18	C層	IIA	15	胴部	晩期前葉(粗製)		1(全面顕著)	粘土帯・指頭押圧	155
587	西斜面	D-17	—	IIA	17	胴部	晩期前葉(粗製)		0	粘土帯・指頭押圧	155
588	西斜面	D-18	縄文層	IIA	19	胴部	晩期前葉(粗製)		1(全体)	指頭押圧	155
589	西斜面	D-18	縄文層	IID	35	胴部	晩期前葉(粗製)		1(全体)	器面調整のみ	155
590	西斜面	D-17	—	IIA	6	胴部	堀之内		0	無文部	155
591	西斜面	—	—	IIA	10	胴部	堀之内		1(全体)	無文部	155
592	西斜面	D-18	縄文層	IIA	13	胴部	後期		1(全体)	無文部	155
593	西斜面	C-18	D層	IIA	13	胴部	晩期		2(部分)	無文部	155
594	西斜面	E-18⑩	D層	IIA	9	胴部	晩期		1(部分)	無文部	155
595	西斜面	D-16	—	IIA	11	胴部	晩期		1(全体)	無文部	155
596	西斜面	D-17c	C層	IIA	32	胴部	後期堀之内		2(部分)	無文部	155
597	西斜面	E-18d	D層	IIA	19	胴部	堀之内		0	有文(沈線)	155
598	西斜面	D-19a	C・D層	IIA	22	胴部	晩期		1(全体)	無文(ケズリ)	155
599	西斜面	D-16	—	IIA	19	胴部	晩期	●	2(部分)	無文(ケズリ)	155
600	西斜面	D-17	—	IIA	28	胴部	晩期		2(部分)	無文(ケズリ)	155
601	西斜面	D-18b	D層	IIA	28	胴部	晩期		1(部分)	無文(ケズリ)	155
602	西斜面	D-17	—	IIA	46	胴部	堀之内		1(全面顕著)	有文(沈線)	155
603	西斜面	D-16	—	IIIA	32	底部	晩期	●	1(全面顕著)		155
604	西斜面	D-17	—	IIIA	33	底部	後期後葉		2(部分)		155
605	西斜面	C-13	—	IIIB	59	底部	後期	●●	0	編組痕	155
606	西斜面	D-19⑪	C層	IIIA	145	底部	中期か	●●	1(全体)		155
607	西斜面	B-13	—	IIB	19	胴部	安行2～3a	●	0	条線	155
608	西斜面	B-13	—	IIB	13	胴部	安行2	●●	0	条線	155
609	西斜面	D-17	—	IIB	12	胴部	晩期前葉		1(全体)	条線	155
610	西斜面	C-13	—	IIB	17	胴部	堀之内	●	0	無文部(ミガキ)	155
611	西斜面	D-17	—	IIB	13	胴部	後期後葉	●	0	条線	155
612	西斜面	D-15	—	IIB	8	胴部	晩期		0	無文部(ミガキ)	155
613	西斜面	D-19a	C・D層	IIB	11	胴部	晩期		1(全体)	無文部(ケズリ)	155
614	西斜面	E-17	—	IIB	10	胴部	晩期前～中葉	●	1(全体)	無文部(器面調整)	155
615	西斜面	D-16	—	IIB	14	胴部	堀之内1	●	1(全体)	無文部(器面調整)	155
616	西斜面	E-18⑫	D層	IIB	12	胴部	安行2～3a		1(全体)	無文部(ミガキ)	155
617	西斜面	D-18	D層	IIB	39	胴部	後期	●	1(全面顕著)	無文部(器面調整)	155
618	西斜面	E-18	—	IIB	39	胴部	晩期		1(全面顕著)	無文部(器面調整)	155
619	西斜面	D-18	C・D層	IIB	25	胴部	晩期		0	無文部(器面調整)	155
620	西斜面	E-17a	D層	IIB	26	胴部	晩期か	●	1(全体)	無文部(器面)	155
621	西斜面	D-16	—	IIC	16	胴部	晩期		0	無文部(器面調整)	156
622	西斜面	D-15	—	IIC	18	胴部	堀之内	●●	0	無文部(ミガキ)	156
623	西斜面	—	—	IIC	22	胴部	堀之内		1(部分)	無文部(ミガキ)	156
624	西斜面	D-19	C層	IIC	27	胴部	堀之内	●	0	無文部(ミガキ)	156
625	西斜面	—	—	IIC	21	胴部	晩期前葉		0	無文部(器面調整)	156
626	西斜面	D-16	—	IID	21	胴部	後期		1(全面顕著)		156
627	西斜面	E-18	C層	IID	23	胴部	安行2	●●	0		156
628	西斜面	D-18	縄文層	IV	44	胴部	堀之内か	●●	0	抉入	156
629	西斜面	D-17	C層	IIE	31	胴部	晩期前葉		1(部分)		156
630	西斜面	D-18	D層	IIE	51	胴部	堀之内1		2(部分) 1(全体)		156
631	西斜面	D-16	—	IIE	11	胴部	安行2～3a		1(全体)	紐線文	156
632	西斜面	D-18	C層	IA	34	口縁部	曾谷		1(全体)	波頂部	156
633	西斜面	—	—	ID	28	口縁部	曾谷か	●●	3(部分)	波頂部	156
634	西斜面	D-19a	C・D層	ID	10	口縁部	堀之内2		1(全面顕著)		156
635	西斜面	D-19	—	IA	28	口縁部	堀之内2		1(部分)	突起部	156
636	西斜面	E-18	D層	IA	9	口縁部	後期中葉	●●	1(部分)	突起部	156
637	西斜面	B-13	—	IE	75	口縁部	加曽利B2	●●	1(部分)	突起部	156
638	西斜面	—	—	IID	58	口縁部	加曽利B	●	1(全体)	内面帯状剥落	156

磨り 0…なし、1…弱い(摩耗)、2…中程度、3…強い(研磨)

番号	位置	グリッド	層位	分類	素材		型式 時期	二次加工		備考	図版
					重量	部位		剥離 外内	磨り		
639	西斜面	—	—	I A	18	口縁部	加曾利B	● ●	1(全面顕著)	口端打欠?、紐線文	156
640	西斜面	B-13	—	I A	21	口縁部	安行1	● ●	1(全面顕著)	口端打欠	156
641	西斜面	E-18	C層	I D	58	口縁部	後期安行	● ●	1(全面顕著)	口端打欠	156
642	西斜面	D-17	—	I D	66	口縁部	安行1		1(部分)		156
643	西斜面	D-19	C・D層	I D	32	口縁部	安行2~3a	● ●	1(全体)	口端打欠	156
644	西斜面	D-17	—	I B	36	口縁部	安行3a	●	3(部分) 1(部分)		156
645	西斜面	D-19d	C・D層	I D	36	口縁部	安行2	● ●	0	口端打欠	156
646	西斜面	B-13	—	I D	40	口縁部	安行2	● ●	1(全体)	口端打欠	156
647	西斜面	B-13	—	I D	51	口縁部	安行2~3a	● ●	1(全体)	貼付剥落	156
648	西斜面	—	—	I D	59	口縁部	安行2	● ●	0	口端打欠、突起剥落	156
649	西斜面	B-13	—	I D	67	口縁部	安行3a	● ●	1(全体)	貼付剥落	156
650	西斜面	B-13	—	I D	38	口縁部	安行2	● ●	1(全面顕著)	口端打欠	156
651	西斜面	—	—	I A	15	口縁部	後期安行	●	0	口端打欠	156
652	西斜面	B-13	—	I D	56	口縁部	安行3a	●	1(部分)	口端打欠	156
653	西斜面	D-18	縄文層	I D	35	口縁部	安行2~3a	●	2(両側)	注口	156
654	西斜面	D-17	—	I	30	口縁部	安行3a		1(全体)		156
655	西斜面	D-18	縄文層	I D	31	口縁部	安行1~2	●	1(縁辺)		157
656	西斜面	C-14	—	I	42	口縁部	後期後葉以降	● ●	1(全体)	口端打欠	157
657	西斜面	B-13	—	I D	43	口縁部	安行1	●	0		157
658	西斜面	B-13	—	I A	50	口縁部	安行1	● ●	0	口端打欠、条線文	157
659	西斜面	A-12	—	I B	40	口縁部	安行1	● ●	1(部分)	口端打欠、条線文	157
660	西斜面	—	—	I A	19	口縁部	安行1	● ●	0	口端打欠、条線文	157
661	西斜面	C-15	—	I B	21	口縁部	曾谷		0	条線文風(縄文)	157
662	西斜面	—	—	I D	54	口縁部	後期後葉	● ●	1(全体)	口端打欠、条線文	157
663	西斜面	D-18	C層	I D	16	口縁部	安行1	●	0	条線文	157
664	西斜面	B-13	—	I	27	口縁部	晩期安行	●	1(部分)	口端打欠、紐線文	157
665	西斜面	D-18	C層	I D	20	口縁部	安行2	●	1(部分)	口端打欠、条線文	157
666	西斜面	C-16	—	I D	35	口縁部	安行2	●	1(部分)	条線文	157
667	西斜面	B-13	—	I C	52	口縁部	安行3a		0	紐線文	157
668	西斜面	D-19a	C・D層	I D	55	口縁部	安行2~3a	● ●	1(部分)	口端打欠、紐線文	157
669	西斜面	B-13	—	I A	39	口縁部	晩期前葉	● ●	0	口端打欠、紐線文	157
670	西斜面	—	—	I D	57	口縁部	安行3a	● ●	1(縁辺)	挟入部両面加工、紐線文	157
671	西斜面	B-13	—	I C	64	口縁部	安行3a	●	0	口端打欠、紐線文	157
672	西斜面	B-13	—	I E	37	口縁部	安行3a~b	● ●	1(全体)	口端打欠、紐線文	157
673	西斜面	D-18	C・D層	I B	48	口縁部	安行3b~c		1(全体)	粗製(粘土紐)	157
674	西斜面	D-18	縄文層	I D	30	口縁部	安行3b~c		1(全体)	粗製(粘土紐)	157
675	西斜面	B-13	—	I D	25	口縁部	晩期前葉		0	粗製(ケズリ)	157
676	西斜面	D-19	D層	I D	22	口縁部	晩期か		1(部分)	粗製(ケズリ)	157
677	西斜面	D-18	縄文層	I D	26	口縁部	晩期前葉か	●	1(全面顕著)	粗製(ケズリ)	157
678	西斜面	B-13	—	IV	59	胴部	後晩期		表裏面に磨り	無文部	158
679	西斜面	E-18	C・D最下層	IV	136	口縁部	加曾利EⅢ		3(部分)	208-16図と同一	158
680	西斜面	D-15	—	IV	9	胴部	堀之内		3(部分)	破断面研磨痕、無文	158
681	西斜面	D-17	—	IV	36	胴部	堀之内1		3(顕著)	破断面研磨痕、地文	158
682	西斜面	D-19	C層	IV	51	口縁部	堀之内		1(顕著)	破断面トトロ口に摩耗	158
683	西斜面	B-13	—	ⅡA	23	胴部	安行2		0	破断面擦痕伴う磨面	158
684	西斜面	D-19①	C・D層	IV	22	口縁部	曾谷		0	挟入(両面)	158
685	西斜面	D-17	—	IV	23	胴部	堀之内		0	挟入(両面)、無文(ミガキ)	158
686	西斜面	D-18③	C層	I D	—	口縁部	後期安行	● ●	0	対向する位置に挟入	158
【遺構外】(第211図)											
72	SJ102	—	—	ⅡA	11	胴部	条痕文期		1(全体)		157
73	SJ109	—	—	ⅡA	6	胴部	後期前~中葉		0		157
74	SJ106	—	2層	ⅡA	15	胴部	称名寺	●	1(部分)		157
75	SJ105	—	—	ⅡD	31	胴部	称名寺		1(全体)		157
76	SR5	—	方台部	ⅡA	22	胴部	堀之内2		0		157
77	一括	—	—	ⅡB	27	胴部	後期か		1(部分)		157
78	一括	—	—	ⅡA	4	胴部	不明		2(全体)	外周整形、無文(粘土紐)	157
79	SJ103	—	—	ⅡA	6	胴部	不明		2(部分)	外周部分整形、無文	157
80	表採	—	—	ⅡB	12	胴部	不明		1(全体)	無文部(ミガキ)	157
81	SR5	—	—	土器片錘	56	口縁部	後期前葉	●	0	土器片錘、地文のみ	157

磨り 0…なし、1…弱い(摩耗)、2…中程度、3…強い(研磨)

第12表 土製品観察表

No.	出土位置	グリッド	層位	器種	法量				備考	図版
					長さ	幅	厚さ	重さ		
【第3号木組遺構】(第63図)										
25	3号木組	—	堆積土	土偶	[2.1]	[2.2]	[1.2]	5.0	左腕部、下端刺突	160
【第1・2号導水溝状遺構】(第94図)										
13	2号導水溝	E-19	最下層	ミニチュア土器	口径 [4.8]	器高 [3.6]	底径3.6	48.0	SD59	159
【第3号導水溝状遺構】(第96図)										
56	3号導水溝	E-19・20	最下層	ミニチュア土器	口径4.0	器高 [3.1]	底径—	14.0	SD56	159
57	3号導水溝	E-19	—	土偶	[5.0]	[6.0]	[2.7]	65.0	SK774、胴～脚部	160
58	3号導水溝	E-19	—	不明土製品	[3.9]	[4.3]	[2.5]	40.0	SK774、柱状、第120図283に類似	161
【開削部土器集積層】(第101図)										
58	開削部	D-20	土器集積層	耳飾り	A2.2	B1.9	C1.6	7.0	文様(微細な沈線)	159
59	開削部	D-20	土器集積層	耳飾り	A (4.1)	B (3.9)	C1.6	2.4	環状、有文(上端+内面微細刻列)	159
60	開削部	D-20	土器集積層	耳飾り	A (5.6)	B (5.5)	C (2.0)	3.5	環状、内面有文(沈線、端部沈線段)	159
【水場遺構最下層】(第106図)										
52	水場遺構	F-19	最下層	ミニチュア土器	口径4.2	器高5.9	底径4.9	105.0	全面に細節のRL縄文(原体二種)	159
【水場遺構一括】(第120図)										
275	水場遺構	D-20	1層	耳飾り	A4.0	B2.6	C2.5	15.0	赤彩、微細刺突、ブリッジ、透孔	159
276	水場遺構	—	—	耳飾り	A2.2	B1.8	C1.7	4.8	ブリッジ	159
277	水場遺構	—	堆積層	耳飾り	A2.4	B2.2	C1.8	6.1	五角形状小突起、ブリッジ	159
278	水場遺構	E-19	I断面10層	耳飾り	A2.4	B2.2	C2.2	10.0	棒状工具による浅い押圧 押圧間にキザミ	159
279	水場遺構	E-19	I断面10層	耳飾り	A2.3	B1.9	C1.3	8.1	柱状、無文	159
280	水場遺構	E-19	木組層	耳飾り	A (4.4)	B (4.3)	C1.5	5.5	環状、文様あり	159
281	水場遺構	E-19	木材下層	耳飾り	A (6.4)	B (5.2)	C2.6	24.6	大型栓状、無文	159
282	水場遺構	E-19	木組上面	土偶	[4.2]	[5.5]	[1.7]	32.0	みみずく形土偶、顔部	160
283	水場遺構	—	F断面25層	土製品	幅3.9	高さ3.5	—	41.3	柱状、第96図58に類似	161
284	水場遺構	—	C断面6～11層	土製品	[2.2]	[1.4]	—	5.0	側面膨らむ俵形	161
285	水場遺構	—	—	土製品	1.8	1.8	0.8	2.0	ボタン状、側面に刻み	161
【東斜面】(第150図)										
577	台地縄文層	F-19	—	ミニチュア土器	口径 [5.8]	器高 [4.1]	底径4.7	73.0	後期前葉か	159
578	台地縄文層	G-22	縄文層	ミニチュア土器	口径 [4.0]	器高 [3.0]	底径2.4	15.0	—	159
579	台地縄文層	G-22	—	土偶	[7.0]	[5.6]	[3.2]	58.0	加曾利B式期、胴～脚部(自立)	160
580	東斜面	F-21	D層	土偶	[4.8]	[6.1]	[1.8]	29.0	堀之内式期、胴部渦巻文、腕部貫通孔	160
581	台地縄文層	G-22	—	土偶	[4.5]	[3.7]	[3.5]	37.0	後期前葉か、脚部(自立)	160
582	東斜面	G-23	D層	キノコ形土製品	2.8	4.3	3.8	17.0	後期前葉か、傘側縁スリット	161
583	東斜面	F-23	D層	不明土製品	[4.8]	[2.4]	2.4	22.0	円錐形	161
584	台地縄文層	G-21	E層	不明土製品	2.5	2.7	[2.2]	15.0	筒状、上面竹管工具刺突	161
585	東斜面	F-23	D層	不明土製品	[3.1]	[3.3]	[2.5]	12.0	上部受け皿状、注口	161
586	東斜面	F-23	D層	焼成粘土塊	3.9	3.8	2.0	20.9	—	159
【西斜面】(第193～195図)										
687	西斜面	D-18d	D層	ミニチュア土器	口径3.9	器高4.8	底径2.9	69.0	完形、丸底、底部からケズリ(縦)	159
688	西斜面	B-13	—	ミニチュア土器	口径 (4.8)	器高 (4.3)	底径 (3.8)	19.0	欠損、底面横沈線	159
689	西斜面	B-13	—	ミニチュア土器	口径 [3.0]	器高 [2.7]	底径 [3.0]	17.0	欠損、口縁部指頭押圧	159
690	西斜面	D-18	—	ミニチュア土器	口径 [4.6]	器高 [2.7]	底径 [4.3]	6.0	輪痕痕	159
691	西斜面	D-18	D層	ミニチュア土器	口径 [5.1]	器高 [3.3]	底径6.2	20.0	脚台部、ミガキ	159
692	西斜面	C-14	—	ミニチュア土器	口径 [4.9]	器高 [2.7]	底径—	22.0	丸底、ケズリ	159
693	西斜面	D-19d	D層	ミニチュア土器	口径—	器高 [3.5]	底径—	7.0	—	159
694	西斜面	D-18	C層	ミニチュア土器	口径—	器高 [2.7]	底径5.5	45.0	底部、底面、ケズリ	159
695	西斜面	D-16	—	土偶	[4.0]	[4.0]	[3.6]	39.0	後期中葉か、脚部(自立)、足裏編組痕	160
696	西斜面	B-13	—	土偶	[4.8]	[2.9]	[3.2]	36.0	脚部	160
697	西斜面	D-18	—	土偶	[5.5]	[3.6]	[3.2]	50.0	脚部、破断面摩耗	160
698	西斜面	D-17	—	土偶	[3.4]	[5.4]	[2.8]	34.0	みみずく形土偶、胴部～腕部	161
699	西斜面	D-18	—	土偶	[6.1]	[7.0]	3.4	118.0	みみずく形土偶、胴部	161
700	西斜面	C-18	—	土偶	[5.4]	[3.4]	[2.9]	55.0	みみずく形土偶、脚部、硬質	160
701	西斜面	E-18	C1～C2層	土偶	[3.6]	[4.7]	[2.9]	27.0	脚部	160
702	西斜面	E-18	C1～C2層	土偶	[5.7]	[4.5]	[2.6]	45.0	脚部	161
703	西斜面	E-18	D層	耳飾り	A1.6	B1.4	C1.3	3.5	筒状、無文	159
704	西斜面	B-13	—	耳飾り	A (3.3)	B (2.8)	C2.1	2.8	微細な刺突	159
705	西斜面	E-18⑤	D層	耳飾り	A (5.4)	B (5.2)	C2.2	3.5	環状、縁部沈線段状	159
706	西斜面	D-18a	D層	耳飾り	A4.0	B3.4	C2.0	22.9	歪みあり、有孔	159
707	西斜面	C-13	—	耳飾り	A (4.0)	B (3.8)	C1.7	2.8	環状、無文	159
708	西斜面	D-18	縄文層	耳飾り	A (7.4)	B (7.3)	C2.5	18.7	環状、無文	159
709	西斜面	C-18	D層	耳飾り	A (7.4)	B (7.2)	C2.5	12.9	環状、無文	159
710	西斜面	D-18	C層	耳飾り	A (6.3)	B (5.9)	C1.3	3.2	環状、内面に擦痕風	159
711	西斜面	D-18	C層	耳飾り	A (7.2)	B (7.1)	C (1.4)	7.4	環状、無文	159
712	西斜面	D-18	D層	耳飾り	A (8.7)	B (7.8)	C2.3	9.5	環状、無文	159
713	西斜面	C-15	—	筒状の土製品	[7.3]	[5.0]	—	50.0	5～6mmの内孔無数	161
714	西斜面	D-16	—	不明土製品	[4.4]	[2.0]	—	14.0	弧状に湾曲、3面に竹管状工具刺突	161
715	西斜面	E-18	DE層	焼成粘土塊	4.2	2.6	1.5	12.1	—	159
716	西斜面	D-17	C層	焼成粘土塊	2.8	4.0	2.5	15.8	—	159
717	西斜面	D-17	—	焼成粘土塊	5.2	4.6	2.0	28.4	—	159
718	西斜面	C-18	C層	焼成粘土塊	4.7	4.9	2.5	33.3	1面は平坦	159
719	西斜面	B-12	—	手燭形土製品	[12.7]	[6.3]	—	111.6	把手部に小孔	161
720	西斜面	C-15	—	磨石模倣の土製品	[9.5]	[5.8]	—	246.0	表面摩耗、表+側面に凹穴風	162
721	西斜面	D-15	—	石皿模倣の土製品	[13.7]	[9.0]	—	345.0	縁辺部外面+上端押圧	162
【遺構外】(第211図)										
82	一括	—	—	耳飾り	最大径 (6.0)	最小径 (4.9)	高さ3.0	10.8	環状、無文	159
83	SJ106	—	1層	土偶か	[2.6]	[3.3]	[1.2]	7.0	後期の筒型土偶か	162
84	一括	—	—	焼成粘土塊	[2.8]	[3.1]	—	16.0	—	159

※水場遺構関連の層位の断面は第48～53図に対応

第13表 石器・石製品観察表

No.	出土位置	グリッド	層位	器種	法量				石材	被熱	備考	図版
					長さ	幅	厚さ	重さ				
【第121号住居跡】(第21図)												
42	SJ121	G-21	SK1内	石皿	[24.1]	14.5	3.3	1179.6	結晶片岩		2面利用(磨2・凹2)	163
【第1号集石】(第25図)												
1	集石	J-27	—	磨石	12.1	10.0	7.5	1256.1	砂岩		磨全体微弱、破断面縁辺に微細剥離、一部に擦痕伴う磨り	163
2	集石	J-27	—	磨石	12.3	6.2	4.1	447.5	閃緑岩		磨1(極めて微弱)	163
3	集石	J-27	—	磨石	11.3	4.1	3.8	269.5	砂岩		磨2(顕著)	163
【土壙(1)】(第33・34・38・39図)												
46	SK752	H-25	—	スクレイパー	7.8	2.7	1.3	34.8	ホルンフェルス		刃部に微細剥離	164
48	SK755	G-23・24	—	石鏃	[2.1]	1.7	0.4	1.1	チャート		無茎平基	163
57	SK763	G-21	—	敲石	6.4	4.0	2.8	83.2	砂岩		破断面縁辺利用	164
58	SK763	G-21	—	打製石斧	8.9	4.3	2.5	104.8	ホルンフェルス		撥形、片刃表裏一部に自然面	164
59	SK763	G-21	1層	石棒	[9.3]	[2.6]	[1.9]	76.9	緑色岩			164
68	SK726	F-19	—	磨石	8.7	5.9	4.9	397.7	砂岩		磨全面(3面顕著)	164
91	SK733	E-19	—	凹石	[9.1]	14.6	6.6	1136.8	安山岩		石棒再利用、破断面設置部摩耗	164
92	SK733	E-19	—	石皿	[9.9]	[8.2]	3.3	307.6	安山岩		表:凹穴(同心円)、 裏:凹レンズ状磨面	164
【第3号木組遺構】(第63図)												
26	3号木組	—	木組内堆積土	敲石	11.7	4.3	2.5	157.8	流紋岩		2側縁(片側顕著)	164
27	3号木組	—	下層	磨凹石	6.9	[6.8]	4.0	300.8	閃緑岩	有	磨全面、凹2(A2・A2)	164
28	3号木組	—	—	石皿	[9.5]	[9.6]	6.5	692.3	閃緑岩		石皿転用、凹は側面にも形成	164
【第4号木組遺構】(第73図)												
13	4号木組	—	下部	(側面敲打系)敲石	[4.1]	[7.7]	2.5	95.6	硬砂岩		剥離を伴う敲打痕B	164
【第5号木組遺構】(第84図)												
67	5号木組	—	木組部上面	打製石斧	12.5	7.5	3.0	329.4	ホルンフェルス		分銅形、自然面有、摩耗顕著、 着柄痕	164
68	5号木組	—	堆積土	打製石斧	12.8	8.5	3.9	538.0	ホルンフェルス		分銅形、自然面有、摩耗顕著、 着柄痕	164
69	5号木組	—	堆積土	二次加工剥片	[8.4]	4.8	1.6	73.2	ホルンフェルス		縦長剥片	164
70	5号木組	—	C断面6~11層	磨凹敲石	8.9	6.5	3.3	268.0	安山岩	有	磨2(顕著)、凹1(A1)、 敲-(側面全体)整形敲打か	164
71	5号木組	E-18・19	堆積土	敲磨石	[6.2]	[5.7]	2.8	105.1	硬砂岩	有	磨2(顕著)、 側面に剥離を伴う敲打痕B	164
72	5号木組	—	堆積土	磨凹敲石	19.2	5.9	5.6	1067.1	安山岩		磨全面、凹1(C1)、 敲-両端(凹凸少ない平坦面)	164
73	5号木組	—	—	石棒	[6.5]	2.7	[1.5]	38.3	黒色頁岩		小型石棒	164
74	5号木組	—	堆積土	垂飾	[2.2]	1.2	0.4	1.3	ヒスイ		片側穿孔	162
【開削部】(第101・102図)												
61	開削部	D-20	土器集積層	磨凹敲石	9.6	7.9	6.5	741.1	閃緑岩		磨全面、敲-両端中心に各所、 凹4(表裏C2・C2)(側面B1・C2)	165
62	開削部	D-20	土器集積層	岩版	4.4	6.0	2.2	38.1	凝灰岩			163
63	開削部	D-20	土器集積層	岩版	[4.9]	[4.0]	2.0	25.4	凝灰岩		3・4と同一個体	163
64	開削部	D-20	土器集積層	岩版	9.4	5.9	1.8	69.1	凝灰岩		4・5と同一個体	163
65	開削部	D-20	土器集積層	岩版	[4.9]	[3.1]	1.9	15.8	凝灰岩		3・5と同一個体	163
66	開削部	D-20	土器集積層	玉	1.0	0.9	1.2	1.6	不明		両側穿孔	162
67	開削部	D-20	最下層	丸玉	1.3	1.3	1.1	3.1	ヒスイ		片側穿孔	162
75	開削部	D-20	最下層	岩版	[7.4]	[7.0]	[3.7]	111.2	凝灰岩			163
【水場遺構最下層】(第107・108図)												
58	水場遺構	F-18	最下層	石鏃	[2.4]	1.7	0.7	3.0	チャート			163
59	水場遺構	—	最下層	石鏃	2.5	1.4	0.4	0.9	不明		有茎	163
60	水場遺構	—	最下層	石鏃	4.5	1.6	0.6	3.5	頁岩		有茎	163
61	水場遺構	—	最下面砂層	石槍	[4.4]	[1.4]	0.7	4.5	頁岩		先端磨減	163
62	水場遺構	—	最下層	石槍	[5.2]	2.0	0.9	9.9	頁岩			163
63	水場遺構	F-19	最下層	スクレイパー	[6.9]	3.8	1.6	50.5	砂岩		粗製	164
64	水場遺構	F-19	最下層	スクレイパー	[7.7]	4.7	1.2	46.4	ホルンフェルス			164
65	水場遺構	—	最下層	スクレイパー	6.2	4.9	0.8	21.5	砂岩		粗製	164
66	水場遺構	F-19	最下層	スクレイパー	5.8	6.6	1.0	31.8	頁岩	有	粗製	164
67	水場遺構	F-19	最下層	スクレイパー	8.1	3.8	2.2	62.4	ホルンフェルス		微細剥離	164
68	水場遺構	F-19	最下層	敲石	7.7	3.5	2.7	81.6	砂岩			164
69	水場遺構	E-19	最下面砂層	敲石	7.2	5.2	4.9	211.5	砂岩	有	磨石(台石)欠損後の転用	164
70	水場遺構	—	最下層	磨敲石	5.7	6.4	3.1	196.2	安山岩	有	磨全面、敲-両端破断面の稜部全周 使用(無数の微細剥離)	164
71	水場遺構	—	最下層	磨凹石	[14.0]	6.2	3.0	352.2	安山岩		石皿転用、磨1(凹面)、凹2	165
72	水場遺構	—	最下層	石皿	[13.5]	[11.1]	5.9	671.5	緑泥片岩		有脚	165
73	水場遺構	F-19	最下層	石皿	[9.5]	[7.4]	[1.7]	159.7	緑泥片岩		凹穴(同心円)、磨面顕著	165
74	水場遺構	F-19	最下層	砥石	10.5	3.4	1.1	63.7	砂岩		磨表裏は長軸、 側縁は短軸方向の擦痕	165
75	水場遺構	F-18	最下層	砥石	9.0	6.8	4.6	158.5	砂岩		断面三角形の垂角礫、 1面に砥溝(他部分的)	165
76	水場遺構	—	F断面25層	磨製石斧	[4.6]	5.1	1.7	49.6	蛇紋岩			164
77	水場遺構	D-19	最下層	磨製石斧	8.6	4.8	2.4	186.5	斑れい岩			164

※水場遺構関連の層位の断面は第48~53図に対応

No.	出土位置	グリッド	層位	器種	法量				石材	被熱	備考	図版
					長さ	幅	厚さ	重さ				
78	水場遺構	F-19b	直上層	石棒	[15.8]	[1.6]	[3.7]	113.2	緑色岩			165
【水場遺構一括】(第121~124図)												
288	水場遺構		4号木組上面	石鏃	2.3	2.1	0.4	1.5	頁岩		無茎平基	163
289	水場遺構	E-19	I断面3~8層	石鏃	3.1	2.0	0.3	1.5	チャート		無茎凹基	163
290	水場遺構	E-19		石鏃	3.8	1.7	0.4	2.5	チャート		無茎凹基	163
291	水場遺構	E-19	4号木組上面	石鏃	3.8	2.6	0.6	5.3	頁岩		無茎凹基	163
292	水場遺構	E-19	流心部下層	石鏃	[4.8]	2.2	0.6	3.8	チャート		有茎鏃	163
293	水場遺構	E-19	堅果類集積層下	石錐	4.4	[2.4]	0.7	7.3	チャート			165
294	水場遺構			石錐	4.3	3.4	1.8	16.7	チャート			165
295	水場遺構	E-20	C断面6~11層	スクレイパー	2.7	2.7	0.6	3.2	チャート			165
296	水場遺構	E-19	木組上面	スクレイパー	3.2	2.9	1.1	9.1	チャート			165
297	水場遺構	F-19	縄文層	スクレイパー	5.1	2.8	0.8	10.0	チャート			165
298	水場遺構	E-19	縄文層	スクレイパー	4.7	[5.2]	1.1	27.7	頁岩		3側縁加工、1側縁に微細剥離	165
299	水場遺構	E-19	—	スクレイパー	[4.5]	[4.2]	1.1	18.1	流紋岩		1側縁片面加工、縁辺利用せず	165
300	水場遺構	F-19	D断面4~6層	スクレイパー	5.7	3.9	1.5	35.1	チャート			165
301	水場遺構	E-19	縄文層	スクレイパー	4.3	4.1	1.6	40.9	頁岩		扁平礫の両端打欠き、破断面の二次加工、両端に敲打摩耗	165
302	水場遺構	E-19	縄文層	スクレイパー	[1.7]	2.5	0.4	1.6	頁岩			165
303	水場遺構	E-19	C断面6~11層	微細剥離剥片	2.4	3.6	0.8	5.5	チャート			165
304	水場遺構	F-19	縄文層	打製石斧	10.3	4.9	1.7	103.2	ホルンフェルス			165
305	水場遺構	F-19	D断面4~6層	打製石斧	8.2	6.8	1.7	109.8	ホルンフェルス		撥形	165
306	水場遺構	D-19	木組6層	二次加工剥片	[10.4]	5.3	2.1	138.0	斑れい岩		石皿転用	165
307	水場遺構	E-19	縄文層	礮器	[12.0]	8.6	6.6	767.4	砂岩			165
308	水場遺構	F-19	縄文層	石錘	5.7	3.8	1.2	38.9	頁岩			165
309	水場遺構	E-18	縄文層	敲石	3.4	2.9	0.6	8.5	砂岩		端部2か所利用	165
310	水場遺構	—	縄文層	敲石	4.8	4.9	3.4	96.8	砂岩		破断面に敲打痕B(微細剥離伴う)	165
311	水場遺構	F-19	8-9層	敲石	5.2	2.5	2.7	27.5	安山岩			165
312	水場遺構	F-19	F断面24~27層	磨敲石	[10.3]	5.3	3.9	190.8	砂岩			165
313	水場遺構	E-20	流心部6層	磨敲石	[10.9]	5.8	2.8	258.4	砂岩		磨2(顕著)、敲-2側、端部破断面稜線に微細剥離	166
314	水場遺構	E-19	縄文層	磨凹敲石	8.8	5.6	3.8	280.2	安山岩	有	磨3(顕著)、敲B-(2側+2端)、敲-端部(破断面稜部顕著、微細剥離)	166
315	水場遺構	D-20	C層	磨凹敲石	[8.9]	8.7	3.1	320.9	砂岩		磨2(顕著、剥離面にも)凹2(C2・A2)、敲-裏面顕著側面に敲B	166
316	水場遺構	F-19	F断面24~27層	磨凹敲石	[8.7]	6.2	3.4	213.1	溶岩		磨2(顕著)、敲B-2側面、凹4(表裏C2・C2)(側面C2・C2)	166
317	水場遺構	E-19	縄文層	磨凹敲石	[6.3]	5.8	4.6	280.2	閃緑岩		磨4、凹4(いずれもA2か)、敲-端部	166
318	水場遺構	E-19	縄文層	石皿	[14.1]	[13.1]	[6.2]	697.5	安山岩		有縁	166
319	水場遺構		D層	石皿	[11.9]	[11.8]	6.3	476.7	安山岩	有	有脚、有縁、表:中央部に磨、裏:凹穴	166
320	水場遺構	F-19	F断面24~27層	台石	10.6	8.1	2.0	231.7	砂岩		扁平礫2面利用	166
321	水場遺構	E-19	木組上面	台石	[7.3]	9.5	2.6	246.5	砂岩		扁平礫2面利用	166
322	水場遺構	D-19		石皿	8.3	14.0	8.5	1168.5	安山岩			166
323	水場遺構	E-19	縄文層	砥石	4.5	3.6	2.9	59.0	安山岩		小型多面体礫、全面に磨り(表裏擦痕)	166
324	水場遺構	F-19	縄文層	台石	7.6	7.0	1.2	86.4	砂岩		磨2(顕著、擦痕方向ランダム)、側面に敲打痕Bか	166
325	水場遺構	E-19	木組上面	磨製石斧	[6.9]	4.0	2.9	127.8	緑色岩	有		166
326	水場遺構	E-19	縄文層	磨製石斧	[5.5]	[5.3]	[2.0]	39.3	蛇紋岩			166
327	水場遺構	—	流心部下層	石棒	[12.0]	[6.7]	4.3	572.3	緑泥片岩	有		166
328	水場遺構	E-19	縄文層	垂飾	[3.4]	1.5	0.5	3.5	不明		両側穿孔	162
【東斜面】(第151~155図)												
587	東斜面	E-21		石鏃	1.6	1.4	0.4	0.6	黒曜石		無茎平基	166
588	東斜面	G-23		石鏃	1.9	2.0	0.3	0.9	チャート		無茎凹基	166
589	東斜面	H-26		石鏃	2.7	2.3	0.5	1.7	チャート		無茎凹基	166
590	東斜面	H-25		石鏃	[3.4]	2.4	0.6	3.9	チャート		無茎凹基	166
591	東斜面	I-26	IV層	石鏃	[2.7]	1.6	0.6	1.3	チャート		有茎、下布田型	166
592	東斜面	F-20		石鏃	3.8	1.6	0.8	3.3	頁岩		有茎	166
593	東斜面	G-25	D層	石鏃	2.8	2.0	0.6	3.1	チャート		無茎(未製品)	166
594	東斜面	G-23		石鏃	[3.8]	3.5	0.8	8.8	頁岩		無茎(未製品)	166
595	東斜面	G-24a	D層	石錐	[3.8]	3.2	0.9	9.1	チャート		錐部折損	167
596	東斜面	G-22		スクレイパー	3.8	3.5	1.4	16.1	チャート		両面調整	167
597	東斜面	G-23	C層	搔器	5.0	3.4	2.4	27.6	珪質頁岩			167
598	東斜面	G-22		搔器	3.5	3.1	1.9	23.5	チャート			167
599	東斜面	F-20		スクレイパー	6.6	4.1	1.2	20.8	珪質頁岩		1側縁両面	167
600	東斜面	F-21	D層	スクレイパー	1.8	2.3	1.1	2.5	黒曜石		1側縁微細剥離	167
601	東斜面	H-26		搔器	3.3	2.9	1.2	9.5	玉髓			167
602	東斜面	H-25		微細剥離剥片	5.5	5.6	1.5	29.0	ホルンフェルス		2側縁微細剥離	167
603	東斜面	G-25		微細剥離剥片	8.3	5.3	3.6	172.6	ホルンフェルス		敲-磨器剥片利用、1側縁に微細剥離	167
604	東斜面	G-24	D層	打製石斧	7.7	6.4	1.5	77.0	頁岩		分銅形、端部の一部に顕著な摩耗	167
605	東斜面	G-23	D層	打製石斧	10.3	6.7	2.5	184.2	ホルンフェルス		分銅形、小型	167

※水場遺構関連の層位の断面は第48~53図に対応

No.	出土位置	グリッド	層位	器種	法量				石材	被 熱	備 考	図版
					長さ	幅	厚さ	重さ				
606	東斜面	G-22		打製石斧	12.9	7.9	2.3	235.0	硬砂岩		分銅形	167
607	東斜面	G-25	D層	石錘	4.5	3.8	1.5	29.6	頁岩			167
608	東斜面	F-25	D層	石錘	3.9	3.1	1.0	13.1	頁岩			167
609	東斜面	J-27	IV層	磨石	11.8	4.9	3.6	332.7	流紋岩		磨2	167
610	東斜面	H-25		磨石	15.2	6.1	4.9	610.2	砂岩		断面三角柱状礫、磨3	167
611	東斜面	I-27		磨石	13.6	5.2	3.6	375.3	砂岩		磨2(顕著)	167
612	東斜面	H-24・25	縄文層	敲石	13.8	2.8	4.3	246.7	チャート		断面方形棒礫、 片側縁後部に微細剥離	167
613	東斜面	G-25		磨敲石	7.9	7.0	3.2	235.0	閃緑岩		磨1(微弱)、敲-1端	167
614	東斜面	G-25		磨敲石	8.3	3.9	2.9	145.6	砂岩		磨2(微弱)、敲-1端(微弱)	167
615	東斜面	E-22		磨敲石	11.6	6.0	4.0	402.0	砂岩		磨2(顕著)、 敲-2側(平坦面形成せず)	167
616	東斜面	H-27		磨敲石	11.9	3.9	3.0	210.6	頁岩		磨2、敲-1端+側面稜部	167
617	東斜面	H-25		磨敲石	13.2	4.5	3.2	228.0	千枚岩			167
618	東斜面	F-21		磨敲石	12.9	4.4	4.2	322.3	砂岩			167
619	東斜面	G-21	C層	磨敲石	12.5	5.2	3.6	328.2	安山岩		磨全面(顕著)、敲-2側+2端、 礫破損後も使用	167
620	東斜面	F-22	D層	磨敲石	13.0	3.8	3.8	212.8	硬砂岩		断面方形棒礫、磨全面、 敲-2側面(稜中心に顕著)	167
621	東斜面	G-22	縄文層	磨敲石	13.0	4.4	2.7	227.9	頁岩		磨2(顕著)、敲-両端(微弱)、 剥離は両極か	167
622	東斜面	G-20	E層	磨敲石	[7.1]	[4.3]	[3.1]	89.9	砂岩	有	磨1、敲-破断面縁辺	167
623	東斜面	G-21		磨凹敲石	[8.5]	8.5	[5.2]	490.9	安山岩		磨2(顕著)、凹1、敲-側面~端部、 敲B-1側	167
624	東斜面	H-27		(側面敲打系)敲石	10.4	8.0	4.1	498.7	閃緑岩	有	敲B-2側、磨1	168
625	東斜面	F-21	—	磨敲石	10.7	7.1	2.9	260.7	砂岩		磨2、敲B-2側、敲-ほぼ全周	168
626	東斜面	F-22	D層	磨凹敲石	8.6	4.9	2.8	186.9	砂岩		磨2(顕著)、凹2(A1・A1)一方は磨 より新しく他方は古い 敲-2端+1側	168
627	東斜面	F-20		磨凹敲石	9.3	6.6	2.7	239.4	斑れい岩		敲B-1側(剥離伴う)、 磨2、凹(A1・A1)	168
628	東斜面	G-25		磨凹敲石	13.9	6.8	2.9	406.4	砂岩		磨2(微弱)、凹1(C1)、 敲-1端(剥離伴う)	168
629	東斜面	G-24		磨凹敲石	15.6	7.3	3.1	454.0	安山岩		磨2(長軸擦痕)、凹2(C2・C2)、 敲-1側	168
630	東斜面	F-23	D層	磨凹敲石	15.3	5.2	2.9	367.8	結晶片岩		磨2(長軸擦痕)、凹2(C2・C2)、 敲-2端	168
631	東斜面	F-25	D層	磨凹敲石	11.9	5.9	2.8	327.3	緑泥片岩		磨2、凹1(C2)、敲-2端(破断面稜 線上)+2側縁(剥離伴う)、 石皿転用	168
632	東斜面	G-26		磨凹敲石	12.2	5.7	3.8	337.8	安山岩	有	磨2(顕著)、敲-2端+2側、 凹2(C1・C1)+2(C2・C2)	168
633	東斜面	H-22		磨凹敲石	[6.3]	[6.1]	3.3	117.8	溶岩		磨3(表裏+端)、凹2(A2・C2)、 敲-2側	168
634	東斜面	G-25	D層	磨凹敲石	11.2	3.9	2.1	147.0	緑泥片岩		石刀/石剣類の再利用、凹1(C1)	168
635	東斜面	G-25	D層	磨凹敲石	11.6	5.7	2.7	274.8	緑色岩		磨2(顕著)、敲-1端+1側(剥離伴う)、 磨製石斧から転用	168
636	東斜面	G-23	D層	砥石	[6.5]	[4.0]	1.2	36.9	砂岩		2面利用	168
637	東斜面	G-23	D層	台石	8.2	5.3	0.9	65.0	砂岩		2面(顕著)+1側面(擦痕あり)	168
638	東斜面	E-22	D層	台石	8.6	7.6	2.0	168.2	砂岩	有	2面利用(顕著)	168
639	東斜面	E-22	D層	台石	11.5	8.5	1.5	250.9	安山岩		2面極めて顕著、全面	168
640	東斜面	I-25	IV層	台石	13.4	9.3	2.1	312.1	頁岩		2面利用	168
641	東斜面	F-21	D層	石皿	[15.5]	[12.6]	9.3	1577.9	安山岩		2面利用(磨2・凹2)	168
642	東斜面	G-26		石核	5.2	8.9	8.3	377.3	頁岩			168
643	東斜面	G-24		磨製石斧	5.4	3.1	1.3	36.4	不明			168
644	東斜面			浮子	6.2	6.4	1.6	20.7	軽石		穿孔径6mm	168
645	東斜面			石棒	12.4	2.2	1.4	65.1	頁岩		小型両頭	168
646	東斜面	F-22	D層	石棒	[9.2]	1.7	1.4	39.5	粘板岩		端部も研磨	168
647	東斜面	H-25	C層	石剣	21.0	4.2	30.0	379.3	絹雲母片岩		磨2(顕著)、1側縁に剥離	168
648	東斜面	I-26・27	—	分割礫(敲石)	14.5	3.6	3.1	194.9	砂岩		分割後、破断面縁辺に敲打痕(微弱)	168
649	東斜面	F-23	D層	分割礫(敲石)	4.3	3.7	4.3	89.2	砂岩		敲-磨器をaとbに分割後、縁辺に敲 打痕(650と同一母岩)	169
650	東斜面	F-24	D層	分割礫(敲石)	4.2	4.0	3.1	75.6	砂岩		敲-磨器をaとbに分割後、縁辺に敲 打痕(649と同一母岩)	169
【西斜面】(第196~207図)												
722	西斜面			尖頭器	[6.6]	4.3	1.1	30.6	チャート			169
723	西斜面	D-18	D層	石槍	5.6	2.5	0.9	11.6	頁岩			169
724	西斜面	B-13		石鏃	[1.6]	[1.3]	0.4	0.7	チャート		無茎凹基	169
725	西斜面	E-18		石鏃	2.1	1.5	0.7	1.8	黒曜石		無茎平基	169
726	西斜面	B-13		石鏃	[0.9]	[1.0]	0.3	0.3	黒曜石		無茎平基	169
727	西斜面	D-17		石鏃	[2.4]	2.6	0.9	4.0	チャート		無茎平基	169
728	西斜面	D-19	D層	石鏃	3.2	1.4	0.9	1.8	黒曜石			169
729	西斜面	E-18	C層	石鏃	4.1	4.0	1.5	18.5	チャート			169
730	西斜面	D-16		搔器	4.8	3.4	2.1	31.5	頁岩		1側縁両面加工、片面自然面	169

No.	出土位置	グリッド	層位	器種	法量				石材	被熱	備考	図版
					長さ	幅	厚さ	重さ				
731	西斜面	E-17	D層	搔器	6.5	4.2	1.7	45.2	泥岩		刃部両面加工、側縁は片面加工、両面に自然面(一部摩耗)、刃部縁状痕	169
732	西斜面	C-18	D層	搔器	6.8	4.1	1.7	42.6	頁岩		2側縁片面、敲-磨器転用(旧磨痕)	169
733	西斜面	C-13		搔器	6.8	5.1	1.5	49.7	頁岩		1側縁両面、敲-磨器転用(磨痕顕著)	169
734	西斜面	B-13		削器	7.6	8.0	3.1	209.4	頁岩		2側縁片面、片面に自然面(磨痕)	169
735	西斜面	B-13		スクレイパー	2.7	1.7	1.3	5.2	黒曜石		1側縁片面	169
736	西斜面	D-18	CD層	スクレイパー	4.9	3.4	1.7	25.3	チャート		2側縁(一部両面)	170
737	西斜面	D-17		スクレイパー	7.0	3.0	12.0	14.7	頁岩		2側縁に微細剥離	170
738	西斜面	D-18	C層	スクレイパー	6.6	6.3	1.6	58.9	チャート		2側縁片面(部分)	170
739	西斜面	C-14		スクレイパー	[2.8]	4.2	0.7	3.7	頁岩		縦長剥片	169
740	西斜面	C-16		礫器	12.0	2.8	1.6	74.7	砂岩		扁平棒礫、1側縁	170
741	西斜面	C-13		スクレイパー	[9.7]	[4.3]	1.5	62.5	砂岩		2側縁両面、台石石皿類転用か、磨2(顕著)	170
742	西斜面	D-15		スクレイパー	12.6	4.6	1.7	131.9	絹雲母片岩		2側縁両面、扁平分割礫	170
743	西斜面	B-13		スクレイパー	6.9	4.5	3.1	116.9	チャート	有	3側縁加工	170
744	西斜面	D-18	縄文層	スクレイパー	4.8	4.0	1.1	21.8	硬砂岩		側縁全面に片面加工、一部つぶれ	170
745	西斜面	B-13		スクレイパー	4.9	7.6	2.7	64.8	チャート		1側縁両面(部分)	170
746	西斜面	D-16		スクレイパー	[6.1]	[5.1]	2.1	55.9	硬砂岩		1側縁片面、自然面に旧磨痕	170
747	西斜面			スクレイパー	[4.8]	[6.6]	0.6	28.9	絹雲母片岩		2側縁片面	170
748	西斜面	E-17	D層	スクレイパー	9.9	[7.2]	1.8	95.1	安山岩		粗製、3側縁片面	170
749	西斜面	E-18	D層	打製石斧	15.2	4.8	2.6	218.7	緑色岩		着柄痕、表裏研磨	170
750	西斜面	C-19	C層	打製石斧	8.4	6.5	1.7	89.2	泥岩		分銅形、片面原礫面(ツルツル、磨石等転用か)	170
751	西斜面	D-18	C層	打製石斧	10.3	5.8	2.5	159.7	ホルンフェルス		分銅形	170
752	西斜面	E-17	D層	打製石斧	10.6	8.6	2.6	291.7	ホルンフェルス		分銅形	170
753	西斜面	C-15		打製石斧	12.7	9.9	2.2	340.3	ホルンフェルス		分銅形	170
754	西斜面	D-18	縄文層	打製石斧	[10.1]	8.4	2.6	253.2	硬砂岩		撥形、片面原礫面(磨面)、側面+破断面敲打痕	170
755	西斜面	B-13	—	打製石斧	8.6	[6.5]	[3.0]	227.1	緑色岩	有	撥形(基部)、表裏に磨面、両側縁+端部敲打顕著	170
756	西斜面	E-18	C層	打製石斧	15.9	10.4	3.4	550.6	ホルンフェルス		杓文字形、原礫面(部分的)、刃部摩耗痕	170
757	西斜面	E-19		打製石斧	17.0	8.4	3.3	458.5	硬砂岩		2対の着柄痕、先端摩耗、片面原礫面	170
758	西斜面	E-17	—	打製石斧	20.0	10.1	4.1	922.4	硬砂岩		側縁着柄痕、片面原礫面	170
759	西斜面	C-15	—	打製石斧	[18.9]	8.2	3.1	446.2	ホルンフェルス		抉入、刃部欠損、原礫面一部	171
760	西斜面	C-15	—	打製石斧	17.5	7.0	2.4	337.8	ホルンフェルス		抉入、原礫面残存	171
761	西斜面	D-18	C層	礫器	18.9	10.3	4.2	889.6	硬砂岩		片面原礫面、側縁剥離+敲打	171
762	西斜面	D-16	—	礫器	[20.4]	6.4	2.9	487.2	安山岩		扁平礫、側縁剥離+ざらつきも	171
763	西斜面	D-18	縄文層	礫器	6.0	6.1	4.7	253.7	安山岩		磨3(表裏+側、顕著)	171
764	西斜面	D-17	C層	磨石	7.0	6.1	5.3	336.5	安山岩	有	多面体、全面	171
765	西斜面	D-15	—	磨石	10.8	3.5	2.5	126.6	泥岩		軟質の棒状礫、表裏面に長軸、側面に短軸方向の擦痕顕著	171
766	西斜面	C-13	—	磨石	14.6	3.9	3.4	257.1	頁岩		棒状礫、3面(全面)利用	171
767	西斜面	D-18	CD層	敲石	5.3	2.6	2.3	40.0	頁岩		両端利用	171
768	西斜面	D-18	C層	敲石	7.6	3.2	2.6	80.0	砂岩		2端+2面、表裏は帯状の敲打面	171
769	西斜面	B-13	—	敲石	8.3	4.3	3.2	126.6	砂岩		両端利用	171
770	西斜面	D-15	—	敲石	5.7	6.5	3.7	202.1	閃緑岩		破断面縁辺全面	171
771	西斜面	C-18	D層	磨敲石	8.2	3.6	2.8	99.4	安山岩		断面三角形棒状礫、磨全面(微弱)、敲-2端	171
772	西斜面	D-17	—	敲石 (磨製石斧転用)	10.7	3.4	3.5	194.3	緑色岩	有	全面磨面(研磨)、敲-2端(剥離片う)	171
773	西斜面		—	磨敲石	13.7	5.2	3.4	373.4	緑色岩		磨全面、敲-1端+1側	171
774	西斜面	D-18	C層	磨敲石	11.0	3.8	3.2	226.4	砂岩		磨3面(全面)、敲-両端	171
775	西斜面	D-17	—	磨敲石	11.1	4.7	2.7	202.4	砂岩		磨→敲の転用、磨全面、敲-両側+両端両側	171
776	西斜面	D-16	—	磨敲石	10.9	4.2	3.3	216.8	砂岩		磨2(敲打部除く)、敲-2(顕著)	171
777	西斜面	E-18	CD層	磨敲石	12.4	4.4	3.3	234.1	砂岩		磨ほぼ全面微弱、敲-端部後部側面かなり顕著	171
778	西斜面	E-18	—	磨敲石	10.5	5.5	3.5	297.8	砂岩		磨1(一部顕著)、敲-4側縁+上部破断面	171
779	西斜面	D-17	—	磨敲石	7.7	5.3	4.1	255.4	ホルンフェルス		磨2(ほぼ全面)、敲-1端	171
780	西斜面	C-17	—	磨敲石	8.5	5.3	3.4	247.5	砂岩		磨2面、敲-側面から端部(顕著)	171
781	西斜面	E-17	—	磨敲石	5.4	5.3	4.1	170.6	安山岩		磨3(表裏+側)、凹2(表A1・側A2)、敲-表面側面微細	171
782	西斜面	D-18	C層最下面	磨敲石	7.0	5.6	4.2	261.6	斑れい岩		磨2(表裏顕著)+2(側面弱い)敲-1側+1端	171
783	西斜面	D-17	—	磨敲石	11.4	8.9	[6.8]	965.8	閃緑岩	有	磨4(下端除く表裏両側、破断面にも)、敲-1端(顕著)	171
784	西斜面	D-18	D層	磨敲石	14.6	11.8	8.4	1825.2	砂岩		磨3(顕著)、敲-側縁	172
785	西斜面	E-19	C層	磨敲石	[12.6]	[8.8]	7.3	939.7	閃緑岩	有	磨全面(破損部除く)、敲-側面	171
786	西斜面	D-18	C層	磨凹敲石	6.8	6.8	3.0	200.6	安山岩		磨2(顕著)、敲-側面全周、表裏疎ら	172
787	西斜面	E-18	縄文層	磨凹敲石	7.1	8.0	3.7	353.4	閃緑岩		磨2(顕著、平坦面形成)、敲-側縁	172

No.	出土位置	グリッド	層位	器種	法量				石材	被 熟	備 考	図版
					長さ	幅	厚さ	重さ				
788	西斜面	D-17	D層	磨凹敲石	8.5	7.7	3.3	339.0	閃緑岩		磨2(顕著)、凹2(A1・C1)、 敲-側面全周	172
789	西斜面	E-18	CD層	磨凹敲石	9.1	8.4	5.0	634.9	安山岩	有	磨表裏+側面顕著、 凹表裏(A1+A1)、敲-両端顕著	172
790	西斜面	D-17	—	磨凹敲石	8.4	9.2	5.4	685.2	安山岩		磨2+側面全周、凹2(A2・A2)、 磨り稜線形成	172
791	西斜面	D-18	縄文層	磨凹敲石	10.1	8.9	5.4	708.7	安山岩	有	磨全面(顕著)、凹2(C1・C1) 一方は凹が磨り古い、敲-1端	172
792	西斜面	E-17	D層	磨凹敲石	8.7	7.3	5.0	438.7	安山岩		磨4(顕著)、凹2面(C2・A1)・1側(C2)、 敲-2端	172
793	西斜面	D-17	—	磨凹敲石	13.3	7.9	5.8	986.5	閃緑岩	有	磨全面(顕著)、凹1(C1)、 敲-1端(片側平坦面形成)	172
794	西斜面	D-17	—	磨凹敲石	11.7	6.8	5.0	651.9	安山岩	有	磨全面、敲-1端 両端に平坦面、 凹2(C2・C2)+2側(C2・C2)	172
795	西斜面	D-16	—	磨凹敲石	7.6	5.1	2.6	113.1	砂岩		凹1(A1)、敲B-1端(剥離伴う)	172
796	西斜面	C-18	D層	磨凹敲石	7.5	3.4	2.3	101.8	安山岩		磨全面、敲-表裏+2端(破断面も)	172
797	西斜面	D-18	C層	磨凹敲石	11.2	3.8	2.2	184.5	頁岩		磨2(顕著)、凹2(B2・B2)、 敲-2側(顕著)	172
798	西斜面	D-18	C層	磨凹敲石	6.2	7.8	5.2	383.4	安山岩	有	磨全面、凹2(C2・C2)+1側(C2)	172
799	西斜面	D-15	—	磨凹敲石	7.2	5.7	4.3	224.1	安山岩	有	磨2、凹2(A2・A1)+1(C2)	172
800	西斜面	D-19	C層(一部D層)	磨凹敲石	8.8	5.3	3.4	206.2	安山岩	有	磨1、凹1(C2)	172
801	西斜面	D-18	D層	(側面敲打系)敲石	11.8	7.4	4.8	640.9	安山岩		磨2(顕著)、凹2(C2・C2)、 敲-2端+1側	172
802	西斜面	D-18	C層	(側面敲打系)敲石	11.6	6.0	2.6	326.1	砂岩		磨2(顕著、光沢)、凹2(A1・A)、 敲-1端(微細剥離伴う)	172
803	西斜面	D-18	縄文層	(側面敲打系)敲石	11.6	5.9	2.8	325.7	緑色岩	有	磨2(顕著)、 敲B-2側+2端(剥離伴う)	172
804	西斜面	D-18	縄文層	(側面敲打系)敲石	16.3	5.0	3.3	378.0	緑色岩	有	磨全面、凹2(C2・B1)、敲-2側	172
805	西斜面	B-13	—	(側面敲打系)敲石	[7.1]	[5.2]	[2.5]	126.9	硬砂岩		磨2、敲B-2側(剥離伴う)	173
806	西斜面	D-17	C層	(側面敲打系)敲石	[6.8]	[2.7]	3.2	73.3	砂岩	有	磨2(顕著、整形か) 使用痕が破損部巻き込む	172
807	西斜面	E-17	D層	(側面敲打系)敲石	[11.9]	5.1	3.5	331.6	砂岩		磨2(顕著、光沢)、敲B-2側	172
808	西斜面	B-13	—	(側面敲打系)敲石	[6.1]	[4.7]	3.0	106.0	砂岩	有	磨2、敲B-1側	172
809	西斜面	D-19	C層	(側面敲打系)敲石	5.2	8.7	2.5	120.6	硬砂岩		磨1(顕著)、敲B-1端+1側	172
810	西斜面	D-17	CD層	(側面敲打系)敲石	7.3	6.0	2.9	157.1	硬砂岩		磨2、敲B-2側(剥離伴う)	172
811	西斜面	C-18	D層	(側面敲打系)敲石	7.6	5.4	2.1	161.2	緑泥片岩		磨2(顕著)、 敲B-2側+1端(剥離伴う)	172
812	西斜面	D-18	縄文層	(側面敲打系)敲石	10.1	7.7	3.0	377.0	緑泥片岩		石皿転用 磨2+1端、凹(C1・A1)、縁辺剥離	172
813	西斜面	E-18	縄文層	(側面敲打系)敲石	[12.7]	6.6	2.5	324.9	緑泥片岩		側縁二次加工、石皿転用	172
814	西斜面	C-15	—	石皿	[8.2]	[10.2]	[5.2]	313.1	溶岩		有縁、凹2(表裏)	173
815	西斜面	B-13	—	石皿	[9.8]	[9.1]	8.0	647.5	安山岩		有縁、凹1(裏)	173
816	西斜面	C-19	D層	石皿	[9.6]	[10.6]	8.4	896.5	安山岩	有	有縁、凹1(裏)	173
817	西斜面	E-17	—	石皿	[11.1]	[11.4]	3.6	361.9	安山岩		有縁、凹1(裏)	173
818	西斜面	B-13	—	石皿	[9.2]	[7.7]	5.9	341.1	溶岩		有脚、凹2(表裏)	172
819	西斜面	—	—	石皿	[19.9]	13.2	2.7	859.2	結晶片岩	有	2面利用(磨2、凹1)	173
820	西斜面	D-17	—	石皿	[14.6]	[9.9]	[1.8]	401.0	緑泥片岩		破損再生、1面利用(磨+凹)	173
821	西斜面	D-18	縄文層	台石	27.8	14.4	4.8	3010.0	閃緑岩		2面利用、磨2・凹1	173
822	西斜面	D-17	—	砥石	5.6	3.5	1.2	29.6	砂岩		磨2+2(端部は複数の平坦面形成、 剥離伴う)	173
823	西斜面	—	—	砥石	[5.8]	[5.6]	2.6	82.2	砂岩		2面+端部利用、2面に砥溝	173
824	西斜面	D-17	—	砥石	7.5	8.7	1.6	60.6	砂岩		2面ほぼ全面、片面に凹面形成	173
825	西斜面	B-13	—	砥石	8.8	5.3	1.7	79.0	安山岩		扁平礫(破損礫)利用、 長軸方向の擦痕	173
826	西斜面	D-18	CD層	砥石	[10.8]	[4.4]	[0.9]	35.3	粘板岩		磨1(長軸方向擦痕顕著)	173
827	西斜面	C-13	—	砥石	[8.8]	[6.9]	2.4	187.4	砂岩		側縁~端部剥離、 凹面に凹面となる磨面	173
828	西斜面	B-13	—	軽石製品	12.9	9.6	7.1	296.6	軽石		表裏面整形	173
829	西斜面	D-18	縄文層	軽石製品	9.0	7.7	5.5	102.5	軽石		表裏+側面整形	173
830	西斜面	—	—	軽石製品	4.9	4.4	3.1	21.3	軽石		表裏面整形	173
831	西斜面	D-18	縄文層	石棒	[8.9]	4.3	3.0	181.0	緑泥片岩	有	有頭石棒、破損	173
832	西斜面	D-18	縄文層	石棒	[8.0]	3.5	2.1	88.0	緑泥片岩	有	有頭石棒、頭部に交叉した刻線	173
833	西斜面	D-18	D層	石棒	[14.3]	[4.0]	[3.1]	235.7	凝灰岩	有	断面円形、石棒か	173
834	西斜面	D-17	—	石剣	[16.4]	[4.1]	2.0	198.5	結晶片岩	有	断面扁平、石刀/石剣類	173
835	西斜面	C-16	—	石剣	[11.3]	[2.0]	[1.3]	44.8	緑泥片岩	有	断面扁平、石刀/石剣類	173
836	西斜面	D-18	縄文層	敲石	[7.9]	[3.0]	[1.7]	70.0	緑泥片岩		断面扁平、石剣の転用	173
837	西斜面	D-18	C層最下面	独鈷石	[13.4]	6.8	4.5	446.5	安山岩	有	両部2箇所、両先端は欠損	173
838	西斜面	D-19	D層	磨製石斧	[4.2]	[3.5]	[2.4]	51.5	緑色岩			173
【遺構外】(第212~216図)												
85	遺構外	SJ59a	—	石鏃	[1.6]	[1.4]	0.3	0.6	黒曜石		無茎平基	174
86	遺構外	SJ101b	—	石鏃	2.3	[1.8]	0.7	2.2	チャート		無茎平基	174
87	遺構外	一括	—	石鏃	2.0	1.5	0.7	0.8	チャート		無茎凹基	174
88	遺構外	SR5	—	石鏃	2.3	1.9	0.4	1.3	チャート		無茎凹基	174
89	遺構外	SJ106b	2層	石鏃	2.4	1.4	0.4	0.7	頁岩		無茎凹基	174

No.	出土位置	グリッド	層位	器種	法量				石材	被熱	備考	図版
					長さ	幅	厚さ	重さ				
90	遺構外	SJ107		石鏃	2.6	1.4	0.6	1.9	チャート		有茎	174
91	遺構外	SD18		石鏃	2.7	1.4	0.3	0.7	チャート		有茎	174
92	遺構外	SJ102c		石鏃	[2.7]	1.3	0.4	0.8	頁岩		有茎	174
93	遺構外	SJ103a		石鏃	4.4	1.6	0.7	4.3	チャート		有茎	174
94	遺構外	SD18		石鏃	[4.5]	1.7	0.6	3.6	黒色安山岩		縁辺鋸歯状、有茎	174
95	遺構外	J-27		石槍	5.7	2.1	1.0	10.7	頁岩			174
96	遺構外	SJ103c		石錐	2.6	2.6	0.9	5.1	チャート			174
97	遺構外	SD50		石錐	2.9	2.3	0.7	3.2	チャート			174
98	遺構外	SJ112c		石錐	3.3	2.9	0.7	7.3	チャート			174
99	遺構外	SR5		スクレイパー	4.8	9.0	1.9	64.1	流紋岩		1側縁両面加工、片面自然面	174
100	遺構外(谷)	F-19	C層	スクレイパー	8.5	6.3	2.0	127.4	硬砂岩		片面原礫面(擦痕無数、剥離よりも新しい)	174
101	遺構外			スクレイパー	4.3	2.8	1.1	13.2	頁岩		2側縁片面加工	174
102	遺構外	I-25		スクレイパー	[5.7]	[5.0]	1.8	58.3	頁岩	有	2側縁(1側縁は両面)	174
103	遺構外(谷)	E-20	C層	微細剥離剥片	3.7	1.1	0.5	2.5	頁岩		小型剥片	174
104	遺構外(谷)	F-20	C層	打製石斧	10.3	5.1	1.5	102.8	粘板岩		分銅形、両端+側面摩耗(両端では特に顕著)	174
105	遺構外			打製石斧	[11.5]	11.7	2.6	383.1	硬砂岩		撥形か、刃部は使用により顕著に摩耗、側面着柄痕	174
106	遺構外			打製石斧	[15.8]	8.5	3.5	537.2	ホルンフェルス		表面に加工より古い磨面→台石類の転用か	174
107	遺構外(谷)			礫器	[10.5]	[11.4]	[2.7]	450.9	絹雲母片岩		石皿転用か、側縁両面加工	174
108	遺構外(谷)	E-18	C層	磨石	8.2	7.1	5.2	442.4	安山岩		磨2(顕著)、線状痕あり	174
109	遺構外			敲石	5.2	2.9	2.4	41.3	砂岩		2端	174
110	遺構外	C-26	台地縄文層	敲石	[5.3]	6.5	[5.1]	181.4	砂岩		破断面にわずかに磨り縁辺部利用の敲石	174
111	遺構外			敲石	18.6	6.0	5.7	752.0	砂岩		敲打痕(稜縁線上)ハンマー的	174
112	遺構外	H-27		磨敲石	6.9	5.4	5.3	274.2	砂岩		磨全面(4面で顕著)、敲-2端(一方は顕著)	174
113	遺構外(谷)	E-19	C層	磨敲石	5.7	4.9	3.1	147.7	砂岩		磨全面(剥離部含む)、敲-2端+1側縁	174
114	遺構外	E-19	—	磨敲石	[3.9]	[4.7]	3.4	75.8	砂岩		磨3(うち2面顕著)、敲-側面全体、破断面の縁辺部も利用	174
115	遺構外			磨敲石	[5.0]	9.2	5.5	389.6	閃緑岩		磨3(顕著)、敲-破断面縁縁辺顕著	175
116	遺構外(谷)	F-18	C層	磨敲石	9.8	5.0	1.6	117.3	砂岩		磨2(微弱)、敲-1側(突出物の1点利用)、敲打に伴う剥離あり	174
117	遺構外	G-26d		磨敲石	11.3	7.7	3.3	455.2	閃緑岩		磨2(顕著)、凹1(B1)、敲B-2側+1端(剥離伴う)	175
118	遺構外	J-27		磨敲石	11.4	4.7	3.2	275.2	安山岩		磨2(顕著)+1側(敲Bと共存)、敲B-2側(部分的)	174
119	遺構外			磨敲石	11.0	4.0	2.6	173.9	砂岩		磨2、敲-1端(剥離伴う)	175
120	遺構外		台地縄文層	磨敲石	14.7	3.9	2.9	220.4	砂岩		断面三角形棒状礫、縁辺に敲B(剥離伴う)	175
121	遺構外	F・G-22		凹敲石	[11.6]	4.1	4.0	272.1	砂岩		凹1(A1)極めて微弱、敲-1端顕著(剥離伴う)	175
122	遺構外			磨凹敲石	9.6	4.6	3.5	232.4	閃緑岩		磨2(ともに微弱)、凹1(A1)、敲-2端	175
123	遺構外(谷)			磨凹石	17.5	8.5	5.5	1182.0	流紋岩		磨全面(顕著、擦痕は長軸方向)凹1(A2、磨痕よりも古い)	175
124	遺構外			磨凹敲石	8.2	6.8	5.2	515.0	安山岩	有	磨2面+2側(顕著)凹2(A1+AI)、敲-2端(顕著)	175
125	遺構外(谷)	F-19		磨凹敲石	12.4	7.4	4.4	683.7	砂岩	有	磨2(顕著)、凹1(C1)、敲-2側+1端	175
126	遺構外(谷)	F-19	C層	磨凹敲石	10.2	7.9	4.9	472.2	安山岩	有	全体を整形、磨6面全面(表裏2面と他は質異なる)、凹1(A2)、敲-1端	175
127	遺構外(谷)	F-18	C層	石皿	[11.4]	[12.4]	6.2	608.8	安山岩		有縁、有脚か、中期末葉～後期初頭?、裏面凹痕	175
128	遺構外			石皿	[13.8]	[8.3]	[4.9]	357.4	安山岩	有	有縁、凹2(表裏)	175
129	遺構外(谷)	D-19	C層	石皿	[9.9]	[6.8]	4.6	224.5	溶岩		有脚、凹2(表裏)	175
130	遺構外(谷)		C層	台石	22.8	[18.6]	6.5	452.0	閃緑岩		2面利用(磨2、凹2)、磨は手前の端部にも	175
131	遺構外(谷)	E-18		台石	18.3	14.7	3.8	1835.6	閃緑岩		2面利用(顕著、端部側面に及ぶ)	175
132	遺構外			台石	30.4	13.7	7.6	4500.0	閃緑岩		2面利用(磨2、凹1)、磨顕著	175
133	遺構外(谷)	F-20c	C層	砥石	5.9	2.6	1.4	33.0	砂岩	有	小形扁平礫、破断面も摩耗、表裏2面(顕著、光沢)	175
134	遺構外			砥石	7.9	6.0	1.3	95.5	砂岩		2面利用(擦痕は長軸方向)	175
135	遺構外(谷)	E-19	C層	砥石	7.2	[4.9]	2.0	92.8	凝灰岩		破損礫利用、1面は顕著(長軸方向に擦痕・凹面形成)、他は微弱	175
136	遺構外			砥石	[16.1]	2.6	2.4	129.1	千枚岩	有	棒状礫、4面利用(2面は凹レンズ状、いずれも顕著)	175
137	遺構外(炭坑遺跡)			磨製石斧	[7.4]	[4.9]	[2.9]	139.7	閃緑岩			175
138	遺構外(谷)	F-19	C層	軽石製品	5.2	5.6	4.4	32.8	軽石		多面体に整形	175
139	遺構外	I-26b		浮子	[5.0]	5.2	1.7	5.9	軽石		紐掛け	175

第14表 木製品観察表

番号	器種	長さ	幅	厚さ(高さ)	木取り	備考	取上番号	図版
【第3号木組遺構】(第64・65図)								
1	杭	90.3	13.9	12.3	芯持丸木	杭先炭化	No.89	176
2	杭	[92.3]	10.6	9.4	芯持丸木	樹皮残存	No.39	176
3	杭	85.1	9.2	9.0	芯持丸木	上部炭化	No.49	176
4	横木	[83.1]	10.6	9.0	芯持丸木	杭先・上部炭化 右側面加工	No.17	176
5	杭	[71.1]	11.2	9.5	芯持丸木	樹皮残存 杭先炭化	No.60	176
6	横木	77.2	6.2	4.0	芯持丸木	炭化	No.90	176
7	杭	[83.6]	4.6	4.5	芯持丸木		No.73	176
8	杭	28.4	5.2	4.9	芯持丸木	杭先炭化	No.67	176
9	横木	[29.9]	4.4	3.9	芯持丸木		No.70	176
10	杭	[52.5]	8.5	8.3	芯持丸木	樹皮残存 杭先炭化	No.87	176
11	杭	53.9	8.0	6.7	芯持丸木	炭化	No.43	176
12	杭	57.1	10.1	8.6	芯持丸木	杭先炭化	No.22	176
13	杭	[67.0]	9.7	8.8	芯持丸木	杭先炭化	No.77	176
14	杭	75.2	9.3	8.1	芯持丸木	端部炭化	No.37	176
15	杭	[79.9]	10.3	6.6	分割材	上部炭化	No.34	176
16	杭	73.5	18.1	6.5	分割材	下部炭化 上部加工	No.23	176
17	杭	[63.1]	10.7	6.0	芯持丸木	樹皮残存 18と接合 分割して加工したか	No.56	176
18	杭	[64.2]	11.2	4.7	分割材	樹皮残存 裏面くさび痕 17と接合	No.27	176
19	杭	[56.5]	14.8	3.8	分割材	全面炭化	No.42	176
20	横木	48.4	9.5	9.2	分割材	炭化	No.18	176
【第4号木組遺構】(第74・75図)								
1	杭	[82.8]	6.2	5.7	芯持丸木	年測：第V章2節 樹種：クリ(第V章5節)	No.37	177
2	横木	56.2	3.2	2.5	芯持丸木	樹皮残存	No.24	177
3	杭	[46.0]	4.0	3.2	芯持丸木	杭先炭化	No.36	177
4	杭	[34.1]	9.1	5.3	分割材	杭先炭化	No.150	177
5	杭	26.3	8.3	4.8	分割材	一部炭化	No.754	177
6	横木	[24.4]	10.0	5.9	分割材	炭化	No.763	177
7	横木	44.0	12.1	5.1	分割材	両端炭化	No.14	177
8	横木	23.7	5.6	2.3	分割材		No.147	177
9	杭	[22.2]	4.3	2.1	分割材	裏面炭化	No.34	177
10	杭	[16.0]	3.1	1.0	分割材		No.40	177
11	杭	[65.0]	7.4	6.3	芯持丸木	杭先炭化	No.110	177
12	杭	[64.2]	7.2	6.1	芯持丸木	樹皮一部残存 杭先炭化	No.62	177
13	杭	58.7	5.9	5.3	芯持丸木	杭先炭化	No.199	177
14	杭	56.5	6.4	5.8	芯持丸木	杭先炭化	No.189	177
15	杭	52.7	5.1	4.1	芯持丸木	杭先・節部分炭化 樹皮残存	No.65	177
16	杭	44.1	9.4	8.4	芯持丸木		No.177	177
17	杭	[42.8]	5.0	5.1	芯持丸木	樹皮残存	No.68	177
18	杭	41.6	5.0	4.3	芯持丸木		No.116	177
19	杭	[40.6]	6.3	5.7	芯持丸木	樹皮残存	No.94	177
20	杭	[29.1]	7.7	6.9	芯持丸木	樹皮残存	No.256	177
21	杭	21.0	3.6	2.9	芯持丸木		No.257	177
22	杭	[21.3]	3.4	3.1	芯持丸木	杭先炭化	No.72	177
23	杭	[16.7]	5.5	4.4	芯持丸木	杭先炭化	No.222	177
24	下面杭材	66.8	11.1	4.6	分割材	炭化(中心部も) 樹種：クリ(第V章5節)	No.184	177
25	杭	[43.4]	16.0	8.0	分割材		No.242	177
26	杭	[38.8]	9.5	4.3	分割材	杭先炭化	No.99	177
27	杭	34.8	9.7	5.1	分割材	杭先炭化	No.78	177
28	杭	29.9	17.5	8.4	分割材		No.191	177

番号	器種	長さ	幅	厚さ (高さ)	木取り	備考	取上番号	図版
29	杭	54.3	8.5	4.5	分割材		No.81	177
30	杭	48.4	4.8	4.0	分割材		No.107	177
31	杭	48.0	10.1	6.4	分割材		No.90	177
32	杭	49.6	9.6	8.0	分割材	杭先炭化	No.126	177
33	杭	47.6	10.2	7.3	分割材	先端炭化	No.167	177
34	杭	44.3	6.7	5.3	分割材		No.73	177
35	杭	42.7	11.1	2.6	分割材		No.176	177
36	杭	[39.8]	11.8	2.3	分割材		No.231	177
37	杭	38.2	6.0	2.2	分割材		No.193	177
38	杭	[26.1]	[4.5]	[1.5]	柱目		No.45	177
39	杭	[19.7]	6.1	5.7	芯持丸木		No.53	177
40	杭	[15.1]	4.6	2.4	分割材		No.51	177
【第5号木組遺構】(第85~87図)								
1	掘り棒か	43.9	5.3	3.9	分割材	樹種：コナラ属クヌギ節 (第V章5節)	No.143	179
2	不明木製品	[31.2]	3.8	2.5	板目	樹種：コナラ属クヌギ節 (第V章5節)	No.145	179
3	丸木材	42.1	1.9	1.8	芯持丸木	折損 (分割)、ともに木組内上面で出土	No.36・40	179
4	杭	[87.0]	10.2	9.8	芯持丸木	杭先炭化 樹皮残存	No.50	178
5	杭	83.9	9.2	9.1	芯持丸木		No.49	178
6	横木	[47.9]	4.3	2.5	芯持丸木	上部炭化	No.90	178
7	杭	[13.9]	4.6	3.5	芯持丸木	杭先平滑	No.136-1	178
8	杭	63.0	9.4	5.1	分割材	樹皮残存	No.59	178
9	横木	90.0	5.8	4.2	分割材		No.116	178
10	杭	[88.1]	9.3	8.3	分割材		No.65	178
11	杭	85.9	8.8	7.9	分割材		No.48	178
12	杭	[83.2]	9.4	4.5	分割材	歪みあり 樹皮残存	No.64	178
13	杭	39.2	7.8	4.8	分割材		No.56	178
14	杭	32.7	8.2	3.5	分割材		No.144	178
15	杭	[81.8]	9.5	8.0	芯持丸木	杭先炭化	No.67	178
16	杭	77.0	12.2	10.8	芯持丸木	樹皮残存 炭化 柄穴1	No.75	178
17	杭	69.4	10.4	9.6	芯持丸木	上下端炭化 上面抉り 柄穴1	No.98	178
18	杭	64.1	11.9	7.4	芯持丸木	杭先炭化 樹皮残存	No.79	178
19	杭	61.7	10.9	10.0	芯持丸木	上面抉り	No.106	178
20	杭	57.8	10.0	7.3	芯持丸木	杭先炭化 杭先仕口状 転用か	No.105	178
21	杭	51.1	6.7	5.6	芯持丸木	炭化	No.70	178
22	杭	[46.6]	7.2	6.5	芯持丸木		No.71	178
23	杭	[41.1]	6.2	6.1	芯持丸木	樹皮残存	No.66	178
24	杭	[16.5]	6.1	5.9	芯持丸木		No.103	178
25	杭	47.6	8.5	5.5	分割材		No.86	178
26	杭	46.2	9.6	3.2	分割材		No.85	178
27	杭	[60.6]	9.2	7.9	芯持丸木	杭先・木の節炭化 杭先は炭化後加工	No.122	178
28	杭	[45.7]	10.5	9.1	芯持丸木	杭先炭化	No.95	178
29	杭	[20.5]	[4.5]	4.0	芯持丸木	杭先平滑	No.129-1	178
30	杭	[24.8]	6.9	6.5	分割材		No.739	178
【第2号木道状遺構】(第91図)								
9	杭	51.5	8.3	8.5	芯持丸木		2-3	178
10	杭	47.7	10.0	7.4	芯持丸木	樹皮残存	2-2	178
11	杭	[44.6]	6.3	5.7	芯持丸木		2-10	178
【開削部】(第101図)								
68	丸木弓	[102.8]	2.3	—	芯持丸木	年測：第V章2節 樹種：イヌガヤ (第V章5節)	丸木弓	179
【水場遺構一括】(第120図)								
286	杭	[20.8]	3.1	2.7	芯持材	杭先炭化、D-20 (北壁ベルト)	—	178
287	杭	16.3	4.3	2.5	分割材	杭先炭化、D-20 (開削部層位なし)	—	178

報告書抄録

ふりがな	おぼやしはっそくいちいせきよん							
書名	小林八束1遺跡Ⅳ							
副書名	総合交付金（河川）工事（小林調節池）埋蔵文化財発掘調査報告							
シリーズ名	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書							
シリーズ番号	第476集							
編著者名	加藤 隆則							
編集機関	公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒369-0108 埼玉県熊谷市船木台4丁目4番地1 TEL 0493-39-3955							
発行年月日	西暦2022（令和4）年3月22日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 。'。"	東経 。'。"	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おぼやしはっそくいせき 小林八束1遺跡 (第5次)	さいたまけんくきし 埼玉県久喜市 しょうぶまちおぼやし 菫蒲町小林 あざはっそくほん 字八束4795番 ちほか 地他	11232	044	36°03'28"	140°04'03"	20141001～ 20150327	2,200	調整池 建設 記録保存 調査
おぼやしはっそくいせき 小林八束1遺跡 (第6次)	さいたまけんくきし 埼玉県久喜市 しょうぶまちおぼやし 菫蒲町小林 あざはっそくほん 字八束4805番 ちほか 地他	11232	044	36°03'26"	140°05'58"	20170703～ 20180331	4,430	調整池 建設 記録保存 調査
おぼやしはっそくいせき 小林八束1遺跡 (第7次)						20180401～ 20190131		
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
小林八束1遺跡 (第5～7次)	集落跡	縄文時代	住居跡	2軒	土器・土製品・ 石器・石製品・ 木製品	台地縁辺に住居や土壌からなる堀之内式期の集落を検出。低地部は谷と斜面があり、斜面部は後期から晩期の遺物包含層が形成される。東の谷は自然地形を大幅に改変し、後期前葉から晩期中葉頃までの木組遺構や木道状遺構といった水場遺構を形成。		
		古墳時代	住居跡	21軒				
			焼土跡	2基				
			集石	1基				
			土壇	59基				
			溝状遺構	1条				
			ピット	47基				
			水場遺構	1箇所				
			木組遺構	3基				
			木道状遺構	2基				
			導水溝状遺構	3条				
			住居跡	21軒	土師器・土製 品・石製品・木 製品	台地縁辺では、南側から続く古墳前期の集落跡を検出。集落域はその後、方形周溝墓からなる墓域へ移行する。東の谷では杭列や木製品集中を検出したほか、北の谷では木組遺構を検出した。		
			方形周溝墓	1基				
			溝跡	5条				
			土壇	23基				
			ピット	65基				
			杭列	1基				
			水場遺構	2箇所				
			杭列	1基				
			木製品集中					

所 収 遺 跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特 記 事 項
小林八束1遺跡 (第5～7次)	集落跡	古代	炭焼窯跡 4基 土壇 3基 溝跡 1条 ピット 6基	須恵器	台地の縁辺で炭焼窯跡4基を検出。1基は単独、ほか3基は古い窯跡を利用しながら築窯されている。
		中・近世	溝跡 6条 土壇 1基	陶器・磁器・獣骨	堆積の進んだ斜面に溝が形成された。

要 約

小林八束1遺跡は、埼玉県東部の大宮台地に位置し、埋没したローム台地上に形成されている。遺跡形成後の地盤の沈降現象と後世の沖積作用の結果、遺構面は現地表から2m下で見つかった。これまでに第1～4次調査が実施され、第356集、第442集、第457集の3冊が刊行されている。今報告は第5～7次の調査成果である。

第5～7次調査区は遺跡範囲の北側に位置し、西側は第2次と、東側は第3・4次調査区と隣接する。調査の結果、南側から続く台地の縁辺（北面する緩斜面）や、これを東西に分断する、北向きに開口する谷地形（東の谷と北の谷）などの複雑な地形が現われ、縄文時代から中世にかけて、地形に応じた様々な土地利用の痕跡が残されていた。

縄文時代の遺構は、台地側では後期前葉の住居跡、早期～後晩期の土壇やピット、焼土跡や集石遺構を検出した。一方、低地部の東の谷には、クルミやクリ等の多量の堅果類や、流水環境を思わせる砂粒を多く含んだ黒色の粘質土中に、縄文時代後期前葉から晩期中葉頃の木組遺構や木道状遺構をはじめとする木組施設や、導水溝や開削部（流路底面の大規模な掘削痕）といった水場を維持するための多様な痕跡を確認した。谷に面する白色粘土の露頭には後晩期の粘土採掘坑と見られる土壇群も形成された。斜面地は東の谷で分断され、東側（東斜面）には後期前葉頃の、また西側（西斜面）には後期前葉から晩期中葉頃までの遺物包含層が形成されていた。

古墳時代前期は、南側の第3・4次調査区から連続する住居跡や方形周溝墓を確認した。両者の重複関係から、当該地点が居住域から墓域へ変遷したことが確認された。なお、墓域は今報告の調査区内で完結し東方へは延びないが、居住域はさらに東方へ延びていくことが確実視される。低地部では、東の谷と北の谷に水場遺構が形成された。このうち東の谷の水場遺構は、縄文後晩期の水場遺構の埋積後の上部に形成されたものである。この頃の水場の環境は、縄文期のような、水が常時こんこんと湧き出す環境ではなく、帯水（低湿地）環境にあったようで、湧水点付近には土橋状の木組遺構（第457集）、また下流部には谷を横断する杭列が位置し、その間には土師器を含む多量の木質遺物が残されていた。木製品は農耕工具や建築材を中心に、未製品や被熱した材、自然木等を多数含んでおり、谷部の湿地を利用した貯木場のような機能が想定される。

奈良・平安時代の遺構は台地の縁辺で、斜面下方に開口する炭焼窯跡を4基検出した。第2号炭焼窯跡は単独で、第3～5号炭焼窯跡は重複関係がある。既存の炭焼窯跡と前庭部を共有する、廃絶後の炭化室を新窯の前庭部として利用するといった、新窯構築時の特有のあり方を見せ、大宮台地の周辺事例との共通性を見せている。

古代末以降、当該地点における人的痕跡は少なくなり、中世以降は、東斜面に数条の溝や土壇が形成されたに過ぎない。遺物も斜面地で数片の陶磁器類を検出するのみである。この頃、遺跡周辺での堆積環境が大きく変化したらしく、それまでの黒色土（基本層Ⅲ層）に代わり、灰褐色土（同Ⅱ層）が遺跡全体を覆う。台地部では分厚いシルト土として現れ、低地部では有機物を多く含んだ粘質土と砂質土の薄層の互層として観察される。低地部では3～4m近く堆積し、江戸時代の中頃（天明期）までには、辺り一帯が微窪地となったことが、上部に堆積するAs-A（浅間A軽石）により明らかとなった。

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第476集

小林八束1遺跡Ⅳ

総合交付金（河川）工事（小林調節池）

埋蔵文化財発掘調査報告

（第1分冊）

令和4年3月15日 印刷

令和4年3月22日 発行

発行／公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

〒369-0108 熊谷市船木台4丁目4番地1

0493（39）3955

<https://www.saimaibun.or.jp>

印刷／朝日印刷工業株式会社